

会 告

平成 27 年度日本水産学会秋季大会

I. 平成 27 年度日本水産学会秋季大会の案内

1. 申し込みについて

本大会への申し込みは、日本水産学会ホームページ (<http://www.jsfs.jp/>) の「大会ご案内」からお手続き下さい。大会参加費、会員交歓会費など大会関係の諸費用は前納とさせていただきます。大会参加ならびに研究発表申し込み方法の詳細につきましては、ホームページの参加申し込み要領をご参照下さい。

賛助会員からの参加者については 1 団体につき 2 名まで登録可能とし、これらの方々は演者として発表していただくことが可能です。

2. 日時および会場

日時 平成 27 年 9 月 22 日(火)～9 月 25 日(金)

会場 東北大学川内北キャンパス (〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41, 大会会場交通案内図参照)

3. 締切期日

1) 研究発表される方

研究発表申し込みと講演要旨提出の締切日は、いずれも平成 27 年 7 月 15 日(水)です。ご注意ください。

- | | | |
|--|---|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 参加申し込み (ホームページ経由) ② 研究発表申し込み (ホームページ経由) ③ 大会参加費・会員交歓会費などの送金 (原則としてホームページ経由) ④ 講演要旨原稿の送付 (原則としてホームページ経由) | } | …………平成 27 年 7 月 15 日(水) 必着 |
|--|---|----------------------------|

2) 研究発表されない方

- | | | |
|--|---|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 参加申し込み (ホームページ経由) ② 大会参加費・会員交歓会費などの送金 (原則としてホームページ経由) ③ 大会不参加者の講演要旨集購入の申し込み・送金
(原則としてホームページ経由) | } | …………平成 27 年 7 月 31 日(金) 必着 |
|--|---|----------------------------|

4. 大会実行委員会

大会委員長 佐藤 実 (東北大学大学院農学研究科)

問い合わせ先

〒981-8555 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町 1-1, 東北大学大学院農学研究科

総務担当 片山知史 TEL : 022-717-8729

FAX : 022-717-8731

E-mail : jsfs2015septembermeeting@gmail.com

5. 日 程 (案)

- 9 月 21 日 (月) 日本水産学会理事会特別シンポジウム (大会関連行事)
 - 9 月 22 日 (火) 理事会, シンポジウム, ミニシンポジウム, 水産増殖懇話会講演会, 漁業懇話会委員会講演会, 水産環境保全委員会企画研究会等
 - 9 月 23 日 (水) 口頭発表, ポスター発表, 会員交歓会等
 - 9 月 24 日 (木) 口頭発表, ポスター発表等
 - 9 月 25 日 (金) シンポジウム等 (第三回日中韓水産学会合同シンポジウム)
 - 9 月 26 日 (土) 復興エリア見学エクスカージョン (大会関連行事)
- 日程未定の行事 (大会中)
- ・講演会・研究集会：水産教育推進委員会勉強会
 - ・委員会：水産教育推進委員会, 東日本大震災災害復興支援検討委員会, 学会賞選考委員会, シンポジウム企画委員会, 男女共同参画推進委員会, 会計担当者研修会, 水産政策委員会, 国際交流委員会, 企画広報委員会, 編集委員会

6. 技術士 CPD 行事参加票について

技術士の方で技術士 CPD 行事参加票が必要な方は、大会受付近くに配布所を設置しますのでご利用ください。

II. 参加申し込み要領

研究発表申し込みと講演要旨提出の締切日は、いずれも平成 27 年 7 月 15 日（水）です。ご注意ください。

1. 本大会に参加される方は研究発表の有無に関わらず、日本水産学会のホームページ (<http://www.jsfs.jp/>) を開いて、「大会ご案内」から参加申し込みを行って下さい。参加および研究発表の申し込みは、ホームページ以外の方法では受け付けませんのでご注意ください。また参加申し込みと同時に、大会参加費、会員交歓会費を納入して下さい。参加費、会員交歓会費の支払いは、原則としてクレジットカードでの決済とします。

申し込み時には、水産学会の会員番号が必要です。会員名簿に、あるいは学会誌を送付している封筒の宛名シールに、会員番号が表記されていますので、予めご確認下さい。なお、Web 上では会員番号の確認をすることはできません。会員番号をお忘れになった方は、日本水産学会事務局（〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学内）まで、お問い合わせ下さい。

なお、参加申し込み時に、復興エリア見学エクスカージョン参加申し込みを受け付けます。ただし、人数を制限する場合がありますので、予めご了承ください。

2. 参加申し込み手順

- 1) 日本水産学会のホームページ (<http://www.jsfs.jp/>) を開いて、「大会ご案内」欄より指示に従ってお申し込み下さい。
- 2) 申し込みが終了すると、ID とパスワードが発行されます。この ID とパスワードを使って申し込み内容の修正や取消ができます。受付終了と同時に、受領確認メールが配信されます。メールが届かない場合は正常に登録されていない可能性もありますので、必ず受信をご確認下さい。受信を確認できない場合は、8 のトーヨー企画までお問い合わせ下さい。

講演題目には、機種依存文字（ローマ数字、半角カタカナ、○囲み数字等）は使用できません。使用した場合、印刷時に別の文字または空白になりますのでご注意ください。また、イタリック、上付き等の文字修飾は使用できませんので、文中でタグおよび ISO コードを用いてイタリック等であることを示して下さい。詳しくはホームページ上の案内をご覧ください。

(例) *Pinctada fucata*→*<i>Pinctada fucata </i>* H₂O→H₂O

- 短縮題目は全角 20 字以内として下さい。
- 連名の研究発表は演者だけが申し込んで下さい。
- 部門・細目はⅢ-3 を参考に選択して下さい。

3. 研究発表の申し込みは、次の「日本水産学会大会規程」(抜粋)に従って下さい。

大会規程 (抜粋)

- 1) 原則として未発表の研究に限る。
- 2) 申し込み者および演者は、本学会の正会員、外国会員、名誉会員、学生会員および賛助会員（予め登録した招待者2名）に限る。ただし、これらの会員以外の個人が共同発表者として名を連ねることは差し支えない。
- 3) 同一の演者は、1 回の大会において 2 題目を限度として発表できる。
- 4) 共同発表者以外による代読は、座長がやむを得ぬ事情と認めた場合の他はこれを認めない。
- 5) 申し込みは大会委員長の指定した方法による。

注 1：申し込み者および演者は学会員に限りますので、本学会に未加入の方は発表申し込みと同時に入会申し込みをして下さい。日本水産学会ホームページ (<http://www.jsfs.jp/>) の入会案内に申込書があります。ご記入の上、日本水産学会事務局宛（〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学内）に郵送して下さい。

4. 参加申し込みおよび研究発表の申し込みの確認

申し込みが終了すると、学会より個人登録情報 (ID・パスワード)、参加登録内容・研究発表の講演題目、支払い内訳が申込者宛にメールで通知されます。また、入金確認が取れた方には、8 月下旬に①確認書、②講演要旨集引換券・名札・領収書が郵送されます。

なお、事前入金が確認されませんと、大会参加費の割引が適用になりませんので、ご注意ください。また、水産教育・理科教育支援の一環として、高校生および付き添いの先生が参加される場合は、大会実行委員会にお問い合わせください (jsfs2015septembermeeting@gmail.com)。

5. 大会参加費 (不課税)

- 正会員 9,000 円 (当日 11,000 円)
- 学生会員 4,000 円 (当日 5,000 円)

非会員 14,000 円 (当日 16,000 円)

(大会参加費には、講演要旨集が一部含まれています)

6. 会員交歓会

会員交歓会を下記の通り行います。参加申し込み時にホームページよりお申し込み下さい。

日時：平成 27 年 9 月 23 日(水) 18:30~20:30 (予定)

会場：TKP ガーデンシティ 仙台 (<http://gc-sendai.net/>) (仙台駅西口 AER21 階)

会費：7,000 円

7. 大会参加費・会員交歓会費の支払いは、原則として大会ホームページ経由のインターネットによるクレジットカード決済をお願い致します。インターネットによるクレジットカード決済が不可能な場合は、七十七銀行 北仙台支店 (店番 257) 口座番号 普通 5623464 口座名 平成27年度日本水産学会 秋季大会 代表 佐藤 実 (ハイセイニジュウナナネンド ニホンスイサンガツカイ シュウキタイカイ ダイヒョウ サトウミノル) へ振込みで送金して下さい。振込み人名義には大会登録番号に続き、参加者本人のフルネームを記載して下さい (例：1234 センダイシロウ)。なお、一度納入された大会参加費、会員交歓会費、講演要旨集代はお返し致しません。ただし、大会に欠席された方には、後日講演要旨集を 1 部郵送致します。

8. インターネットホームページからの参加申し込み、研究発表申し込み、参加費、会員交歓会費支払い等の業務は、トーヨー企画株式会社に委託してあります。これらに関するお問い合わせ (登録・お支払い、申し込み手順、操作方法、原稿送付等に関するお問い合わせを含む) は下記へお願い致します。

トーヨー企画「平成 27 年度日本水産学会秋季大会」登録受付係

TEL：03-3262-6605 FAX：03-3262-6705 E-mail：jsfs@gakkai-web.net

9. その他

- 1) 昼食：大会期間中は東北大学川内生協食堂がご利用頂ける予定です。
 - 2) 宿泊：仙台市内外の宿泊施設が大変混み合っており予約ができない状況ですが、宿泊に関する情報を日本水産学会 HP 内の秋季大会案内に随時掲載する予定です。
 - 3) 大会期間中に関連学会等で会場を使用する場合は、平成 27 年 7 月 15 日 (水) までに大会実行委員会にご連絡下さい。
 - 4) 大会期間中、託児所を開設いたします。詳細をお知りになりたい方、ご利用を希望される方は平成 27 年 7 月 15 日 (水) までに大会実行委員会にご連絡ください。事前予約制となっております。なお費用の一部をご負担いただきます。
 - 5) 出展企業展示、広告掲載、賛助金については、大会実行委員会までご連絡ください。手続き等のご相談をさせていただきます。
- ※3)~5) に関する問い合わせ先：大会実行委員会 (jsfs2015septembermeeting@gmail.com)

Ⅲ. 研究発表要領

研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。

1. 口頭発表

口頭発表の資料提示は、PDF ファイルを PC 用液晶プロジェクターにより投影して行います。PC の OS は Windows 7 です。他のプレゼンテーションソフトや OHP は使用できません。詳細は申込者にご連絡するとともにホームページ上に掲載します。

1 題の講演時間は 10 分で、討論を含めて 12 分で終了とします。

動画は使用できません。動画の使用を希望される方、より長い時間の討論を希望される方は、ポスター発表での申し込みをお願い致します。ポスター会場では電源は用意致しません、各自の PC を利用されることは構いません。

口頭発表、あるいはポスター発表の申し込みが多数の場合には、ポスター発表、あるいは口頭発表への変更をお願いすることもあります。その際は申し込み順を加味して変更を依頼致しますのであらかじめご了承下さい。なお、演者による発表日時指定はお断りします。

- 1) 予め、プレビューブースにて動作確認をお願い致します。ファイルによるトラブルは演者の責任とします (講演時間中にトラブルが生じた場合は座長の指示により、午前、午後の最後の予備時間に回っていただく場合があることを予めご了承下さい)。
- 2) PDF ファイルを保存した USB メモリーを各自会場にご持参下さい。従来の CD-R も受け付けますが、できるだ

け USB メモリーをご持参下さい。使用される CD-R には、講演番号と発表者氏名を必ずお書き下さい。記憶媒体として、MO, ZIP, DVD 等は使用できません。PDF のファイル名は、半角数字を用いてご自分の講演番号（例：123.pdf）としてください。USB メモリーには、発表用 PDF ファイル以外のものを保存しないで下さい。ただし連続する発表に限り、複数のファイルを同一の USB メモリーに保存しても構いません。USB メモリーについては、各自で必ずウィルスチェックを行ってからご持参下さい。

3) 口頭発表用ファイルの提出方法と発表要領につきましては、申込者にご連絡するとともにホームページ上に掲載しますのでご確認下さい。

2. ポスター発表

今大会でのポスター発表は 23 日と 24 日の 2 日間行います。

- 1) 展示用パネルとして、縦 180 cm×横 90 cm 程度の大きさのものを用意します。
- 2) パネル左上隅に、大会で用意したプログラム番号票を貼りますので、そのパネル全面をご使用下さい。
- 3) ポスターには、講演題目、発表者名、所属名を明示願います。
- 4) ポスター会場には、画鋏などを用意しますのでご利用下さい。展示物は発表者自身で貼り付け、展示時間終了後、直ちに撤去して下さい。

3. 研究発表部門および細目

部門番号	細目
1. 漁業	a. 漁具 b. 漁法 c. 漁場 d. 資源 e. 漁海況 f. 音響・計測 g. その他
2. 生物	a. 分類 b. 形態 c. 生理 d. 行動生理 e. 生態 f. ネクトン g. ベントス h. プランクトン i. 海藻 j. その他
3. 増養殖	a. 餌料生物 b. 種苗生産 c. 栄養・飼料 d. 養成 e. 増養殖環境 f. 魚病 g. 遺伝・育種 h. 生体防御 i. その他
4. 環境	a. 富栄養化 b. 環境微生物 c. 水域汚染 d. 生体汚染 e. 有害・有毒プランクトン f. その他
5. 化学・生化学	a. タンパク質・酵素・核酸 b. 脂質・糖質 c. エキス成分 d. 色素・ビタミン e. その他
6. 利用・加工	a. 食品加工 b. 鮮度保持 c. 食品衛生 d. 食品微生物 e. 生理活性物質 f. その他
7. 社会科学	a. 水産経済 b. 水産経営 c. 水産政策 d. 水産開発・国際協力 e. 水産教育 f. 地域貢献 g. その他

プログラム編成の都合上、ご希望の部門・細目に添えない場合もあります。

4. プログラム

プログラムは、Web ページに掲載予定です。ご利用の方は各自で印刷してお持ち下さい。

5. 講演要旨

- 1) 一般講演（口頭およびポスター発表）の講演要旨原稿は下記の原稿作成要領に従って、PDF 形式でホームページ上から送信して下さい。原稿のメール添付での送付は受け付けません。参加申し込みや研究発表申し込み後に講演要旨をお送りいただく場合は、申し込み時に発行された ID とパスワードを使ってアクセスして下さい。原稿作成要領が守られていない原稿は、受理できない場合があります。
 - a) 全体の記入枠は、縦 15 cm, 横 10 cm に設定して下さい。刷り上がりは原稿の約 4/5 になります（A4 版 1 頁に 4 題を掲載します）。
 - b) 要旨は、目的、方法、結果に分けて 700 字程度で具体的に記述して下さい。英文の場合は英文講演題目の下に和文の講演題目を（ ）を付けて付記して下さい。
 - c) 講演題目と氏名は中央揃えで書き、氏名のあとに所属の略称を（ ）で囲んで入れて下さい。連名の場合は“・”で連ね、講演者の左肩に○をつけて下さい。講演題目および研究発表者名の下は、それぞれ 1 行ずつあけて下さい。
 - d) 締切後の講演題目・演者・所属の変更および講演要旨の差し替えは受け付けませんのでご注意下さい。
 - e) PDF 形式で送ることが不可能な方は、ワープロ等を使用して印字したものを下記まで 3 部郵送して下さい。原稿はそのままオフセット印刷し、講演要旨集（A4 版）を作成します。用紙は A4 版の上質紙を縦に使用して下さい。また、印字が不鮮明なものはご遠慮下さい。

送付先 〒102-0072 千代田区飯田橋 1-5-8 アクサンビル 2F
 トーヨー企画株式会社内 水産学会講演申し込み事務局
 E-mail : jsfs@gakkai-web.net Tel : 03-3262-6605 Fax : 03-3262-6705

講演要旨原稿記入例

2) 事前に申し込んで頂いた方には、講演要旨集引換券、名札、領収証を郵送致します。ご来場の際には、講演要旨集引換券と名札を切り取って必ずご持参下さい。受付で講演要旨集1部と名札ホルダーをお渡しします。

平成 27 年度秋季大会のシンポジウム開催について

大会期間中、下記のシンポジウム・ミニシンポジウムを開催致します。お誘い合わせの上、ご来場下さいますようご案内致します。なお全てのシンポジウムは無料で、一般の方もご自由に参加していただけます。

I 主催 シンポジウム企画委員会

9月22日(火)

ミニシンポジウム「フグ食の安全性確保—日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し」

企画責任者：長島裕二・荒川 修

ミニシンポジウム「水産分野におけるキャリア教育の先進性と今後の展開」

企画責任者：水産教育推進委員会 小島隆人・天野勝文・窪川かおる 他

9月25日(金)

シンポジウム「東日本大震災の復興・再生に向けた新たな水産業の創成につながる新技術開発」

企画責任者 竹内俊郎・佐藤 実・渡部終五

II 主催 理事会

9月21日(月)

平成 27 年日本水産学会理事会特別シンポジウム (大会関連行事)

「東北の海は今、震災後4年間の研究成果と漁業復興」

場所：東北大学 農学研究科 第1講義室 (雨宮キャンパス)

企画責任者：渡部終五・山下 洋・木島明博・木暮一啓・北里 洋・和田時夫

Ⅲ 主催 国際交流委員会

9月25日（金）

第三回日中韓水産学会合同シンポジウム

企画責任者：佐藤秀一

Ⅳ 主催 漁業懇話会

9月22日（火）

第66回漁業懇話会講演会「東日本大震災からの漁船漁業の復興—現状と課題」（仮題）

企画責任者：山川 卓・藤田 薫・片山知史

Ⅴ 主催 水産増殖懇話会

9月22日（火）

未定

Ⅵ 主催 水産環境保全委員会

9月22日（火）

研究会「東北・北海道沿岸における東日本大震災以後の貝毒の問題」（仮題）

企画責任者：今井一郎・西谷 豪

大会会場へのアクセス

空路：「仙台空港」→（仙台空港アクセス線）→「仙台駅」下車 →以下参照

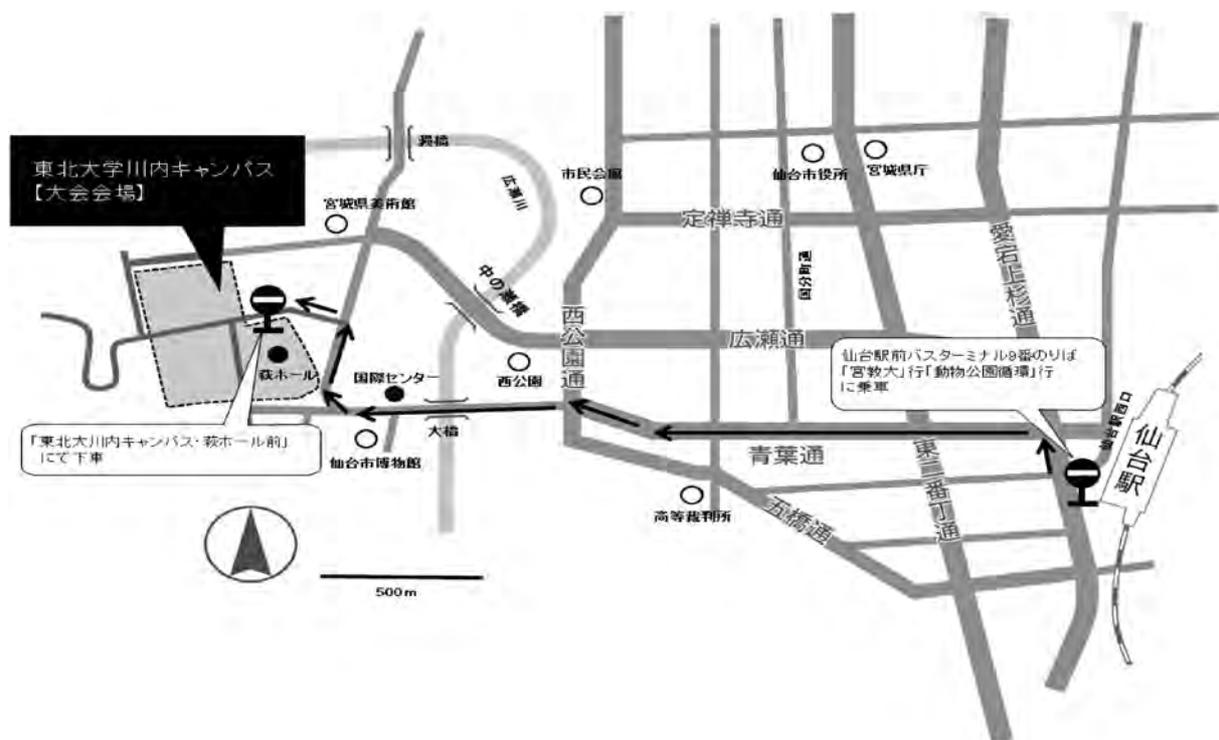
JR：「JR 仙台駅」→①仙台駅前9番のりば→（仙台市営バス：宮教大・青葉台行，青葉通経由動物公園循環）→「東北大川内キャンパス・萩ホール前」下車，②仙台駅前9番のりば→（仙台市営バス：川内南キャンパス経由（急行）東北大川内キャンパス）→「東北大川内南キャンパス」下車，③仙台駅前16番のりば→（仙台市営バス：広瀬通経由交通公園・川内（営）行，広瀬通経由交通公園循環）→「川内郵便局前」下車

大会会場周辺案内

詳しくは東北大学 HP のアクセスマップをご覧ください

(<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/kawauchi/index.html>)。(下図参照)

なお自動車でのご来場はご遠慮ください。



東北大学川内北キャンパスまでのアクセス



会員交歓会会場



東北大学川内北キャンパスマップ

復興エリア見学エクスカーション（予定ルート）

9月26日（土）9：30 仙台市内出発（バス）→蒲生（干潟視察）→亘理魚市場（漁協職員との情報交換）→14：00仙台空港→14：30 JR 仙台駅

Fisheries Science 82 巻表紙写真などの募集について

編集委員会委員長 佐藤秀一

Fisheries Science では 75 巻より、表紙に 5 ないし 6 枚の写真を掲載しております。

このたび、来年の 82 巻の表紙に掲載する写真・図を日本水産学会会員の皆様から募集いたします。写真は漁業、養殖、水産生物、水産食品など水産学会が扱う範疇であれば特に制限するものではありませんが、一枚の写真でインパクトのある内容を表現できることが要求されます。掲載が決定した方には、Fisheries Science 82 巻を 6 冊（1～6 号各 1 冊）進呈致しますので、奮ってご応募ください。過去に発行されました Fisheries Science の表紙デザインは、学会ホームページ <http://www.office.jsfs.jp/fs-cover2.html> でご覧いただけます。

◆FS 誌表紙写真募集要項

- テーマ：** 日本水産学会が取り扱う分野に関連した、表紙にふさわしい写真または図版
- 作品の種類：** 未公表の写真または図版
- * 作品中に他人が著作権等を持つ著作物等が含まれる場合には、応募者の責任において、その著作権者等から応募のための複製の許可を得てください。また、人の肖像等を利用する場合についても同様とします。
- 応募資格：** 日本水産学会会員であること
- 応募作品の規格等：** ・解像度 300 dpi 以上の TIFF, EPS, JPEG のいずれかの形式で保存したファイル
・印刷サイズ（縦 5 cm×横 7 cm 程度）に縮小した際に、識別可能であること
- 応募締切：** 2015 年 7 月 1 日（消印有効）
- 応募方法：** 下記まで、電子メール添付、または CD 等のディスクにコピーしたものを郵送してください。
- 公益社団法人日本水産学会
〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学内
Email: fsjpubl@d1.dion.ne.jp (@d の次は数字の 1)
- ・郵送での応募は、応募締切日の消印有効とします。
 - ・応募作品には、内容がわかる簡単な説明文（日本語および英語）を付け、応募者の氏名と所属、連絡先住所を明記してください。
 - ・なお、作品中に他人が著作権を持つ著作物等が含まれる場合には、許諾を得た著作物等とその著作権者等の連絡先のリストを応募資料として添付してください。
- 応募作品の返却：** 応募作品は返却しません。
- 採用作品の選考：** 応募作品は日本水産学会編集委員会が審査し、採用作品 6 点以内を選定します。
- 採用作品の発表：** 採用作品については 2015 年 8 月 15 日までに本人に結果を電子メールで通知するとともに、著作物利用許諾契約書を郵送します。
- 採用作品の著作権：** 採用作品の著作権は応募者に帰属します。
- ただし採用作品の応募者には、
- (1)学会誌冊子およびパンフレット、ポスター、等の宣伝物、CD もしくは類似の電子媒体のラベルなどの印刷物における利用
 - (2)学会および出版社のホームページ、論文データベース等、Fisheries Science 誌に関するインターネットサイトにおける利用
 - (3)学会の活動報告資料における利用
- について、学会が採用作品を独占的に利用することを了承していただきます。
- 採用作品の利用期間は、採用作品が表紙として使われる 2016 年 12 月末日までとしますが、それまでに製作した表紙デザインの複製物および翻案は、継続的に学会が利用できることとします。
- 以上の範囲以外で学会が採用作品を利用する場合は、事前に応募者との間でその条件について協議するものとします。

学会賞受賞候補者の募集 平成 27 年度日本水産学会各賞受賞候補者の推薦について

平成 27 年度学会賞選考委員会委員長 和田時夫

平成 27 年度日本水産学会各賞受賞候補者を学会賞授賞規程（日本水産学会誌第 81 巻 3 号掲載）に従い、広い視点に立ってご推薦くださいますようお願い申し上げます。推薦に当たっては、下記の受賞者の資格などをご覧いただき、十分にご注意くださいますようお願いいたします。本学会正会員ならばどなたからでも推薦できますので、奮ってご推薦いただきますようお願いいたします。

なお、推薦書の用紙は本学会ホームページからダウンロードするか、あるいは本学会事務局宛にご請求ください。電子ファイル（MS Word）でもお送りすることができますので、ご希望の方は e-mail（fishsci@d1.dion.ne.jp（@d の次は数字の 1 です））まで賞の種類を書いてご請求ください。

推薦書類は本学会事務局宛に郵送でご提出願います。推薦書の締切り日は平成 27 年 7 月 31 日（金）（厳守）です。

1. 受賞者の資格

- ◎受賞者は日本水産学会会員以外でもかまいません。
- ◎日本水産学会賞受賞者は、学術研究上特別に優れた業績を上げ、水産学の発展に寄与した者として（受賞件数：2 件以内）。
- ◎日本水産学会功績賞受賞者は、長年にわたり水産学の発展ならびに体系化に寄与した者として（受賞件数：2 件以内）。
- ◎水産学進歩賞受賞者は、優れた業績を上げ、水産学の発展に寄与した 40 歳以上（平成 28 年 4 月 1 日現在）の者として（受賞件数：4 件以内）。
- ◎水産学奨励賞受賞者は、研究に精進し、将来の発展が期待される 40 歳未満（平成 28 年 4 月 1 日現在）の者として（受賞件数：4 件以内）。
- ◎水産学技術賞受賞者は、技術上著しい業績を上げ、水産学ならびに水産業の発展に貢献した者として（受賞件数：3 件以内）。
- ◎日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞および水産学奨励賞の受賞該当業績は、すでに印刷されたもの（印刷中を含む）で、少なくともその一部が日本水産学会の学会誌（Fisheries Science や日本水産学会誌）もしくは学術刊行物（水産学シリーズなど）に掲載されたものであることが必要です。

2. 推薦人数

- ◎受賞対象業績 1 件につき、原則として 1 名を推薦してください。

3. 協力業績

- ◎協力業績（少なくとも受賞対象業績の一部に共著論文を含む）に限り、受賞者を連名とすることができますが、その場合は連名とする理由書を添付してください。
- ◎連名とする場合は、指導者または単なる補助的役割をなした者は除きます。

平成 27 年度日本農学進歩賞受賞候補者の推薦について

平成 27 年度学会賞選考委員会委員長 和田時夫

（公財）農学会は平成 14 年度から「日本農学進歩賞」を創設し、人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした者を表彰しております。日本水産学会からの候補者をご推薦いただきますようお願いいたします。推薦書類の請求および提出先は日本水産学会事務局です。

記

1. 受賞者の資格 40 歳未満（平成 27 年 10 月 1 日時点）の者。国籍は問いません。
2. 授賞対象分野 生命科学、環境科学、生物生産科学、食品科学、国際貢献その他を含む農学分野。
3. 推薦書提出締切り日 平成 27 年 5 月 29 日（金）必着

平成 28 年度日本農学賞受賞候補者の推薦について

平成 27 年度学会賞選考委員会委員長 和田時夫

日本農学会に推薦する標記候補者をご推薦ください。学会賞選考委員会で選考し、理事会の承認後、日本農学会にご推薦いたします。推薦書類は日本水産学会事務局にご請求ください。なお、推薦締め切り日は平成 27 年 7 月 31 日(金)です。

シンポジウム企画案の公募について

シンポジウム企画委員会委員長 高木 力

シンポジウム企画委員会では、学術的话题に加えて、特にシンポジウムの成果が本学会の一層の活性化と社会貢献を含む公益性の向上に結びつくような、産学の今日的・将来的な重要性と話題性のある企画を下記により公募します。過去に開催されたシンポジウム企画の一覧を学会ホームページに掲載しておりますので、最近に同様の企画がないことをご確認の上、積極的にご提案下さい。

企画案は、シンポジウム企画委員の提案によるほか、支部、大会委員会、懇話会委員会、会員からも公募しております。シンポジウムの企画責任者には、シンポジウム企画委員会委員を含む必要はありません。また、会員以外の方を演者、座長にすることも差し支えありません。開催年度のシンポジウム企画案の採択決定は 1 年前の委員会で行うことを原則としていますが、社会的に大きな問題（あるいは話題）になるような緊急性の高い企画案については、その旨の理由書を添えて提案して頂ければ、早急に対応することとしております。企画されたシンポジウムを他団体と共催したい場合には、本委員会でご妥当性を審議させていただきますのでお申し出下さい。なお、シンポジウムはすべて公開として、シンポジウムのみの参加者からは大会参加費を徴収しないこととしております。

記

企画案書式 題目、企画責任者（所属略記）、プログラム【演題、演者・座長（所属略記）、時間】、企画の趣旨（300 字程度）、提案年月日、水産学シリーズの出版希望の有無、開催希望年度および時季、連絡先の順で、従来のシンポジウム・プログラム（講演プログラムに掲載されているもの）の書式にならって A4 サイズで作成して下さい。

提出期限 随時

提出先 〒631-8505 奈良市中町 3327-204

近畿大学農学部 水産学科漁業生産システム研究室

日本水産学会シンポジウム企画委員会 幹事 鳥澤真介

TEL & FAX (0742)43-6015

e-mail ns_torisawa@nara.kindai.ac.jp

※e-mail を使用される場合は、企画案の電子ファイル（MS-WORD または PDF ファイル化したもの）を添付して下さい。また FAX を使用の場合は、電子ファイルを別途送付願います。受け付け日時は e-mail、FAX の受信日とします。

なお、学会からの 1 件あたりの経費補助金は 6 万円です。水産学シリーズの刊行についての採択決定は出版委員会で審議されます。

詳細についてはシンポジウム企画委員会幹事 鳥澤 までお問い合わせ下さい。

また、漁業懇話会講演会、水産環境保全委員会等主催のシンポジウムの開催に関しましては、各委員会に直接お問い合わせ下さいませようお願い致します。

ミニシンポジウム企画案の公募について

シンポジウム企画委員会委員長 高木 力

平成 28 年度日本水産学会春季大会時開催希望の企画案を下記により公募します。ミニシンポジウムは演者 5 名程度、3 時間程度の規模のもので午前・午後各 2 件計 4 件以内を開催します。過去に開催されたミニシンポジウム企画の一覧を学会ホームページに掲載していますので、最近に同様の企画がないことをご確認の上、積極的にご提案下さい。

企画案は、シンポジウム企画委員の提案によるほか、支部、大会委員会、懇話会委員会、会員からも公募しております。ミニシンポジウムの企画責任者には、シンポジウム企画委員会委員を含む必要はありません。また、会員以外の方を演者、座長にすることも差し支えありません。企画されたミニシンポジウムを他団体と共催したい場合には、本委員会にて妥当性を審議させていただきますのでお申し出下さい。なお、ミニシンポジウムはすべて公開としており、ミニシンポジウムのみの参加者からは大会参加費を徴収しないこととしております。

記

企画案書式 題目、企画責任者（所属略記）、プログラム【演題、演者・座長（所属略記）、時間】、企画の趣旨（200 字程度）、提案年月日、水産学シリーズの出版希望の有無、連絡先の順で、従来のミニシンポジウム・プログラム（講演プログラムに掲載されているもの）の書式にならって A4 サイズで作成して下さい。

提出期限 平成 27 年 8 月 19 日(水)

提出先 〒631-8505 奈良市中町 3327-204

近畿大学農学部 水産学科漁業生産システム研究室

日本水産学会シンポジウム企画委員会 幹事 鳥澤真介

TEL & FAX (0742)43-6015

e-mail ns_torisawa@nara.kindai.ac.jp

※e-mail を使用される場合は、企画案の電子ファイル（MS-WORD または PDF ファイル化したもの）を添付して下さい。また FAX を使用の場合は、電子ファイルを別途送付願います。受け付け日時は e-mail, FAX の受信日とします。

学会からの 1 件あたりの経費補助金は 3 万円で、講演内容は日本水産学会誌にミニシンポジウム記録として掲載が予定されています。一方、水産学シリーズの刊行についての採択決定は出版委員会にて審議されます。なお、企画案が多数の場合、採否に当たって申し込み順を考慮することがあります。

詳細についてはシンポジウム企画委員会幹事 鳥澤 までお問い合わせ下さい。

また、漁業懇話会講演会、水産環境保全委員会等主催のシンポジウムの開催に関しましては、各委員会に直接お問い合わせ下さいますようお願い致します。

第 3 回日中韓水産学会合同シンポジウム Current status of research on fishery resources in East Asia の講演者の募集

国際交流委員会委員長 佐藤秀一

平成 27 年 9 月に仙台市東北大学で開催される平成 27 年度日本水産学会秋季大会の際に、第 3 回日中韓水産学会合同シンポジウムを開催します。つきましては平成 27 年 6 月 30 日(火)を締め切り日として、日本側の講演希望者を会員から下記の要領で募集します。会員の積極的な応募をお願い申し上げます。

記

テ ー マ : Current status of research on fishery resources in East Asia

日 時 : 平成 27 年 9 月 25 日

場 所 : 仙台市

募集講演者数および講演内容 : 以下の内容について、各 1 名

- Ecological issues of fishery resources
- Population dynamics of aquatic organisms under changing environments
- Stock assessment and management

応募先：日本水産学会事務局（fishsci@d1.dion.ne.jp（@dの次は数字の1でし）までメールで御応募下さい。
 応募の際には講演予定の題名と要旨を御連絡下さい。
 （様式自由，A4 1枚以内英語でお願いします）

使用言語：英語

講演者の決定方法：日本側の講演者は応募者の中から国際交流委員会で決定します。

平成 27 年度日本水産学会近畿支部前期例会の開催について

近畿支部支部長 荒井修亮

古くは合ハイ（合同ハイキング），その後は合コン（合同コンパ）と称されるイベントが，いまや地方自治体などが街を挙げての取り組みとして各地で開催されています。学生は就活（就職活動）に忙しく，適齢者は婚活に慌しく，そして高齢者は終活を考える時代です。近畿支部では「若手の会」を中心に，前期例会として「支部コン」を開催します。

「支部コン」は，研究分野の異なるパートナーとの共同研究の可能性を探るのが目的です。隣の府県，研究機関，大学，民間企業など組織も分野も異なる若手を中心とした研究者，技術者の横のつながりを強固にし，近畿の水産業が抱える問題の解決を一致団結して効果的に図ろうとする企画です。

記

日 時：平成 27 年 7 月 11 日（土）

近畿支部幹事会

10：30～12：15

場 所：京都大学農学部総合館 2 階 N-283

前期例会「支部コン」

場 所：京都大学北部構内生協会館 2 階

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学吉田キャンパス北部構内

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html

連絡先：075-753-6215 荒井修亮

「支部コン」プログラム

第 1 部（司会進行：光永 靖）

13：30～14：30

アピールタイム（自己紹介・研究内容・共同研究の可能性をアピール）

第 2 部（交流会）

14：30～15：30

第 3 部（司会進行：三田村啓理）

15：30～17：30

成果報告（今回生まれた共同研究の芽の紹介）

〈17：30 から懇親会（会費 2,000 円程度）を行います。〉

第 60 回低温生物工学会セミナーの開催について

標記セミナーが日本水産学会協賛のもと下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 低温生物工学会

日 程 平成 27 年 5 月 30 日（土）

場 所 東京工科大学八王子キャンパス
 （東京都八王子市）

テーマ アモルファス—食品および医薬品への応用—

問い合わせ先

〒192-0982 東京都八王子市片倉町 1404-1

東京工科大学応用生物学部

梶原一人（第 60 回低温生物工学会大会委員長）

e-mail jssc2015@edu.teu.ac.jp

プログラムなど詳細は，主催学会 HP（<http://square.umin.ac.jp/jssc/jp/activities/seminar/60.html>）をご覧ください。

平成 27 年度 JABEE 農学系分野審査講習会の 開催について

標記講習会が日本水産学会協賛のもと下記のとおり開催されますのでお知らせします。

本講習会の参加修了者 JABEE 審査員オブザーバー候補者として登録されます。

記

主 催 (公社)農業農村工学会, (公財)農学会, (一社)森林・自然環境技術者教育会,
(公社)日本生物工学会

日 時 平成 27 年 6 月 27 日(土)

場 所 東京大学弥生講堂

参加費 5,000 円 (当日, 現金で支払い)

申込締切 平成 27 年 6 月 17 日(水)

問い合わせ先

(公社)日本水産学会事務局(農学一般水産系担当学会)
e-mail fishsci@d1.dion.ne.jp (@d の次は数字の 1)
(公財)農学会事務局
e-mail zaidan@nougakkai.or.jp

プログラムや申込書類など詳細は, (公財) 農学会 HP (<http://www.nougaku.jp/>) をご覧ください。

第 56 回高圧討論会の開催について

標記討論会が日本水産学会協賛のもと下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 日本高圧力学会

日 程 平成 27 年 11 月 10 日(火) ~ 12 日(木)

場 所 アステールプラザ (広島市中区加古町 4-17)

講演申込締切 平成 27 年 7 月 17 日(金)

参加登録予約締切 平成 27 年 10 月 1 日(木)
締切後は当日申込にてご参加ください。

参加費 主催, 共催・協賛学協会会員 5,000 円
非会員 7,000 円

主催, 共催・協賛学協会学生会員 2,000 円
非会員学生 3,000 円

(当日申込は各 1,000 円増しになります。)

問い合わせ先

〒530-0001 大阪府大阪市梅田 1-11-4

大阪駅前第 4 ビル 9 階 923-674 号

㈱ポラリス・セクレタリーズ・オフィス内

第 56 回高圧討論会事務局

TEL (070)5658-7626 FAX (020)4665-8596

e-mail touronkai56@highpressure.jp

プログラムなど詳細は, 主催学会 HP (<http://www.highpressure.jp/new/56forum/>) をご覧ください。

第 25 回海洋工学シンポジウムの開催について

標記シンポジウムが日本水産学会協賛のもと下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 日本船舶海洋工学会, 日本海洋工学会

日 程 平成 27 年 8 月 6 日(木)・7 日(金)

場 所 日本大学理工学部駿河台キャンパス 1 号館
(〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14)

問い合わせ先

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1

日本大学理工学部海洋建築工学科

第25回海洋工学シンポジウム事務局(居駒)

TEL (0417)469-5482

e-mail ikoma.tomoki★nihon-u.ac.jp

(★を@に変えて送信してください)

プログラムなど詳細は, シンポジウム HP (<http://www.oesymposium.com/index.html>) をご覧ください。

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 第 27 回助成研究発表会の開催について

標記発表会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 (公財)ソルト・サイエンス研究財団

日 時 平成 27 年 7 月 22 日(水)

場 所 都市センターホテル (東京都千代田区平河町)

参加費 無料

問い合わせ先

(公財)ソルト・サイエンス研究財団

TEL (03)3497-5711 FAX (03)3497-5712

e-mail saltscience@saltscience.or.jp

プログラムなど詳細は, 財団 HP (<http://www.saltscience.or.jp>) をご覧ください。

一般社団法人日本調理科学会平成 27 年度大会の 開催について

標記大会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 (一社)日本調理科学会
日 程 平成 27 年 8 月 24 日(月)・25 日(火)
場 所 静岡県立大学谷田キャンパス
 (〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1)
参加費 主催学会正会員 6,000 円
 主催学会学生会員 2,000 円
 非会員 6,500 円

問い合わせ先

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52-1
 静岡県立大学食品栄養科学部
 日本調理科学会平成 27 年度大会実行委員会
 実行委員会副委員長 新井映子
 TEL・FAX (054)264-5823
 e-mail jscs27@u-shizuoka-ken.ac.jp
 プログラムなど詳細は、主催学会 HP (<http://www.jscs.ne.jp/>) をご覧ください。

**第 6 回 (平成 27 年度) 日本学術振興会「育志賞」
 受賞候補者の推薦について**

日本学術振興会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰しております。日本水産学会にその受賞候補者の推薦依頼がまいりました。日本水産学会の学生会員で、日本水産学会からの推薦をご希望の方は、平成 27 年 5 月 29 日(金)までに、日本水産学会事務局へ推薦に必要な書類一式をご提出ください。学会賞選考委員会において推薦の可否を検討させていただきます。

応募要領、推薦書類は、日本学術振興会 HP (<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>) をご覧ください。

**第 5 回 (平成 28 年度) 三島海雲学術賞受賞
 候補者の推薦について**

公益財団法人三島海雲記念財団では、自然科学及び人文科学の学術研究領域において、とりわけ、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を顕彰し、その研究の発展を支援しております。応募要領や申請書類など詳細は、財団 HP (<http://www.mishima-kaiun.or.jp/>) をご覧ください。

日本水産学会にその受賞候補者の推薦依頼がまいりました。日本水産学会からの推薦を希望される会員は、平成 27 年 7 月 17 日(金)までに、推薦に必要な書類一式を日本水産学会事務局までお送りください。学会賞選

考委員会において推薦の可否を検討させていただきます。

記

対象分野 自然科学部門 (食の科学に関する研究)

候補者の資格

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により独創的で発展性のある顕著な業績を挙げている者のうち、下記の条件を満たす若手研究者。

- 1) 45 歳未満の者 (平成 28 年 4 月 1 日現在)
- 2) 日本在住の研究者 (国籍は問わない) 及び海外在住の日本人研究者 (日本国籍をゆする者)

**平成 27 年度「第 7 回とうきゅう環境財団社会
 貢献学術賞」の受賞候補者の推薦について**

公益財団法人とうきゅう環境財団では、日本の環境分野 (環境保全・エネルギー・リサイクル・廃棄物など) において学術的、社会的に特に顕著な業績 (調査研究・科学技術の発展・行政施策・実践活動など) を挙げた研究者を表彰しています。日本水産学会にその受賞候補者の推薦依頼がまいりました。日本水産学会からの推薦をご希望の方は、平成 27 年 8 月 7 日(金)までに、日本水産学会事務局へ推薦に必要な書類一式をご提出ください。学会賞選考委員会において推薦の可否を検討させていただきます。

応募要領、推薦書類など詳細は、とうきゅう環境財団 HP (<http://www.tokyuenv.or.jp/>) をご覧ください。

**公益財団法人山崎香辛料振興財団平成 27 年度
 研究助成について**

公益財団法人山崎香辛料振興財団では、「香辛料」に関する研究に対しての助成を行っております。

記

助成の対象

香辛料の基礎研究並びに香辛料の原材料や応用などの関連分野に関する研究

助成の対象者

原則として、助成の対象となる研究範囲の研究を行うグループ又は個人

応募締切

平成 27 年 5 月末日

問い合わせ先

〒174-0054 東京都板橋区宮本町 38-8
 (公財)山崎香辛料振興財団 事務局

TEL (03)3696-7023 FAX (03)3558-2300

応募方法など詳細は、財団 HP (<http://yamazakispace->

promotionfdn.jp/) をご覧ください。

公益財団法人ロッテ財団研究者育成助成 (ロッテ重光学術賞) について

公益財団法人ロッテ財団では、「食と健康」の分野において、優れた若手研究者をわが国トップクラスの研究者として成長することを願って支援を行っております。

記

対象分野

1) 食料および食品の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄, 2) 食文化, 3) 嗜好性, 4) 栄養, 5) 食品安全・衛生, 6) 1)から5)の複合領域

応募資格

将来、大学および公的研究機関において、「食と健康」に関する広域科学分野での研究で中核となることが期待される若手研究者のうち、ロッテ財団が定める要件に該当する者。

応募締切 平成 27 年 6 月 29 日(月) 12:00 必着

問い合わせ先

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-20-1

(公財)ロッテ財団 研究助成担当

e-mail lotte_zaidan@lotte.co.jp

応募方法など詳細は、財団 HP (<http://www.lotte-isf.or.jp/>) をご覧ください。

公益財団法人ロッテ財団奨励研究助成について

公益財団法人ロッテ財団では、将来、国際的に活躍する可能性を秘めた、優秀で志の高い若手研究者を支援しております。

記

対象分野

1) 食料および食品の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄, 2) 食文化, 3) 嗜好性, 4) 栄養, 5) 食品安全・衛生, 6) 1)から5)の複合領域

応募資格

「食と健康」に関する広域科学分野での独創的・先端的研究を行う若手研究者のうち、ロッテ財団が定める要件に該当する者。

応募締切 平成 26 年 6 月 29 日(月) 12:00 必着

問い合わせ先

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-20-1

(公財)ロッテ財団 研究助成担当

e-mail lotte_zaidan@lotte.co.jp

応募方法など詳細は、財団 HP (<http://www.lotte-isf.>

or.jp/) をご覧ください。

公益財団法人住友財団 2015 年度 環境研究助成について

公益財団法人住友財団では、環境問題の解決のためには、多面的アプローチによる分析と様々な対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点(人文科学・社会科学・自然科学)からの研究に対する支援を行っています。

記

助成対象研究

一般研究: 環境に関する研究(分野は問わない)

課題研究: 2015 年度募集課題「喫緊の環境問題解決のための学術研究または国際共同研究」

応募資格

研究者の所属が営利企業(兼務を含む)の場合には応募不可。

募集期間

平成 27 年 4 月 15 日(水) ~ 6 月 30 日(火)

e-mail の締切は 6 月 16 日(火)

問い合わせ先

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-12-16

住友芝大門ビル 2 号館

(公財)住友財団

TEL (03)5473-0161 FAX (03)5473-8471

e-mail sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

応募方法など詳細は、財団 HP (<http://www.sumitomo.or.jp/>) をご覧ください。

公益財団法人住友財団 2015 年度 基礎科学研究助成について

公益財団法人住友財団では、重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行っています。

記

助成対象研究

理学(数学、物理学、化学、生物学)の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの(それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む)。

応募資格

若手研究者(所属が営利企業の場合は応募不可)

募集期間

平成 27 年 4 月 15 日(水) ~ 6 月 30 日(火)

e-mail の締切は 6 月 16 日(火)

問い合わせ先

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-12-16

住友芝大門ビル 2 号館

(公財)住友財団

TEL (03)5473-0161 FAX (03)5473-8471

e-mail sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

応募方法など詳細は、財団 HP (<http://www.sumitomo.or.jp/>) をご覧ください。

**2015 年度積水化学 自然に学ぶものづくり
研究助成募集について**

積水化学グループでは、標記の研究助成を下記のとおり行っておりますのでお知らせします。

記

募集対象 自然に学んだ基礎サイエンスの知見を活かし、「自然」の機能を「ものづくり」に活用する研究

募集期間 平成 27 年 5 月 11 日(月)～6 月 30 日(火)

問い合わせ先

〒601-8105 京都府京都市南区上鳥羽調子町 2-2

㈱積水インテグレートドリサーチ

積水化学 自然に学ぶものづくり研究助成プログラム事務局

TEL (075)662-8604 FAX (075)662-8605

e-mail shizen@sekisui.com

応募方法など詳細は、積水化学 HP (<http://www.sekisui.co.jp/>) をご覧ください。

**平成 27 年度公益財団法人東洋食品研究所
研究助成について**

公益財団法人東洋食品研究所では、食品素材やその製造又は加工、保存技術に関する研究ならびに食品と健康、安全性に関する研究等を行う研究者および研究グループに助成を行っています。

記

詳細

財団の HP (<http://www.shokuken.or.jp/subsidize.html>) をご覧ください。

募集期間

平成 27 年 6 月 1 日(月)～8 月 31 日(月)

問い合わせ先

〒666-0026 川西市南花屋敷 4-23-2

(公財)東洋食品研究所

企画部 教育・助成グループ

TEL (072)740-3300 (代)

国立情報学研究所の研究教育職員公募について

標記の公募案内を下記のとおりお知らせします。

記

公募職名・人員

准教授又は任期付き助教 若干名

研究開発分野

以下のトピックスに適合する研究開発または構築・運用に従事してきたことが望ましいが、それに資する経験などがあればよい。

(1)情報学プリンシプル研究分野, (2)アーキテクチャ科学研究分野, (3)コンテンツ科学研究分野, (4)情報社会
 相関研究分野

応募資格

原則として博士の学位取得又は取得見込みの者(人文・社会科学系の研究者にあたっては、これに準ずるものを含む)

応募期限 平成 27 年 6 月 30 日(火) 必着

問い合わせ先

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

情報・システム研究機構国立情報学研究所

e-mail koubo@nii.ac.jp

応募方法など詳細は、国立情報学研究所 HP (<http://www.nii.ac.jp/about/recruit/>) をご覧ください。

国立情報学研究所の特任教員(女性)公募について

標記の公募案内を下記のとおりお知らせします。

記

公募職名・人員

特任准教授又は特任助教 1 名

研究開発分野

以下のトピックスに適合することが望ましいが、必ずしも限定するものではない。

(1)情報学プリンシプル研究分野, (2)アーキテクチャ科学研究分野, (3)コンテンツ科学研究分野, (4)情報社会
 相関研究分野

応募資格

原則として博士の学位取得又は取得見込みの者(人文・社会科学系の研究者にあたっては、これに準ずるものを含む)

応募期限 平成 27 年 6 月 30 日(火) 必着

問い合わせ先

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
情報・システム研究機構国立情報学研究所
e-mail koubo@nii.ac.jp

応募方法など詳細は、国立情報学研究所 HP (<http://www.nii.ac.jp/about/recruit/>) をご覧ください。

.....
**国立情報学研究所の研究教育職員（事業系）
公募について**

標記の公募案内を下記のとおりお知らせします。

記

公募職名・人員

特任准教授又は特任助教 あわせて若干名

研究開発分野

以下のトピックスに適合する研究開発または構築・運

用に従事してきたことが望ましいが、それに資する経験などがあればよい。

(1)コンピュータネットワーク分野, (2)セキュリティ分野, (3)クラウド分野, (4)コンテンツ分野, (5)オンライン教育分野

応募資格

博士の学位を有する者, 又は相当の実務能力を有すると判断される者

応募期限 平成 27 年 6 月 30 日(火) 必着

問い合わせ先

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
情報・システム研究機構国立情報学研究所
e-mail koubo@nii.ac.jp

応募方法など詳細は、国立情報学研究所 HP (<http://www.nii.ac.jp/about/recruit/>) をご覧ください。

会員に関する規則

(目的)

第 1 条 この規則は、公益社団法人 日本水産学会（以下、「この法人」という。）の定款第 6 条及び第 10 条の規定に基づき、この法人の会員の入会及び退会、ならびに会費の納入に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(入会の手続き)

第 2 条 この法人の会員とは、定款第 6 条の規定により入会を承認されたものである。

2 定款第 5 条第 6 号に基づき学生（大学院学生を含む）は希望により学生会員になることができる。学生会員の資格を有する期間は入会年度内とするが、継続を希望する学生は会費を前納すれば再入会の手続を要しない。

3 正会員及び学生会員は住所のある当該支部に所属する。

(会費)

第 3 条 会員は次の会費（年額）を納入しなければならない。

2 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 10,000 円
- (2) 団体会員 30,000 円
- (3) 賛助会員 50,000 円以上
- (4) 外国会員 15,000 円
- (5) 学生会員 6,000 円

(会費の納期)

第 4 条 会員は会費 1 年分を毎年 2 月末日までに前納しなければならない。

(会費の免除)

第 5 条 理事会は、次のいずれかに該当する会員については、第 3 条の規定にかかわらず、会費の免除を議決することができる。

- (1) 正会員のうち、会員歴 45 年以上でかつ満 75 歳以上の者であって、本人からの免除申請があった場合
- (2) 免除すべき相当の事由があると認める会員
- (3) 名誉会員

(会員の特典)

第 6 条 会員は次の特典を享受することができる。

- (1) 会員はこの法人の和文及び英文の学会誌（日本水産学会誌と Fisheries Science）の最新号をインターネット上で閲覧できる。
- (2) この法人が発行する水産学シリーズ及びベルソープックス等学術図書については、会員には出版社から一定の購読特典を受けることができる。
- (3) 正会員、名誉会員、賛助会員、外国会員及び学生会員は研究発表会において報告を行ない、又は別に定める投稿規程にしたがって報文を学会誌に投稿することができる。
- (4) 会員はこの法人の行う各種の行事に参加することができる。

(学会誌の配布)

第 7 条 会員は、当該年において発行される学会誌のうち次の各号の配布を無料で受けることができる。

- (1) 正会員、外国会員、学生会員

和文の学会誌各号全 6 冊

- (2) 団体会員、名誉会員

和文及び英文の学会誌各号全 12 冊

- (3) 賛助会員

和文及び英文の学会誌各号全 12 冊。ただし、特に申し出のあった場合は各号 2 部を、あるいは会費に応じて各号 3 部以上を配付することができる。

2 会費を納入しない会員には、学会誌の配布を停止する。

(異動届及び変更届)

第 8 条 会員が住所や所属先等を変更したときは、直ちにその旨を理事会に届け出なければならない。

2 団体会員又は賛助会員である団体は、その代表者を変更したときは直ちにその旨を理事会に届け出なければならない。

(退会事由及び手続き)

第 9 条 会員は、定款第 8 条の規定に基づき、理事会が別に定める退会届を提出して、任意に退会することができる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

2 定款第 10 条の規定により会員資格を喪失した場合、既納の会費は返還しない。

(改 廃)

第 10 条 この規則の改廃は、理事会の決議を経て社員総会の決議をもって行う。

(補 足)

第 11 条 この規則の実施に関し必要な事項は、会長が理事会の承認を得て、別に定めるものとする。

附 則 本規則は、公益認定を受け移行の登記を行った日から施行する。

役員報酬及び費用に関する規則

(目的)

第 1 条 この規則は、公益社団法人 日本水産学会（以下、「この法人」という。）の定款第 26 条の規定に基づき、役員報酬及び費用に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定義等)

第 2 条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところに拠る。

- (1) 役員とは、理事及び監事をいう。
- (2) 報酬とは、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 13 号で定める報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益であって、その名称の如何を問わない。費用とは明確に区分されるものとする。
- (3) 費用とは、職務の遂行に伴い発生する交通費、旅費（宿泊費を含む。）、手数料等の経費をいう。報酬とは明確に区分されるものとする。

(報酬の支給)

第 3 条 この法人は、公認会計士又は税理士の資格を持つ監事に対して、その職務の対価として報酬を支給することができる。

(報酬の額の決定)

第 4 条 公認会計士又は税理士の資格を持つ監事に対するこの法人の報酬は、別表「公認会計士又は税理士の資格を持つ監事の報酬」に定める定額とする。

第 5 条 前条の報酬は、原則として、理事会出席等必要の都度、支払うものとする。

(報酬等の支給方法)

第 6 条 報酬等は、通貨をもって本人に支給する。ただし、本人の指定する本人名義の金融機関口座に振り込むことができる。

(費用の支払い方法)

第 7 条 この法人は、役員がその職務の執行に当たって負担した費用については、別に定める規程に従い、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また前払いを要するものについては前もって支払うものとする。

(公表)

第 8 条 この法人は、この規則をもって、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 20 条第 1 項に定める報酬等の支給の基準として公表するものとする。

(改廃)

第 9 条 この規則の改廃は、社員総会の決議をもって行う。

(補足)

第 10 条 この規則の実施に関し必要な事項は、会長が理事会の承認を得て、別に定めるものとする。

附 則 この規則は、公益認定を受け移行の登記を行った日から施行する。

別表 公認会計士又は税理士の資格を持つ監事に対する報酬

理事会出席等、必要の都度、謝金として時間給 5,000 円

投 稿 規 程

1. 報文の投稿者は公益社団法人日本水産学会会員（正会員，名誉会員，外国会員及び学生会員）にかぎる。会員以外の共著者を含むことは差しつかえない。ただし，Fisheries Science については非会員の投稿を認める。
 2. 報文は原著で，他の刊行物に発表及び投稿されていないものにかぎる。
 3. 和文原稿は日本水産学会誌に，英文原稿は Fisheries Science に投稿する。
 4. 報文は，日本水産学会誌では論文，短報及び総説とし，Fisheries Science では論文と総説とする。
 5. 学会誌掲載文の著作権は，学会誌創刊号から公益社団法人日本水産学会に帰属する。なお，Fisheries Science の論文と総説において，著者がオープンアクセスを選択した場合は，この限りではない。
 6. 原稿は「原稿の書き方」または「INSTRUCTIONS FOR AUTHORS」にそって作成し，それぞれ指定された方法で投稿する。
 7. 日本水産学会誌への投稿原稿は編集委員会において，また Fisheries Science への投稿原稿は Editorial Board において審査する。その結果，訂正を要すると判断された原稿はその理由を付して著者に返送し，訂正を求める。また，編集委員会または Editorial Board が掲載不適当と認めたものは返却する。なお，掲載可と認めた報文においても軽微な修正を求めることがある。
 8. 掲載された報文に重大な誤り等があり放置できない場合，あるいはデータの捏造や偽造および盗作等の研究上や論文執筆上の不正が発見された場合は，受理を撤回措置することがある。
 9. 掲載された報文に重大な誤り等があり，著者らの総意によって取り下げあるいは訂正再発行を望んだ場合，編集委員会の審査を経て，取り下げあるいは訂正再発行を認めることがある。ただし，訂正再発行に要する費用は著者負担とする。
 10. 初校は著者が行う。原則として文章または図表の変更や追加は禁ずる。
 11. 掲載料及び別刷代，カラー印刷費は著者負担とし，別記に基づき請求される。
 12. 校正のとき著者が見落とした誤りを正誤表で訂正しようとする場合，あるいはやむをえず改版を要する場合には，その費用は著者負担とする。
 13. 著者が学会費または掲載料などの著者負担分の支払いを怠るときは，報文の掲載を見合わせることもある。
 14. この規程の改廃は，理事会の決議を経て行う。
- 附則 本規程は平成 23 年 3 月 1 日に遡って実施する。

(平成 23 年 9 月 17 日 一部改正 ただし，9.と別記の改正については第 78 巻 1 号掲載報文より適用する。)

(平成 23 年 9 月 30 日 一部改正)

(平成 24 年 6 月 2 日 一部改正)

(平成 25 年 6 月 8 日 一部改正)

(平成 25 年 12 月 7 日 一部改正)

(平成 26 年 6 月 7 日 一部改正)

(平成 27 年 2 月 7 日 一部改正)

投稿規程（別記）

掲載料（第 69 巻第 1 号～）

日本水産学会誌 1 ページ 4,700 円*

Fisheries Science 1 ページ 7,600 円*

(*学会からの郵送料および英文校閲料を含む。)

別刷代

日本水産学会誌

ページ	50 部	100 部	150 部	200 部	250 部	300 部	350 部
1～2	2,800 円	2,900 円	3,100 円	3,300 円	3,500 円	3,700 円	3,900 円
3～4	3,600	3,800	4,000	4,300	4,600	4,900	5,100
5～6	5,700	5,900	6,400	6,800	7,200	7,600	8,000
7～8	6,700	7,000	7,400	7,900	8,400	8,900	9,400
9～10	9,000	9,300	10,000	10,700	11,400	12,100	12,800
11～12	10,100	10,500	11,200	12,000	12,800	13,600	14,400

表紙 1 部 20 円

Fisheries Science 出版社の規定に従う。

カラー印刷費

日本水産学会誌 1 ページ 55,000 円 (+ 税)

Fisheries Science 出版社の規定に従う (Instructions for Authors 参照)。

日本水産学会が用いる機関名の略記

- 機関名の変更および機関で掲載の希望のある場合は学会事務局にお申し出下さい。
- 各機関の実験所、支場等は略記の後にに入れて下さい。(例 北大フィールド科セ厚岸)

大学および附属機関 (実験所・実習場等)

機 関 名	略 記	機 関 名	略 記
北海道大学大学院水産科学研究院	北大院水	京都精華大学	京精大
同 北方生物圏フィールド科学センター	北大フィールド科セ	近畿大学農学部	近大農
東北大学大学院農学研究所	東北大院農	同 水産研究所	近大水研
同 複合生態フィールド教育研究センター	東北大フィールド研セ	大阪市立大学大学院工学研究科	大阪市大院工
東北大学大学院理学研究科	東北大院理	福山大学生命工学部海洋生物工学科	福山大生命工
東北大学大学院生命科学研究所	東北大院生命科学	広島大学大学院生物圏科学研究科	広大院生物圏科
北里大学海洋生命科学部	北里大海洋	広島大学大学院理学研究科	広大院理
石巻専修大学理工学部	石巻専修大	高知大学農学部	高知大農
宇都宮大学農学部	宇都宮大農	同 総合研究センター海洋生物研究教育施設	高知大海洋研
東京海洋大学	海洋大	同 海洋コア総合研究センター	高知大海洋コア
同 水圏科学フィールド教育研究センター	海洋大フィールド研セ	同 大学院黒潮海洋科学研究科	高知大院黒潮
東京大学大学院農学生命科学研究科	東大院農	香川大学農学部	香川大農
同 附属水産実験所	東大院農水実	同 瀬戸内圏研究センター	香川大瀬戸内研セ
東京大学大学院理学系研究科	東大院理	同 瀬戸内圏研究センター庵治マリステーション	香川大瀬戸内研セ庵治
東京大学大気海洋研究所	東大気海洋研	愛媛大学農学部	愛媛大農
日本大学生物資源科学部	日大生物資源	同 沿岸環境科学研究センター	愛媛大沿岸研セ
東京農業大学応用生物科学部	東京農大応用生物	愛媛大学理学部臨海実験所	愛媛大理
同 生物産業学部	東京農大生物産業	(洵)水産大学校	水大校
東京農工大学農学部	東農工大農	山口大学農学部	山口大農
東海大学海洋学部	東海大海洋	九州大学大学院農学研究院	九大院農
同 海洋研究所	東海大海洋研	同 生物資源環境科学府水産実験所	九大院水実
名古屋大学大学院生命農学研究科	名大院生命農	佐賀大学農学部	佐賀大農
三重大学大学院生物資源学研究科	三重大院生資	佐賀大学海浜台地環境研究センター	佐賀大海浜セ
新潟大学理学部附属佐渡臨海実験所	新潟大理	長崎大学水産学部	長大水
静岡大学農学部	静岡大農	同 大学院水産・環境科学総合研究科	長大院水環
同 地域フィールド科学教育研究センター	静岡大フィールド研セ	同 環東シナ海環境資源研究センター	長大海セ
福井県立大学生物資源学部	福井県大生物資源	同 環境科学部	長大環境
同 海洋生物資源学部	福井県大海洋生資	宮崎大学農学部	宮崎大農
滋賀県立大学環境科学部	滋賀県大環境	鹿児島大学水産学部	鹿大水
京都大学大学院農学研究所	京大院農	同 海洋資源環境教育研究センター	鹿大海洋研セ
同 フィールド科学教育研究センター	京大フィールド研セ	同 国際島嶼教育研究センター	鹿大島嶼研
		琉球大学理学部	琉球大理
		同 熱帯生物圏研究センター	琉球大熱研セ

国立研究開発法人等

機 関 名	略 記	機 関 名	略 記
水産総合研究センター	水研センター	西海区水産研究所	水研セ西海水研
本部	水研セ本部	増養殖研究所	水研セ増養殖研
北海道区水産研究所	水研セ北水研	水産工学研究所	水研セ水工研
東北区水産研究所	水研セ東北水研	開発調査センター	水研セ開発セ
中央水産研究所	水研セ中央水研	国際農林水産研究センター	国際農研セ
日本海区水産研究所	水研セ日水研	農業・食品産業技術総合研究機構	
国際水産資源研究所	水研セ国際水研	食品総合研究所	食総研
瀬戸内海区水産研究所	水研セ瀬水研		

水産試験場等

機 関 名	略 記	機 関 名	略 記
北海道立総合研究機構	道総研	同 小笠原水産センター	都小笠原水産セ
同 中央水産試験場	道中央水試	東京都立食品技術センター	都食技セ
同 函館水産試験場	函館水試	神奈川県水産技術センター	神奈川水技セ
同 釧路水産試験場	釧路水試	新潟県水産海洋研究所	新潟水海研
同 網走水産試験場	網走水試	新潟県内水面水産試験場	新潟内水試
同 稚内水産試験場	稚内水試	富山県農林水産総合技術センター	
同 栽培水産試験場	道栽水試	水産研究所	富山水研
同 さけます・内水面水産試験場	道さけます内水試	食品研究所	富山食研
同 食品加工研究センター	道食工セ	富山県栽培漁業センター	富山栽漁セ
同 工業技術センター	道工技セ	石川県水産総合センター	石川水総セ
青森県産業技術センター		福井県水産試験場	福井水試
工業総合研究所	青森工総研	福井県内水面総合センター	福井内水総セ
水産総合研究所	青森水総研	福井県栽培漁業センター	福井栽漁セ
食品総合研究所	青森食総研	山梨県水産技術センター	山梨水技セ
岩手県水産技術センター	岩手水技セ	長野県水産試験場	長野水試
岩手県内水面水産技術センター	岩手内水技セ	長野県工業技術総合センター	長野工技セ
秋田県水産振興センター	秋田水振セ	岐阜県河川環境研究所	岐阜河環研
宮城県水産技術総合センター	宮城水技セ	静岡県水産技術研究所	静岡水技研
同 気仙沼水産試験場	気仙沼水試	静岡県工業技術研究所	静岡工技研
同 内水面水産試験場	宮城内水試	愛知県水産試験場	愛知水試
宮城県気仙沼地方振興事務所	気仙沼振興	あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター	あいち産技セ食工セ
山形県水産試験場	山形水試	三重県水産研究所	三重水研
山形県内水面水産試験場	山形内水試	滋賀県水産試験場	滋賀水試
福島県水産試験場	福島水試	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	琵琶湖環セ
福島県内水面水産試験場	福島内水試	滋賀県立琵琶湖博物館	琵琶湖博
茨城県水産試験場	茨城水試	京都府農林水産技術センター海洋センター	京都海セ
栃木県水産試験場	栃木水試	京都府栽培漁業センター	京都栽漁セ
群馬県水産試験場	群馬水試	大阪府立環境農林水産総合研究所	大阪環農水総研
埼玉県農林総合研究センター水産研究所	埼玉農総研セ	兵庫県立農林水産技術総合センター	
埼玉県産業技術総合センター	埼玉産技総セ	水産技術センター	兵庫水技セ
千葉県水産総合研究センター	千葉水総研セ	和歌山県水産試験場	和歌山水試
東京都島しょ農林水産総合センター	都島しょ総セ	和歌山県栽培漁業センター	和歌山栽漁セ

機 関 名	略 記	機 関 名	略 記
鳥取県水産試験場	鳥取水試	高知県内水面漁業センター	高知内水漁セ
鳥取県栽培漁業センター	鳥取栽漁セ	高知県栽培漁業センター	高知栽漁セ
鳥取県産業技術センター	鳥取産技セ	高知県海洋深層水研究所	高知深層水研
島根県水産技術センター	島根水技セ	高知県工業技術センター	高知工技セ
岡山県農林水産総合センター水産研究所	岡山水研	福岡県水産海洋技術センター	福岡水海技セ
広島県立総合技術研究所		佐賀県玄海水産振興センター	佐賀玄海水振セ
水産海洋技術センター	広島水海技セ	佐賀県有明水産振興センター	佐賀有明水振セ
食品工業技術センター	広島食工技セ	長崎県総合水産試験場	長崎水試
山口県水産研究センター	山口水研セ	熊本県水産研究センター	熊本水研セ
徳島県立農林水産総合技術支援センター	徳島農水総技セ	大分県農林水産研究指導センター水産研究部	大分水研
徳島県立工業技術センター	徳島工技セ	宮崎県水産試験場	宮崎水試
香川県水産試験場	香川水試	鹿児島県水産技術開発センター	鹿児島水技セ
香川県赤潮研究所	香川赤潮研	沖縄県水産海洋技術センター	沖縄水海技セ
愛媛県農林水産研究所水産研究センター	愛媛水研セ	沖縄県栽培漁業センター	沖縄栽漁セ
愛媛県産業技術研究所	愛媛産技研	沖縄県海洋深層水研究所	沖縄深層水研
高知県水産試験場	高知水試		

学 会 賞 授 賞 規 程

(目 的)

第 1 条 この規程は、公益社団法人 日本水産学会（以下、「この学会」という。）定款第 4 条第 4 号に定める事業を円滑に行うため、学会賞の受賞に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(賞の種類)

第 2 条 この学会には、日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞、水産学奨励賞及び水産学技術賞を置く。

2 前項の各賞の性格は下記のとおり規定する。

- (1) 日本水産学会賞：学術研究上特別に優れた業績を上げ、水産学の発展に寄与した者に授与する。
- (2) 日本水産学会功績賞：長年にわたり水産学の発展ならびに体系化に貢献した者に授与する。
- (3) 水産学進歩賞：優れた業績を上げ、水産学の発展に寄与した 40 歳以上（授賞年度の翌年の 4 月 1 日現在）の者に授与する。
- (4) 水産学奨励賞：研究に精進し、将来の発展が期待される 40 歳未満（授賞年度の翌年の 4 月 1 日現在）の者に授与する。
- (5) 水産学技術賞：技術上著しい業績を上げ、水産学ならびに水産業の発展に貢献した者に授与する。

(受賞者の資格)

第 3 条 受賞者は、日本水産学会会員に限らない。

2 日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞及び水産学奨励賞の受賞該当業績は、既印刷のもので、少なくともその一部が日本水産学会の学会誌もしくは学術刊物に掲載されたものであることを要する。

3 日本水産学会賞を受賞した者は、日本水産学会功績賞以下のほかの賞を受賞することはできない。また水産学奨励賞を受賞した者は、水産学進歩賞を受賞することはできない。

(授賞件数)

第 4 条 日本水産学会賞は年 2 件以内、日本水産学会功績賞は年 2 件以内、水産学進歩賞は年 4 件以内、水産学奨励賞は年 4 件以内、水産学技術賞は年 3 件以内とする。ただし、必要と認められた場合には、授賞件数を若干数変更できるものとする。

(委員の選出手続き)

第 5 条 学会賞選考委員会（以下、「選考委員会」という。）は、学会賞選考委員（以下、「選考委員」という。）15 名をもって構成する。

2 選考委員は支部幹事の投票により決定する。支部幹事は指定された 3 分野 (A, B, C) について各 4 名以内を、また、分野にとらわれず推薦したい人の枠 (D) について 3 名以内を、全国的視野に立ち投票する。ただし、A~D を重複して同一人名を記載することはできない。

3 前項の分野は、科研費細目の 3 分野に対応させて、A：水圏生産科学 A（環境、物質循環、生物、生態系）、B：水圏生産科学 B（漁業、資源、増養殖、経済）、C：水圏生命科学（水産化学、生化学、生理、食品）とする。

4 選考委員の選出は次の手続きにより行う。

- (1) 同一機関からの選出者は委員総数の 3 分の 1 未満とし、これを越える場合は総得票順に別機関から選出するものとする。
- (2) A~C の 3 分野については分野ごとに高得票数順に 4 名を選出する。ただし、複数分野での選出は認めず、高得票を得た分野での選出とする。
- (3) 次に総得票数順に 3 名を選出する。同一人が A~D の分野・枠にまたがって得票した場合は、その総数をもって得票数とする。
- (4) すべての選出において得票数が同数の場合は、年長者順とする。
- (5) 各号の定めのない事項については、選挙管理委員会の決定によるものとする。

(受賞候補者の推薦)

第 6 条 正会員は選考委員会が別に定める形式に従い日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞、水産学奨励賞及び水産学技術賞の受賞候補者を広い視野に立って推薦することができる。ただし、選考委員は推薦者となることはできない。

- 2 受賞候補者の推薦にあたっては、各賞1件以内の候補者を選び、所定の用紙により1件ごとに推薦理由及び候補者の略歴を付して選考委員長あて送付する。推薦理由書は1頁以内とする。なお、日本水産学会賞については該当業績のみを、また日本水産学会功績賞についてはすべての業績目録を添付する。
- 3 受賞候補者推薦の期限は7月末日とする。
- 4 選考委員長は、被推薦者の一覧表を作成し、選考委員に配布する。
- 5 選考委員会は、被推薦者を対象として、理事会に推薦する学会賞受賞候補者を選考する。
- 6 その他推薦、選考に関して必要な事項は、学会賞選考委員会内規で定める。

(受賞者の決定)

第7条 受賞者の決定は、選考委員会による受賞候補者選考の結果に基づき、理事会の議を経て会長が行う。

(賞の授与)

第8条 賞の授与は、定時社員総会において行う。

2 賞は賞牌及び賞金とする。賞金は日本水産学会賞10万円、日本水産学会功績賞10万円、水産学進歩賞5万円、水産学奨励賞5万円、水産学技術賞5万円とする。

3 賞に要する費用は本学会の経費をもって充てる。

(改 廃)

第9条 本規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、公益認定を受け移行の登記を行った日から施行する。

(平成24年9月14日 一部改正)

(平成26年9月19日 一部改正)

(内規より抜粋)

- 1) 受賞者は授賞対象業績1件につき1名とし、協力業績に限り連名とすることができる。ただし、連名とする場合は、少なくとも授賞対象業績の一部に共著論文を含むものとする。指導者または補助的役割をなした者を除く。

正（学生）会員入会案内

公益社団法人日本水産学会に正（学生）会員として入会するには、入会申込書を提出していただき、理事会の承認を得る必要があります。申込書に必要事項を記入し、本学会事務局までお送り下さい（FAX 不可）。理事会での承認後、新入会員には入会承認通知書が発行され、その年度からの会員資格が得られます。この入会承認通知書には会員番号が記載されておりますので、今後本学会への連絡等には、必ず会員番号を明記して下さい。

会員には、会員に関する規則にあるように、日本水産学会誌の配布を受けるとともに、報文投稿や研究発表会（大会）における発表、Fisheries Science 誌のインターネット上での閲覧などの特典が与えられます。その他の詳細については、定款および会員に関する規則が日本水産学会誌3号（5月発行号）あるいは本学会ホームページに掲載されておりますのでご参照下さい。

また、入会承認通知書送付時に郵便局の払込用紙を同封いたしますので、年度会費（正会員 10,000円、学生会員 6,000円）を納入して下さい。（次年度の会費からは、ゆうちょ銀行はじめ銀行等の口座振替を利用することもできますので、希望される方はご連絡下さい。申込書を送付いたします。）

振込先 郵便振替口座 00100-1-59529（口座名 公益社団法人 日本水産学会）

入金確認後、日本水産学会誌を入会年度の2号（3月発行号）から送付いたします。なお、大会への参加や発表を目的とする入会希望者で、理事会での承認前に日本水産学会誌の送付を希望する場合には、入会申込と同時に会費を納入してください。会費の入金が確認でき次第、日本水産学会誌をお送りいたします。詳しくは本学会事務局までお問合せください。

学生会員の資格は入会年度内となります。次年度も学生の身分で、会員継続を希望する場合は、会費を2月末日までに前納すれば再入会の手続は不要となります。なお、2月末日までに納入のない学生会員は自動的に退会となります。

記入要領（裏面記入例も参照）

- （太枠）内のみご記入下さい。
- 内には漢字、ローマ字、カナ、数字を1字ずつご記入下さい。

会員名 (1) [カタカナ] 姓と名の間は一字空けて下さい。長い名前の場合も20字までで結構です。
 (2) [ローマ字] 姓と名の間は一字空けて下さい。
 (3) [漢字] 姓と名の間は一字空けて下さい。外国人の場合も姓、名の順で記入して下さい。

漢字は宛名印刷に使われます。漢字圏でない外国人の場合はアルファベットで印刷されます。

最終学歴は(7)に大学（院）、学部、学科などを記入して下さい。

(9) 専門は食品学、増養殖学、資源学、海洋学、漁業生産学などのように記入して下さい。

(10) 専門分野は以下より1つ選んで該当番号を○で囲んで下さい。

1. 漁業・資源…漁業、資源生態
2. 水産生物・増養殖…生物、種苗生産、養成、魚病、遺伝子、免疫
3. 環境…水圏環境
4. 水産化学…化学、生化学、食品、利用・加工
5. その他

(12)及び(10) 都道府県、市町村、番地、建物名、部屋番号や様方などを記入して下さい。住所が1行で収まらない時は2行目を使用して下さい。宛先は記載された通りの形で宛名ラベルに印刷されますので、区切り方については十分注意して下さい。

(17) 勤務先・在学先名称、部署名等を記入して下さい。(23)で会誌発送先を勤務先・在学先とした場合、(10)と(17)を合わせたものが宛名ラベルに印刷されます。

(18) 学生会員になるには、指導教員の署名が必要です。

(22) e-mail は数字と英字の区別および文字をはっきりと記入し、判別の難しい文字は下段にフリガナを記入して下さい。

(23) 会誌発送先、(25)会員種別は該当箇所を○で囲んで下さい。

会員の異動および退会届について

入会后、本学会に登録してある会員情報（会誌発送先・勤務先等）に変更が生じた場合は、異動届により至急ご連絡ください。

特に、正会員が、大学またはこれに準ずる学校に在籍して定款第5条 第6号の学生会員に資格変更を希望する場合は、異動届とともに在籍証明書を本学会事務局へ提出し、理事会の承認を得ることが必要です。また、いったん承認されても、次の年度においても同様の会員資格変更の手続きを行わなかった場合は、正会員となります。

会員は、学生会員を除き、退会の申し出がない限り、会員として継続されます。退会を希望する場合は、2月末までに必ず退会届を本学会事務局へご提出ください。退会届の受付はその年度の2月末日までです。3月以後の届け出は次年度の退会扱いとなります。退会前に未納会費を必ずご精算ください。退会後も未納会費の支払い義務を免れることはできません。なお、2年以上会費を滞納している会員は、定款第10条第1項1号に基づき、理事会の議を経て、会員資格を喪失することとなり、お名前を日本水産学会誌5月号の会報欄で公表することになります。日本水産学会誌および Fisheries Science 誌において、著者名に会員資格喪失者が入っている論文や企画記事の原稿は一切受け付けられません。また、会員資格を喪失すると、本学会の大会における発表も行うことができませんのでご注意ください。

[入会申込書記入例]

会員名	
(1) [カタカナ]	ハタ トメゴロウ
(2) [ローマ字]	Hata Tomegoro
(3) [漢字]※	畑 留五郎
(4) 生年月日 西暦	1970年 11月 25日 (5) 性別 ① 男 2. 女
最終学歴 (6) 西暦	1999 年度卒業 (7)※ 東京大学大学院農学生命科学研究科
(8) 学位※	博士 (農学)
(9) 専門※	水産物利用学
(10) 専門分野	1. 漁業・資源 ② 水産生物・増養殖 3. 環境 4. 水産化学 5. その他
1 自宅	(11) 〒 330-1111
(12) 住所※	埼玉県さいたま市北上町大字高木字天神 1480-2 春風荘 108
(13) TEL	0486-24-1234 (14) FAX 0486-24-3333
2 勤務先・在学先	(15) 〒 332-1234
(16) 住所※	埼玉県川口市川口東5-18-25
(17) 所属機関※	東川口食品工業(株)川口研究所 (19) TEL 0482-99-8877 研究開発2グループ (20) 内線 5355
	(21) FAX 0482-99-8888
(18) 指導教員署名	(学生会員のみ指導教員の自署が必要)
3 (22) 連絡先 e-mail	hata tom @ dldion.ac.jp
e-mail フリガナ	オーエム @ デイーイチ
(23) 会誌発送先	1. 自宅 ② (勤務先)・在学先 (24) 入会希望年度 西暦 2013 年度
(25) 会員種別	① 正会員 2. 学生会員

公益社団法人 日本水産学会
入会申込書

会員番号 会員種別 支部 (記入要領及び記入例参照
※は漢字でご記入ください。)

会員名

(1) [カタカナ]

(2) [ローマ字]

(3) [漢字]※

(4) 生年月日 西暦 年 月 日 (5) 性別 1. 男 2. 女

最終学歴 (6) 西暦 年度卒業 (7)※

(8) 学位※ (9) 専門※

(10) 専門分野 1. 漁業・資源 2. 水産生物・増養殖 3. 環境 4. 水産化学 5. その他

1 自宅 (11) 〒 -

(12) 住所※

(13) TEL (14) FAX

2 勤務先・在学先 (15) 〒 -

(16) 住所※

(17) 所属機関※ (19) TEL

(20) 内線

(21) FAX

(18) 指導教員署名 _____ (学生会員のみ指導教員の自署が必要)

3 (22) 連絡先 e-mail @

e-mail フリガナ @

(23) 会誌発送先 1. 自宅 2. 勤務先・在学先 (24) 入会希望年度 西暦 年度

(25) 会員種別 1. 正会員 2. 学生会員

会費入金額 入金日付

異動・退会届

※は漢字でご記入ください。

* 退会の受付はその年度の2月末日までです。2月末日までに必ず退会届を提出してください。

* 3月以後の届け出は次年度の退会扱いとなります。

* 退会希望の方は退会年度までの会費を必ず納入ください。

会員番号	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	—	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>
------	---	---	---

氏名※	[姓] (旧姓)	[名]
フリガナ		
ローマ字		

該当するものを

○で囲んで下さい

①会誌発送先変更 ⑥退会希望

②自宅住所変更 ⑦その他

③勤務先変更

④学歴変更

⑤会員種別変更 _____

西暦 年度から

会員種別を(正・外国・学生)に変更

最終学歴(6) 西暦 年度卒業(7)※

(8) 学位※

(9) 専門※

1 自宅 (11) 〒 -

(12) 住所※

(13) TEL (14) FAX

2 勤務先・在学先 (15) 〒 -

(16) 住所※

(17) 所属機関※ (19) TEL

(20) 内線

(21) FAX

(18) 指導教員署名 _____ (学生会員のみ指導教員の自署が必要)

3 (22) 連絡先 e-mail @

e-mail フリガナ @

(23) 会誌発送先 1. 自宅 2. 勤務先・在学先

(24) 退会希望年 西暦 年2月末日を以って退会 理由 (_____)

* 退会届は希望年度の2月末日までに本学会事務局へご提出ください。

会 報

公益社団法人 日本水産学会 平成 26 年度第 7 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 27 年 2 月 7 日(土) 12 時 59 分～16 時 16 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
2 号館 200A-2 会議室 (東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数
総数 17 名, 定足数 9 名
- 4 出席理事数 17 名
(本人出席) 吾妻行雄, 荒井克俊, 荒井修亮, 飯田貴次, 香川浩彦, 金子豊二, 木島明博, 嵯峨直恆, 青海忠久, 関伸吾, 東海 正, 時村宗春, 古谷 研, 松山倫也, 山下 洋, 渡邊良朗, 渡部終五
(監事出席) 青木一郎, 瀬川 進
(幹事出席) 遠藤英明, 田代有里, 石田真巳, 鈴木美和, 塩出大輔, 久田 孝
(オブザーバー) 伊藤文成 (理事候補者), 大越和加 (理事候補者), 佐竹幹雄 (理事候補者)
- 5 議 案
決議事項 第 1 号議案 「増員による平成 27 年度役員 (理事) 候補者の決定」の件
第 2 号議案 「平成 27 年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項」の件
第 3 号議案 「平成 27 年度事業計画」の件
第 4 号議案 「平成 27 年度予算」の件
第 5 号議案 「平成 27 年度中部支部支部長選出」の件
第 6 号議案 「平成 26 年度日本水産学会論文賞の決定」の件
第 7 号議案 「投稿規程の一部改正」の件
第 8 号議案 「寄附金の使途」の件
第 9 号議案 「国際研究・交流資金 (特定費用準備資金) 計画変更」の件
第 10 号議案 「平成 27 年度各種委員会委員長選出」の件
第 11 号議案 「平成 27 年度各種委員会委員選出」の件
第 12 号議案 「創立 85 周年記念事業の各種委員会委員選出」の件
第 13 号議案 「平成 27 年度秋季大会委託業者」の件
第 14 号議案 「平成 27 年度秋季大会募金目論見書」の件
第 15 号議案 「理事会主催シンポジウム開催」の件
第 16 号議案 「平成 26 年度資格喪失者」の件
第 17 号議案 「入会承認」の件
報告事項 ①第 6 回理事会以降の職務執行の状況
②その他
- 6 議事の経過及びその結果
(1) 定足数の確認等
渡部会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。
(2) 議案の審議状況及び議決結果等
定款の規定に基づき, 渡部会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。
(決議事項)
第 1 号議案 「増員による平成 27 年度役員 (理事) 候補者の決定」の件 (別紙 1)
東海総務担当理事より, 増員による平成 27 年度役員 (理事) 候補者の決定に関する説明があった。審議の結果, 出席理事全員一致で別紙 1 の通り可決した。
第 2 号議案 「平成 27 年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項」の件
東海総務担当理事より, 平成 27 年度定時社員総会の日時, 場所及び目的である事項について説明があった。

開催日時：平成 27 年 3 月 29 日(土) 13 時開始

開催場所：東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区港南）

目的である事項：第 1 号議案 平成 26 年度事業報告ならびに貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録承認の件

第 2 号議案 増員による平成 27 年度役員（理事）選任の件

第 3 号議案 名誉会員推薦の件

審議の結果、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

第 3 号議案 「平成 27 年度事業計画」の件（別紙 2）

東海総務担当理事より、平成 27 年度事業計画についての原案の説明があった。審議の結果、一部修正の上、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第 4 号議案 「平成 27 年度予算」の件（別紙 3）

渡邊財務担当理事より、平成 27 年度予算についての原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

本議案について以下の質疑応答があった。

青木監事 「予算総額が例年よりも増加したことに対し、各委員会等に予算額減額の努力を要請しないのか。」

東海理事 「例えば、託児所はほとんど利用者がいないため決算額が予算額を大幅に下回ることがあるが、学会として準備しておくべき経費は計上している。予算書の内容を会計士に見ていただいたところ、問題ないと判断であった。」

第 5 号議案 「平成 27 年度中部支部支部長選出」の件

東海総務担当理事より、平成 27 年度中部支部支部長選出について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

支部長 皆川 恵

第 6 号議案 「平成 26 年度日本水産学会論文賞の決定」の件（別紙 4）

古谷編集担当理事より、平成 26 年度日本水産学会論文賞の原案についての説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第 7 号議案 「投稿規程の一部改正」の件（別紙 5）

古谷編集担当理事より、投稿規程の一部改正について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

本議案について以下の質疑応答があった。

荒井（克）理事 「この改正案は掲載済みの論文を撤回することは規定していないということか。」

古谷理事 「撤回の告知を掲載することになるだろう。」

東海理事 「科学技術情報流通技術基準に、撤回告知記事を掲載することを規定している。むしろ撤回に至るまでの調査が大変になると予想されるため、申し合わせを検討している。」

金子理事 「投稿原稿は何を指すのか。」

東海理事 「投稿規程において規定している報文を指す。」

渡邊理事 「捏造と偽造の違いは何か。」

東海理事 「捏造とは、行ってもいない調査・実験からデータを得たかのように報告することであり、偽造とは、調査・実験は行っているもののデータを自分の有利になるように変更していることであり、これらの定義は原稿の書き方に示すことを考えている。」

第 8 号議案 「寄附金の使途」の件（別紙 6）

東海総務担当理事より、平成 26 年 12 月 15 日(月)に一般財団法人学術著作権協会より寄附金 24,000 円を受けた報告があった。また、渡邊財務担当理事より、寄附金の使途を公益目的事業 2 に該当する日本水産学会誌印刷費に充てるとの原案が説明された。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第 9 号議案 「国際研究・交流資金（特定費用準備資金）計画変更」の件

渡邊財務担当理事より、国際研究・交流資金（特定費用準備資金）を創立 85 周年記念国際シンポジウムの準備資金とする計画に変更する旨の原案が説明された。審議の結果、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

第 10 号議案 「平成 27 年度各種委員会委員長選出」の件

東海総務担当理事より、平成 27 年度各種委員会委員長選出について説明があった。審議の結果、次の通り出席理事

全員一致で可決した。

編集委員会	佐藤秀一
企画広報委員会	浅川修一
水産教育推進委員会	小島隆人
シンポジウム企画委員会	高木 力
国際交流委員会	佐藤秀一
水産政策委員会	八木信行

第 11 号議案 「平成 27 年度各種委員会委員選出」の件

東海総務担当理事より、平成 27 年度各種委員会委員選出についての原案が説明された。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 12 号議案 「創立 85 周年記念事業の各種委員会委員選出」の件

渡部会長より、創立 85 周年記念事業の各種委員会委員選出についての原案が説明された。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 13 号議案 「平成 27 年度秋季大会委託業者」の件

東海総務担当理事より、平成 27 年度秋季大会運営委託業者について、2 社の見積もりを検討した結果、トーヨー企画㈱に決定したいとの説明があった。審議の結果、出席理事全員一致でこれを可決した。

第 14 号議案 「平成 27 年度秋季大会募金日論見書」の件

東海総務担当理事より、平成 27 年度秋季大会募金日論見書の案をもとに、平成 27 年度日本水産学会秋季大会実行委員会において平成 27 年 5 月 20 日から平成 27 年 8 月 31 日までの間、寄附（協賛）金の募集を行う旨の原案が説明された。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第 15 号議案 「理事会主催シンポジウム開催」の件

木島理事より、日本水産学会理事会主催特別シンポジウムの企画原案タイトル「東北の海は今、震災後 4 年間の研究成果と漁業復興（仮称）」と開催日（平成 27 年度秋季大会前日）についての原案が説明された。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第 16 号議案「平成 26 年度資格喪失者」の件

東海総務担当理事より、平成 26 年度資格喪失者の案として対象者となる会員氏名リストが示され、2 月末までに滞納会費が支払われることでリストから名前が除かれるという説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第 17 号議案「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

（報告事項）

①第 6 回理事会以降の職務執行の状況

・庶務関係

東海担当理事より次の報告があった。

1) 共催及び協賛の件（共催、協賛、後援の取り扱い申し合わせ 3）を適用）

①第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会

主催	マリンバイオテクノロジー学会
協賛	日本化学会 他 26 学協会
日程	平成 27 年 5 月 30 日（土）・31 日（日）
場所	東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）
希望	協賛
負担金	なし

②食品ハイドロコロイドセミナー 2015

主催	食品ハイドロコロイド研究会
共催	京都大学化学研究所 共同利用・共同研究拠点
協賛	化学工学会 他 25 学協会
日程	平成 27 年 5 月 21 日（木）

場所 京都大学化学研究所 共同研究棟大セミナー室（京都府宇治市）
 希望 協賛
 負担金 なし

③第26回食品ハイドロコロイドシンポジウム

主催 食品ハイドロコロイド研究会
 共催 京都大学化学研究所 共同利用・共同研究拠点
 協賛 化学工学会 他 25 学協会
 日程 平成 27 年 5 月 22 日(金)
 場所 京都大学化学研究所 共同研究棟大セミナー室
 希望 協賛
 負担金 なし

2) 会員名簿の改訂について

会員名簿の改訂作業について寄せられた意見から、各会員が会員データベースにアクセスして個人情報を修正できるようなシステムの利用の可能性を検討している。

• 企画広報関係

金子担当理事より、平成 27 年 1 月 14 日(水)に企画広報委員会が開催されたことが報告された。

• 財務関係

渡邊担当理事 特になし

• 編集関係

古谷担当理事より、次の報告があった。

- 1) 日本水産学会誌の校正作業が PDF 化されたことから、今後は幹事・校正係に海洋大と海洋大以外所属の会員に依頼することとした。
- 2) 掲載報文の学位論文への転載許可（リポジトリへの登載を含む）に対する方針を決定した。
- 3) 日本水産学会誌のオンライン早期公開を 82 巻 1 号から行う予定で準備している。
- 4) 学会ホームページ英語版を準備中である。

• 学会賞関係

荒井(克)担当理事より、渡部終五会長の日本農学賞受賞決定の報告があった。

• シンポジウム関係

松山担当理事より、平成 27 年度春季大会においてシンポジウム 2 件、ミニシンポジウム 2 件が開催予定であること、また平成 27 年度秋季大会シンポジウムでは 1 件の企画案があるとの報告があった。

• 出版関係

木島担当理事より、平成 27 年 1 月 7 日(水)に開催された出版委員会について次の報告があった。

- 1) 水産学シリーズ 182 号の刊行の準備が進行中である。
- 2) 「魚介類内在性プロテアーゼ基礎から水産食品加工への応用まで」(平成 28 年 3 月刊行予定)が水産学シリーズに採択された。もう一件の企画は不採択となった。
- 3) 秋季大会開催のシンポジウムの企画を水産学シリーズの最終号とするか、あるいは創立 85 周年記念シンポジウム開催時に出版されるものを最終号にするかについて継続審議中である。
- 4) 新委員の推薦があり承認された。
- 5) 創立 85 周年記念事業として発行される水産学用語辞典の編集に協力する。
- 6) 水産学シリーズの終了後について検討するために、出版社が学会員に対しアンケートを実施したい。

• 水産技術誌監修関係

時村担当理事より、平成 27 年 1 月 8 日(木)に開催された水産技術誌監修委員会について次の報告があった。

- 1) 第 7 巻 2 号の掲載論文が審議された。
- 2) 第 7 巻 2 号は平成 27 年 3 月刊行予定である。
- 3) 投稿要領改訂の説明があった。
- 4) 文献リストの書き方について意見交換があり、次回の委員会において検討することとした。

• ベルソーブックス関係

松山担当理事より、平成 27 年 1 月 14 日(水)にベルソーブックス委員会が開催された報告があった。続いて金子理

事より出版委員会に引き継ぐにあたっての今後の方針について次の報告があった。

- 1) 水産学会の役割を監修から出版協力に変更する。
 - 2) 出版契約書に代わるものとなる覚書の内容は、次回の理事会において審議される予定である。
 - 3) ベルソープックスの出版要項、企画募集案等の具体的な事項については、出版委員会に引き継ぐための準備を行っている。
- 国際交流関係
 - 青海担当理事 特になし
 - 水産教育関係
 - 荒井（克）担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年 3 月 31 日（火）開催予定のミニシンポジウム「初等中等教育における水産を考える」を準備中である。
 - 2) 教育関係の国際学会において発表予定で準備中である。
 - 3) 平成 27 年度の委員を決定した。
 - 水産政策関係
 - 山下担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年 3 月 31 日（火）にミニシンポジウム「調査捕鯨と国際司法裁判所（ICJ）判決」を開催予定である。
 - 2) 平成 27 年度の委員長ならびに副委員長を決定した。
 - 漁業・資源管理関係
 - 渡邊担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年 3 月 27 日（金）に講演会「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究」の開催を予定している。
 - 2) 平成 27 年度秋季大会期間中に講演会の開催を予定している。
 - 3) 平成 27 年度の委員長、副委員長を決定した。
 - 水産利用関係
 - 渡部担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年 2 月 3 日（火）に水産利用懇話会委員会を開催した。
 - 2) 同日委員会終了後に講演会「国内の水産資源を持続的に利用するための打ち手」を開催した。参加者は39名であった。
 - 水産増殖関係
 - 木島担当理事より、平成 27 年度春季大会期間中に講演会「最新の技術を利用した水産育種」を開催予定であることの報告があった。
 - 水圏環境関係
 - 山下担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年度の委員長ならびに副委員長を決定した。
 - 2) 平成 27 年 2 月 7 日（土）に沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウム「沿岸環境科学と社会の接点をめぐって-海洋保護区の展開・漁村の震災復興」を開催した。
 - 3) 平成 27 年 3 月 27 日（金）にシンポジウム「炭素・窒素同位体比でひも解く水産生物をとりまく環境の複雑さ」を開催予定である。
 - 社会連携関係
 - 嵯峨担当理事 特になし
 - 将来計画関係
 - 古谷担当理事より、創立 85 周年記念事業の準備活動を進めているとの報告があった。
 - 男女共同参画関係
 - 金子担当理事より、平成 27 年度春季大会の際に、男女共同参画についての大型アンケートを要約したものをクリアファイルにプリントして配布するための準備を進めている。
 - 北海道支部
 - 嵯峨担当理事 特になし
 - 東北支部
 - 吾妻担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年 2 月 6 日（金）に支部例会ミニシンポジウム「若手研究者によるトークセッション」を開催した。

- 2) 東北支部大会の一般発表における優秀発表者2名に支部長賞を授与した。
 - 3) 平成27年度秋季大会の準備状況については、同時期に同会場で開催される遺伝学会との間で、展示パネルの手配、清掃業者との交渉、立て看板の準備、バスの手配、託児所の開設等を共同運営することで話を進めている。
- 関東支部

時村担当理事より、次の報告があった。

 - 1) 平成27年度春季大会準備状況
 - a) 講演申込数851件（口頭発表614件、ポスター発表237件）、高校生による研究発表申し込み数53件。
 - b) 会期中の各種委員会、シンポジウム、ミニシンポジウム、学会賞受賞者講演等については、学会事務局からの情報をもとに会場設営の手配中である。
 - c) プログラム編成作業中である。
 - 2) 平成28年度春季大会については、水産総合研究センター中央水産研究所が主催となり、日本大学生物資源学部の協力で平成28年3月26日(土)～30日(水)か27日(日)～31日(木)を開催期間とし、東京海洋大学を会場に開催する計画を立てている。大会委員長には次期の中央水産研究所所長を予定している。日程及び会場の決定については、次回理事会において審議される予定である。
 - 3) 平成27年度事業計画についての経過
 - a) 都県の水産研究機関の研究ニーズに対応したシンポジウム等の開催については、「キンメダイ」をテーマにして次年度10月頃を目処に開催する予定である。正式には次年度の支部幹事会で決定する予定である。
 - b) 平成27年度春季大会における水産学若手の会（特別委員会）主催イベント「展示参加企業によるプレゼンテーション」への対応として、若手の会の担当者から開催日時、会場等の準備状況について報告を受けた。
 - 中部支部

飯田担当理事より、平成27年度の支部長を選出したとの報告があった。
 - 近畿支部

荒井（修）担当理事 特になし
 - 中国・四国支部

関担当理事より、平成26年11月29日(土)・30日(日)に支部例会を開催し、参加者は一般研究発表70名弱、シンポジウム50名程度、高校生によるポスター発表3題であったとの報告があった。
 - 九州支部

香川担当理事より、平成27年1月10日(土)に支部幹事会、総会、大会、高校生による発表を行い、一般演題14題、高校生による演題3題、参加者60名程度で、一般講演の若手発表2件、高校生による発表1件を表彰したとの報告があった。
 - 英文書籍監修委員会（特別委員会）

東海総務担当理事より、ひとつの企画については、あと一編の原稿が集まり次第、査読を進めて来年度中に刊行したいとの報告があった。
 - 東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

渡部会長より、次の報告があった。

 - 1) 平成27年度秋季大会に合わせて開催する理事会主催シンポジウムについては、本委員会も主体的に活動する方向で検討している。
 - 2) 平成27年度春季大会期間中に委員会を開催する予定である。
 - 水産学若手の会（特別委員会）

渡部会長より、次の報告があった。

 - 1) 平成27年度春季大会において、各種の企画を準備している。
 - 2) 平成27年度春季大会においてミニシンポジウム「若手が拓く水産学研究：国際舞台で活躍する若手研究者たち」を開催予定である。
 - 3) 委員に女性会員などが数名増えた。
 - 日本水産学会85周年記念事業委員会（特別委員会）

渡部会長より、平成27年2月7日(土)午前中に委員会を開催し、その後で国際シンポジウム実行委員会を開催したとの報告があった。

- 水産・海洋科学研究連絡協議会関係

東海総務担当理事 特になし

- 日本農学会関係

東海総務担当理事より、平成 27 年 1 月 23 日(金)に開催された評議員会について次の報告があった。

- 1) 日本農学賞の選考があった。
- 2) (公社)日本木材学会が日本農学会を退会した。

②その他

- 学会賞受賞者講演の座長と会場係について

東海総務担当理事より、学会賞受賞者講演の座長と会場係について説明があり、担当を確認した。

- 次回理事会の開催について

東海総務担当理事より、次回平成 27 年度第 1 回理事会は平成 26 年 3 月 7 日(土) 14 時 30 分から、国立大学法人東京海洋大学で開催する予定である旨確認があった。

- 支部の事業報告と決算報告の提出日程について

東海総務担当理事より、預金残高証明の取得、事業報告、決算報告の提出日程について説明があり、日程に沿って各支部、懇話会及び委員会は対応してもらいたいとの依頼があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16 時 16 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

別紙 1

公益社団法人日本水産学会 平成 27 年度役員候補者名簿

役員選出規程第 2 条第 3 項に係る理事候補者

1. 伊藤文成 (いとうふみなり) 水産総合研究センター 理事
2. 大越和加 (おおこしわか) 東北大学大学院農学研究科 准教授
3. 佐竹幹雄 (さたけみきお) 日本海洋事業株式会社 顧問

別紙 2

平成 27 年度 事業計画

[本年度の目標]

本学会の公益目的事業の円滑な遂行を図るとともに社会との接点を広げ、学術研究の成果として得られる情報を学会内で学の立場から統合・整理・発展させ、かつ広く社会に発信していく活動を充実させるため、以下の事業を行う。また、東日本大震災の被災地における水産業の復興支援に係る事業を本年度も継続して行うこととする。

1. 役員会・組織運営等に関する事項

(1) 総会

- a) 定時社員総会は、定款第 13 条に基づき、平成 27 年 3 月 29 日に開催する。また、必要がある場合には臨時社員総会を開催する。

(2) 理事会

- a) 通常理事会は、定款第 29 条及び理事会運営規程第 2 条 2 項に基づき、7 回開催する。また、理事会運営規程第 2 条 3 項による臨時理事会は随時開催する。

(3) 支部

a) 北海道支部

支部総会を年 1 回、支部幹事会を年 1 回開催する (開催日未定)。

b) 東北支部

支部総会を年 1 回 (平成 28 年 2 月予定)、支部幹事会を年 2 回 (平成 27 年 7 月、平成 28 年 2 月予定)、支部幹事・支部連絡調整員会議を年 1 回 (平成 27 年 11 月予定) 開催する。

c) 関東支部

- 支部幹事会を年1回開催する（平成27年6月予定）。
- d) 中部支部
支部総会を年1回，支部幹事会を年1回開催する（開催日未定）。
- e) 近畿支部
支部幹事会を年2回（平成27年7月11日，12月5日）開催する。
- f) 中国・四国支部
支部総会を年1回，支部幹事会を年1回開催する（開催日未定）。
- g) 九州支部
支部総会を年1回（平成27年11月～12月予定），支部幹事会を年1回（平成27年11月～12月予定）開催する。
- (4) 委員会
- a) 編集委員会
学会誌の編集方針，報文の原稿の書き方，印刷物の体裁，オンライン投稿と審査に関する手続き等及び論文賞候補の推薦に係る必要事項を審議するため，年4回定期的に開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- b) 企画広報委員会
和文誌に掲載する記事の企画を行うほか，和文誌の編集発行，学会ホームページの運営及び新たな事業の企画と広報に関する業務について審議するため，隔月1回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- c) 学会賞選考委員会
学会賞受賞候補者及び日本農学賞その他の受賞候補者について審議するため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- d) シンポジウム企画委員会
シンポジウムとミニシンポジウムの題目，企画責任者及び水産学シリーズへの刊行の推薦について審議するため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- e) 出版委員会
水産学シリーズの出版企画，水産学シリーズ以外の学術図書の出版企画，出版社との契約事項等を審議するため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- f) 水産環境保全委員会
水産環境の保全に関連する諸事項について審議し，理事会の承認を得て行うシンポジウム，講演会の企画・開催等に関連する業務を行うため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- g) 漁業懇話会委員会
懇話会，講演会，研究会等の企画，開催に関する事項を審議するため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- h) 水産利用懇話会委員会
懇話会，講演会，研究会等の企画，開催に関する事項を審議するため，年3回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- i) 水産増殖懇話会委員会
懇話会，講演会，研究会等の企画，開催に関する事項を審議するため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- j) 国際交流委員会
国際交流に関する諸事項を審議するため，年2回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- k) 選挙管理委員会
理事及び監事の候補者の選挙，学会賞選考委員の選挙ならびに役員の欠員のための補欠の候補者の選挙に関する審議，業務を行うため，必要に応じて随時開催する。
- l) 水産教育推進委員会
水産教育に係る事項について審議し，理事会の承認を得て行う事業を実施するため，年4回開催するほか，必要に応じて随時開催する。
- m) 水産技術誌監修委員会
水産分野の技術者，研究者，事業者等を対象として独立行政法人水産総合研究センターが企画・編集し，定期

的に刊行する和文誌「水産技術」について、編集の方針を提示し、編集の監督を行うため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

n) 水産政策委員会

会長あるいは理事会の諮問に対応して各種の提言案を作成し、理事会に答申するため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

o) 男女共同参画推進委員会

本学会における男女共同参画に関する諸事項を審議し、関連の業務を行うため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

[公益目的事業1]

研究発表会及び学術講演会・シンポジウムの開催ならびに研究業績の表彰による水産学の学術の発展と科学技術の振興を推進するため、以下の事業を行う。

2. 研究発表会及び学術講演会等の開催による水産学研究の推進事業（定款第4条1項1号に定める事業）

(1) 研究発表会

a) 春季大会：平成27年3月27日(金)～3月31日(火)

於東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）

大会委員長 有元貴文

研究発表 口頭，ポスター

高校生によるポスター発表

シンポジウム 2件，ミニシンポジウム 2件

平成26年度学会賞受賞者講演13題

b) 秋季大会：平成27年9月22日(火)～9月25日(金)

於東北大学川内キャンパス（宮城県仙台市）

大会委員長 佐藤 實

研究発表 口頭，ポスター

シンポジウム，ミニシンポジウムの開催

(2) シンポジウム

春季大会開催時（平成27年3月27日，於東京海洋大学品川キャンパス）

a) 「魚介類内在性プロテアーゼー基礎から水産食品加工への応用まで」

企画責任者：長富 潔・原 研治・岡崎恵美子・大迫一史・今野久仁彦・桑原浩一

b) 「魚類行動生理学の基礎と水産研究への応用」

企画責任者：棟方有宗・安藤宏徳・小林牧人

秋季大会開催時（平成27年9月22日，25日，於東北大学川内キャンパス）

a) 「東日本大震災からの復興・再生に向けた新たな水産業の創成につながる新技術開発」

企画責任者：竹内俊郎・佐藤 實・渡部終五

(3) ミニシンポジウム

春季大会開催時（平成27年3月31日，於東京海洋大学品川キャンパス）

a) 「若手が拓く水産学研究：国際舞台で活躍する若手研究者たち」（共催 水産学若手の会）

企画責任者：横内一樹・海部健三・細谷 将

b) 「調査捕鯨と国際司法裁判所（ICJ）判決」（共催 水産政策委員会）

企画責任者：八木信行・加藤秀弘・北門利英

秋季大会開催時（平成27年9月22日，25日，於東北大学川内キャンパス）

数件を開催予定

(4) 各支部が行う研究発表会及び講演会

a) 北海道支部

①支部大会の開催（シンポジウム，一般講演・若手の会企画講演会，開催日未定）

b) 東北支部

①支部大会の開催（シンポジウム，平成 27 年 11 月予定）

②支部例会の開催（平成 28 年 2 月予定）

c) 関東支部

①支部大会の開催（シンポジウム，平成 27 年 10 月予定）

d) 中部支部

①支部大会の開催（研究発表，ポスター発表，開催日未定，於東海大学）

e) 近畿支部

①支部前期例会の開催（シンポジウム，研究発表，平成 27 年 7 月 11 日，於京都大学農学部）

②支部後期例会の開催（シンポジウム，研究発表，平成 27 年 12 月 5 日，於京都大学農学部）

f) 中国・四国支部

①支部例会の開催（開催日未定）

g) 九州支部

①支部大会の開催（一般講演，高校生による研究発表，公開シンポジウム，若手の会セミナー，平成 27 年 11 月～12 月予定）

(5) 各委員会が行う研究発表会及び講演会

a) 理事会

①特別シンポジウム「東北の海は今，震災後 4 年間の研究成果と漁業復興（仮称）」の開催（平成 27 年 9 月 21 日，於東北大学さくらホール）

b) 企画広報委員会

①水産に関する勉強会の開催（開催日未定）

c) 水産環境保全委員会

①シンポジウム「炭素・窒素同位体比でひも解く水産生物をとりまく環境の複雑さ」の開催（平成 27 年 3 月 27 日，於東京海洋大学品川キャンパス）

②研究会の開催（平成 27 年度日本水産学会秋季大会時，於東北大学川内キャンパス）

③沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウムの開催（開催日未定）

d) 漁業懇話会委員会

①第 65 回講演会「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究」の開催（平成 27 年 3 月 27 日，於東京大学品川キャンパス）

②第 66 回講演会の開催（平成 27 年 9 月 22 日，於東北大学川内キャンパス）

③漁業懇話会報の発行

e) 水産利用懇話会委員会

①平成 27 年度第 1 回講演会の開催（平成 27 年 10 月予定）

②平成 27 年度第 2 回講演会の開催（平成 28 年 2 月予定）

f) 水産増殖懇話会委員会

①平成 27 年度第 1 回講演会「最新の技術を利用した水産育種」の開催（平成 27 年 3 月 27 日，於東京海洋大学品川キャンパス）

②平成 27 年度第 2 回講演会の開催（平成 27 年 9 月予定，於東北大学川内キャンパス）

g) 国際交流委員会

①第 3 回日中韓水産学会合同シンポジウムの開催（平成 27 年 9 月 25 日，宮城県仙台市）

h) 水産教育推進委員会

①ミニシンポジウム「初等中等教育における水産を考える」の開催（平成 27 年 3 月 31 日，於東京海洋大学品川キャンパス）

i) その他

3. 関連学会等との連携及び協力ならびに社会連携の推進事業（定款第 4 条 1 項 3 号に定める事業）

(1) 関連学会等との連携及び協力

a) 第 52 回アイソトープ・放射線研究発表会の共催

主催 日本アイソトープ協会，共催 応用物理学会 他 62 学協会

平成 27 年 7 月 8 日～10 日，於東京大学弥生講堂（東京都文京区）

b) 第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会の協賛

主催 マリンバイオテクノロジー学会，協賛 日本化学会 他 26 学協会

平成 27 年 5 月 30 日・31 日，於東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）

c) その他，関連学会等が主催する講演会等の共催，協賛，後援

(2) 日本学術会議が行う事業への協力

(3) 日本農学会が行う事業への協力

(4) (公財) 農学会が行う事業への協力

a) 技術者教育推進委員会委員の派遣

(5) 水産・海洋科学研究連絡協議会への参加及び代表の派遣

(6) 海外との学术交流等

a) 日本水産学会創立 85 周年記念国際シンポジウム（仮称）に係る事業

b) 第 145 回アメリカ水産学会大会（2015 年 8 月 16 日～20 日，アメリカ・ポートランド）への代表者及び委員の派遣

c) イギリス諸島水産学会（2015 年 7 月 27 日～31 日，イギリス・プリマス）への代表者の派遣

d) 第 3 回日中韓水産学会合同シンポジウム（2015 年 9 月，宮城県仙台市）の開催及び講演者の招聘

e) 韓国水産科学学会大会（2015 年 11 月）への代表者，委員及び招待講演者の派遣

f) 中国水産学会大会への代表者，委員及び招待講演者の派遣

g) アメリカ水産学会，イギリス諸島水産学会，韓国水産科学学会及び中国水産学会との学術雑誌の交換

h) 国際交流懇談会の開催（2015 年 3 月予定）

i) アジア水産学会大会及び評議員会への評議員の派遣

j) 世界水産学協議会（WCFS）との連携

①理事会及び非公式会議（2015 年 8 月，アメリカ・ポートランド）への代表者及び委員の派遣

②第 7 回世界水産学協議会（2016 年 5 月 23 日～28 日，韓国・釜山）の準備の協力

③東日本大震災関連情報の発信

k) FAO, PICES との連携

l) JICA，若手会員に対するインターンシップ，海外水産関係大会の参加等水産教育プログラムの推進

①第 2 回国際水産教育シンポジウム（2015 年 4 月 22 日～24 日，中国・上海）へ委員の派遣

m) その他，文献交換の斡旋，外国人研究者との交流等海外との学术交流に関する事業

(7) ベルソープックス刊行への協力

(8) 水産技術誌の監修

a) 水産分野の技術者，研究者，事業者等を対象として独立行政法人水産総合研究センターが企画・編集し，定期的に刊行する和文誌「水産技術」を監修する。

(9) 第 34 回「海とさかな」自由研究・作品コンクールへの協力

a) 小学生を対象とした，朝日学生新聞社主催の海と魚をテーマとした作品コンクールにおいて，募集ポスターやガイドブックの配付，出張講義の講師派遣及び審査員派遣等の協力を行う。

(10) 東日本大震災災害復興支援に関する活動

a) 東日本大震災災害復興支援検討特別委員会での審議に基づく活動を行う。

(11) 男女共同参画の推進

a) 男女共同参画学協会連絡会主催シンポジウムへの出席及びポスター展示

b) 東京海洋大学女性研究者支援機構によるシンポジウム等への協力

(12) その他

4. 研究業績の表彰による学術の発展と科学技術の振興事業（定款第 4 条 1 項 4 号に定める事業）

(1) 日本水産学会における賞の授与

学会賞授賞規程に基づき，以下の賞を授与する。

a) 日本水産学会賞

b) 日本水産学会功績賞

- c) 水産学進歩賞
- d) 水産学奨励賞
- e) 水産学技術賞
- (2) 日本水産学会論文賞の授与
論文賞授賞規程に基づき、日本水産学会論文賞を授与する。
- (3) 各支部・委員会等における表彰
- (4) 「海とさかな」自由研究・作品コンクールにおける日本水産学会会長賞の授与
- (5) 他の学術関係の賞等に対する候補者の推薦

[公益目的事業2]

水産学に関する学会誌及び学術図書の刊行ならびにインターネットによる情報提供を通じて、水産学研究の科学技術成果の普及を行うため、以下の事業を行う。

5. 学会誌及び学術図書の刊行による水産学研究の普及事業（定款第4条1項2号に定める事業）

- (1) 学会誌の刊行
 - a) 日本水産学会誌第81巻2号～第82巻1号まで計6冊〔報文65編，総説，企画記事，会告，会報等総ページ約1,300ページ（各号4,300部刊行予定）〕
 - b) Fisheries Science 第81巻2号～第82巻1号まで計6冊〔報文120編，総説等総ページ約1,400ページ（各号450部刊行予定）〕
- (2) 水産学シリーズの刊行
 - a) 第181号「ハタ科魚類における繁殖の生理生態と種苗生産」征矢野 清編，平成27年3月下旬，300部刊行予定
 - b) 第182号「魚類の初期生活史研究の最前線（仮題）」望岡典隆編，平成27年9月下旬，300部刊行予定
- (3) 英文書籍 Fisheries Science Series の刊行
- (4) 日本水産学会誌の J-STAGE 上における公開

別紙 3

平成 27 年度正味財産予算書
平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常収益の部				
(1) 経常収益				
基本的財産運用益	(26,250)	(25,000)	(1,250)	
基本財産利息収入	26,250	25,000	1,250	
事業収益	(18,900,000)	(15,197,000)	(3,703,000)	
会誌売上収入	1,500,000	2,000,000	△500,000	
文献検索ネット収入	0	0	0	
会員名簿売上収入	1,000,000	0	1,000,000	
広告収入	600,000	500,000	100,000	
印税収入	150,000	251,000	△101,000	
冊子体購読収入	1,900,000	1,300,000	600,000	
コンソーシア契約収入	9,300,000	7,200,000	2,100,000	
その他の収入	1,600,000	1,000,000	600,000	
講演要旨集売上	350,000	350,000	0	
展示・広告料	2,500,000	2,500,000	0	
手数料	0	96,000	△96,000	H26 年度 FS 特集号の監修料
受取会費	(45,250,000)	(44,857,000)	(393,000)	
正会員会費	31,550,000	31,190,000	360,000	
団体会員会費	4,800,000	4,950,000	△150,000	
賛助会員会費	4,300,000	4,300,000	0	
外国会員会費	1,050,000	945,000	105,000	
学生会員会費	3,300,000	3,222,000	78,000	
過年度会員会費	250,000	250,000	0	
大会参加費	(15,675,000)	(16,020,000)	(△345,000)	
事前受付				
正会員参加費	9,037,000	9,900,000	△863,000	
学生会員参加費	2,017,000	2,000,000	17,000	
非会員参加費	891,000	980,000	△89,000	
当日参加				
正会員参加費	2,600,000	2,200,000	400,000	
学生会員参加費	300,000	300,000	0	
非会員参加費	830,000	640,000	190,000	
受取補助金	(3,852,160)	(4,373,817)	(△521,657)	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取補助金	3,852,160	4,373,817	△521,657	H27. 科研費 + H26 繰越
特別会計補助金収入	(0)	(0)	(0)	
大会交付金	0	0	0	
高校生ポスター事業	0	0	0	
支部交付金	0	0	0	
負担金収入	(12,777,000)	(13,508,000)	(△731,000)	
著者負担印刷代収入	12,147,000	12,873,000	△726,000	
著者負担別刷代収入	600,000	600,000	0	
著者負担別刷郵送料収入	30,000	35,000	△5,000	
受取寄附金	(3,000,000)	(3,900,000)	(△900,000)	
受取協賛金	2,000,000	2,400,000	△400,000	
受取寄附金	1,000,000	1,500,000	△500,000	
雑収入	(78,780)	(53,651)	(25,129)	
受取利息	3,780	3,651	129	
雑収入	75,000	50,000	25,000	
除名・資格喪失対象者納入			0	
戻 入	0		0	
経常収益計	99,559,190	97,934,468	1,624,722	

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
(2) 経常費用				
事業費	(86,776,768)	(81,401,896)	(5,374,872)	
学会誌印刷製本費	32,005,196	32,250,000	△244,804	
別刷印刷費	400,000	600,000	△200,000	
会員名簿印刷製本費	1,500,000	0	1,500,000	
その他印刷費	467,760	396,000	71,760	
学会誌発送費	3,800,000	3,800,000	0	
会員名簿発送費	64,800	0	64,800	
会員名簿カード発送費	0	0	0	
電話料	105,000	120,000	△15,000	
通信費	1,300,776	855,000	445,776	
シンポジウム費	510,000	390,000	120,000	
中高生ポスター事業費	10,000	0	10,000	
懇話会費	1,080,000	1,080,000	0	
水環保委員会費	360,000	360,000	0	
水産政策委員会	0	0	0	
沿岸環境関連シンポジウム費	100,000	100,000	0	
支部補助金	0	0	0	
大会費	0	0	0	
助成金・補助金	0	400,000	△400,000	
学会賞賞金	1,317,500	1,648,000	△330,500	
ソフト管理費	388,800	388,800	0	
給料手当	8,703,255	7,850,000	853,255	
臨時雇賃金	3,414,000	3,010,000	404,000	
退職金	0	0	0	
健康保険料	448,000	412,000	36,000	
厚生年金保険料	708,400	650,000	58,400	
雇用・労災保険料	129,111	100,000	29,111	
健康診断・レクリエーション費	59,500	52,000	7,500	
会議費	1,536,899	1,136,000	400,899	
旅 費	5,618,000	4,915,000	703,000	
交通費	775,000	839,500	△64,500	
広報費	580,000	580,000	0	
諸謝金	1,104,400	660,000	444,400	
負担金	0	0	0	
什器備品費	0	0	0	
消耗品費	2,992,507	2,836,000	156,507	
光熱水料費	58,000	55,000	3,000	
賃借料	3,869,080	3,443,000	426,080	
支払手数料	369,052	163,000	206,052	
雑 費	2,061,100	1,570,600	490,500	
租税公課	130,000	130,000	0	
委託運営費	8,468,299	9,000,000	△531,701	
企画費	0	100,000	△100,000	
交歓会補助	200,000	0	200,000	
託児所経費	700,000	80,000	620,000	
退職給与引当繰入	338,849	328,512	10,337	
減価償却費	1,103,484	1,103,484	0	

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
管理費	(13,691,144)	(16,829,565)	(△3,138,421)	
給料手当	4,993,769	8,600,000	△3,606,231	
臨時雇賃金	360,000	360,000	0	
退職金	0	0	0	
役員報酬	50,000	50,000	0	
健康保険料	268,200	475,000	△206,800	
厚生年金保険料	494,000	740,000	△246,000	
雇用・労災保険料	63,027	95,000	△31,973	
健康診断・レクリエーション費	55,500	52,000	3,500	
ソフト管理費	194,400	194,400	0	
会議費	200,000	200,000	0	
旅 費	1,254,000	1,250,000	4,000	
交通費	190,000	190,000	0	
電話料	75,000	120,000	△45,000	
通信費	1,171,760	930,000	241,760	
広報費	0	0	0	
諸謝金	0	0	0	
負担金	497,850	480,000	17,850	
什器備品費	0	0	0	
消耗品費	185,000	185,000	0	
印刷製本費	600,000	600,000	0	
光熱水料費	45,000	43,000	2,000	
賃借料	450,000	460,000	△10,000	
支払手数料	65,000	60,000	5,000	
雑 費	1,070,000	280,000	790,000	
退職給与引当繰入	451,350	480,378	△29,028	
減価償却費	957,288	984,787	△27,499	
経常費用計	100,467,912	98,231,461	2,236,451	
当期経常増減額	△908,722	△296,993	△611,729	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△908,722	△296,993	△611,729	
一般正味財産期首残高	43,621,617	44,529,084	△907,467	
一般正味財産期末残高	42,712,895	44,232,091	△1,519,196	
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等				
受取補助金	3,500,000	0	3,500,000	
一般正味財産への振替金額				
受取補助金	3,852,160	1,473,817	2,378,343	
当期指定正味財産増減額	△352,160	△1,473,817	1,121,657	
指定正味財産期首残高	352,160	1,473,817	△1,121,657	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	42,712,895	44,232,091	△1,519,196	

平成 27 年度正味財産予算書内訳表
平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日

(単位：円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常収益の部								
(1) 経常収益								
基本的財産運用益	(0)	(0)	(26,250)	(26,250)	(0)	(0)	(26,250)	
基本財産利息収入	0	0	26,250	26,250	0	0	26,250	
事業収益	(2,850,000)	(16,050,000)	(0)	(18,900,000)	(0)	(0)	(18,900,000)	
会誌売上収入	0	1,500,000	0	1,500,000	0	0	1,500,000	
文献検索ネット収入	0	0	0	0	0	0	0	
会員名簿売上収入	0	1,000,000	0	1,000,000	0	0	1,000,000	
広告収入	0	600,000	0	600,000	0	0	600,000	
印税収入	0	150,000	0	150,000	0	0	150,000	
冊子体購読収入	0	1,900,000	0	1,900,000	0	0	1,900,000	
コンソーシア契約収入	0	9,300,000	0	9,300,000	0	0	9,300,000	
そのほかの収入	0	1,600,000	0	1,600,000	0	0	1,600,000	
講演要旨集売上	350,000	0	0	350,000	0	0	350,000	
展示・広告料	2,500,000	0	0	2,500,000	0	0	2,500,000	
手数料	0	0	0	0	0	0	0	
受取会費	(0)	(0)	(22,625,000)	(22,625,000)	(22,625,000)	(0)	(45,250,000)	
正会員会費	0	0	15,775,000	15,775,000	15,775,000	0	31,550,000	
団体会員会費	0	0	2,400,000	2,400,000	2,400,000	0	4,800,000	
賛助会員会費	0	0	2,150,000	2,150,000	2,150,000	0	4,300,000	
外国会員会費	0	0	525,000	525,000	525,000	0	1,050,000	
学生会員会費	0	0	1,650,000	1,650,000	1,650,000	0	3,300,000	
過年度会員会費	0	0	125,000	125,000	125,000	0	250,000	
大会参加費	(15,675,000)	(0)	(0)	(15,675,000)	(0)	(0)	(15,675,000)	
事前受付								
正会員参加費	9,037,000	0	0	9,037,000	0	0	9,037,000	
学生会員参加費	2,017,000	0	0	2,017,000	0	0	2,017,000	
非会員参加費	891,000	0	0	891,000	0	0	891,000	
当日参加								
正会員参加費	2,600,000	0	0	2,600,000	0	0	2,600,000	
学生会員参加費	300,000	0	0	300,000	0	0	300,000	
非会員参加費	830,000	0	0	830,000	0	0	830,000	
受取補助金	(0)	(3,852,160)	(0)	(3,852,160)	(0)	(0)	(3,852,160)	
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	
受取補助金	0	3,852,160	0	3,852,160	0	0	3,852,160	
特別会計補助金収入	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
大会交付金	0	0	0	0	0	0	0	
高校生ポスター事業	0	0	0	0	0	0	0	
支部交付金	0	0	0	0	0	0	0	
負担金収入	(0)	(12,777,000)	(0)	(12,777,000)	(0)	(0)	(12,777,000)	
著者負担印刷代収入	0	12,147,000	0	12,147,000	0	0	12,147,000	
著者負担別刷代収入	0	600,000	0	600,000	0	0	600,000	
著者負担別刷郵送料収入	0	30,000	0	30,000	0	0	30,000	
受取寄附金	(2,000,000)	(0)	(1,000,000)	(3,000,000)	(0)	(0)	(3,000,000)	
受取協賛金	2,000,000	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000	
受取寄附金	0	0	1,000,000	1,000,000	0	0	1,000,000	
雑収入	(129)	(78,651)	(0)	(78,780)	(0)	(0)	(78,780)	
受取利息	129	3,651	0	3,780	0	0	3,780	
雑収入	0	75,000	0	75,000	0	0	75,000	
除名・資格喪失対象者納入	0	0	0	0	0	0	0	
戻 入	0	0	0	0	0	0	0	
経常収益計	20,525,129	32,757,811	23,651,250	76,934,190	22,625,000	0	99,559,190	

(単位：円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
(2) 経常費用								
事業費	(34,804,312)	(48,480,168)	(3,492,288)	(86,776,768)	(0)	(0)	(86,776,768)	
学会誌印刷製本費	0	32,005,196	0	32,005,196	0	0	32,005,196	
別刷印刷費	0	400,000	0	400,000	0	0	400,000	
会員名簿印刷製本費	0	0	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000	
その他印刷費	217,760	0	250,000	467,760	0	0	467,760	
学会誌発送費	0	3,800,000	0	3,800,000	0	0	3,800,000	
会員名簿発送費	64,800	0	0	64,800	0	0	64,800	
会員名簿カード発送費	0	0	0	0	0	0	0	
電話料	30,000	0	75,000	105,000	0	0	105,000	
通信費	760,776	540,000	0	1,300,776	0	0	1,300,776	
シンポジウム費	510,000	0	0	510,000	0	0	510,000	
中高生ポスター事業費	10,000	0	0	10,000	0	0	10,000	
懇話会費	1,080,000	0	0	1,080,000	0	0	1,080,000	
水環境委員会費	360,000	0	0	360,000	0	0	360,000	
水産政策委員会	0	0	0	0	0	0	0	
沿岸環境関連シンポジウム費	100,000	0	0	100,000	0	0	100,000	
支部補助金	0	0	0	0	0	0	0	
大会費	0	0	0	0	0	0	0	
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0	
学会賞賛金	1,317,500	0	0	1,317,500	0	0	1,317,500	
ソフト管理費	194,400	194,400	0	388,800	0	0	388,800	
給料手当	2,453,904	6,249,351	0	8,703,255	0	0	8,703,255	
臨時雇賃金	3,154,000	260,000	0	3,414,000	0	0	3,414,000	
退職金	0	0	0	0	0	0	0	
健康保険料	141,000	307,000	0	448,000	0	0	448,000	
厚生年金保険料	208,400	500,000	0	708,400	0	0	708,400	
雇用・労災保険料	21,942	107,169	0	129,111	0	0	129,111	
健康診断・レクリエーション費	11,500	48,000	0	59,500	0	0	59,500	
会議費	1,356,899	180,000	0	1,536,899	0	0	1,536,899	
旅 費	4,148,000	1,470,000	0	5,618,000	0	0	5,618,000	
交通費	525,000	250,000	0	775,000	0	0	775,000	
広報費	0	0	580,000	580,000	0	0	580,000	
諸謝金	444,400	660,000	0	1,104,400	0	0	1,104,400	
負担金	0	0	0	0	0	0	0	
什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	
消耗品費	2,742,507	250,000	0	2,992,507	0	0	2,992,507	
光熱水料費	25,750	32,250	0	58,000	0	0	58,000	
賃借料	3,539,080	330,000	0	3,869,080	0	0	3,869,080	
支払手数料	299,052	70,000	0	369,052	0	0	369,052	
雑 費	1,526,300	534,800	0	2,061,100	0	0	2,061,100	
租税公課	0	0	130,000	130,000	0	0	130,000	
委託運営費	8,468,299	0	0	8,468,299	0	0	8,468,299	
企画費	0	0	0	0	0	0	0	
交歓会補助	200,000	0	0	200,000	0	0	200,000	
託児所経費	700,000	0	0	700,000	0	0	700,000	
退職給与引当繰入	82,163	256,686	0	338,849	0	0	338,849	
減価償却費	110,880	35,316	957,288	1,103,484	0	0	1,103,484	
管理費	(0)	(0)	(0)	(0)	(13,691,144)	(0)	(13,691,144)	
給料手当	0	0	0	0	4,993,769	0	4,993,769	
臨時雇賃金	0	0	0	0	360,000	0	360,000	
退職金	0	0	0	0	0	0	0	
役員報酬	0	0	0	0	50,000	0	50,000	
健康保険料	0	0	0	0	268,200	0	268,200	
厚生年金保険料	0	0	0	0	494,000	0	494,000	
雇用・労災保険料	0	0	0	0	63,027	0	63,027	
健康診断・レクリエーション費	0	0	0	0	55,500	0	55,500	
ソフト管理費	0	0	0	0	194,400	0	194,400	

(単位：円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
会議費	0	0	0	0	200,000	0	200,000	
旅 費	0	0	0	0	1,254,000	0	1,254,000	
交通費	0	0	0	0	190,000	0	190,000	
電話料	0	0	0	0	75,000	0	75,000	
通信費	0	0	0	0	1,171,760	0	1,171,760	
広報費	0	0	0	0	0	0	0	
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	
負担金	0	0	0	0	497,850	0	497,850	
什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	185,000	0	185,000	
印刷製本費	0	0	0	0	600,000	0	600,000	
光熱水料費	0	0	0	0	45,000	0	45,000	
賃借料	0	0	0	0	450,000	0	450,000	
支払手数料	0	0	0	0	65,000	0	65,000	
雑 費	0	0	0	0	1,070,000	0	1,070,000	
退職給与引当繰入	0	0	0	0	451,350	0	451,350	
減価償却費	0	0	0	0	957,288	0	957,288	
経常費用計	34,804,312	48,480,168	3,492,288	86,776,768	13,691,144	0	100,467,912	
当期経常増減額	△14,279,183	△15,722,357	20,158,962	△9,842,578	8,933,856	0	△908,722	
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額	8,000,000	18,000,000	△20,000,000	6,000,000	△6,000,000	0	0	
当期一般正味財産増減額	△6,279,183	2,277,643	158,962	△3,842,578	2,933,856	0	△908,722	
一般正味財産期首残高	17,340,883	11,460,939	7,727,324	36,529,146	7,092,471	0	43,621,617	
一般正味財産期末残高	11,061,700	13,738,582	7,886,286	32,686,568	10,026,327	0	42,712,895	
II 指定正味財産増減の部								
受取補助金等								
受取補助金	0	3,500,000	0	3,500,000	0	0	3,500,000	
一般正味財産への振替金額								
受取補助金	0	3,852,160	0	3,852,160	0	0	3,852,160	
当期指定正味財産増減額	0	△352,160	0	△352,160	0	0	△352,160	
指定正味財産期首残高	0	352,160	0	352,160	0	0	352,160	
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	
III 正味財産期末残高	11,061,700	13,738,582	7,886,286	32,686,568	10,026,327	0	42,712,895	

平成 26 年度論文賞授賞

1. Fisheries Science 80 卷 3 号 : 517-529 (2014)
Revisiting morphological identification of Japanese jack mackerel *Trachurus japonicus* eggs preserved in formalin
西山雅人 (大分水研), 斉藤真美 (JANUS), 真田康広, 尾上静正 (大分県農林水産部), 高須賀明典, 大関芳冲 (水研セ中央水研)
2. Fisheries Science 80 卷 3 号 : 543-554 (2014)
Demographic survey of the yellow-phase Japanese eel *Anguilla japonica* in Japan
横内一樹 (長大海セ), 金子泰通 (日本水産資源保護協会), 海部健三 (東大院農), 青山 潤 (東大大気海洋研), 内田和男 (水研セ増養殖研), 塚本勝巳 (東大大気海洋研)
3. Fisheries Science 80 卷 5 号 : 933-942 (2014)
An efficient molecular technique for sexing tiger pufferfish (fugu) and the occurrence of sex reversal in a hatchery population
松永貴芳, 家田梨櫻, 細谷 将, 黒柳美和 (東大水実), 鈴木重則 (水研セ増養殖研), 末武弘章 (福井県大海洋生資), 田角聡志, 鈴木 譲 (東大水実), 宮台俊明 (福井県大海洋生資), 菊池 潔 (東大水実)
4. Fisheries Science 80 卷 6 号 : 1337-1345 (2014)
Structural changes and imperfect competition in the supply chain of Japanese fisheries product markets
中島 亨 (東大院農), 松井隆宏 (三重大院生資), 阪井裕太郎 (カルガリー大経), 八木信行 (東大院農)
5. 日本水産学会誌 80 卷 5 号 : 786-791 (2014)
鹿島房総沖における小型浮魚類 (マイワシ, カタクチイワシ) の放射性セシウム濃度
高木香織, 藤本 賢, 渡邊朝生, 埴山秀樹, 重信裕弥, 三木志津帆, 小埜恒夫, 森永健司 (水研セ中央水研), 中田 薫, 森田貴己 (水研セ本部)
6. Fisheries Science 75 卷 2 号 : 387-392 (2009)
A new species of freshwater eel *Anguilla luzonensis* (Teleostei: Anguillidae) from Luzon Island of the Philippines
渡邊 俊, 青山 潤, 塚本勝巳 (東大海洋研)

投稿規程一部改正

現 行	改 正
<p>2. 報文は原著で、他の刊行物に<u>発表</u>されていないものにかぎる。</p> <p>7. 日本水産学会誌への投稿原稿は編集委員会、Fisheries Science への投稿原稿は Editorial Board において審査する。その結果、訂正を要すると判断された原稿はその理由を付して著者に返送し、訂正を求める。また、編集委員会または Editorial Board が掲載不相当と認めたものは返却する。なお、掲載可と認めた報文においても軽微な修正を求めることがある。</p>	<p>2. 報文は原著で、他の刊行物に<u>発表および投稿</u>されていないものにかぎる。</p> <p>7. 日本水産学会誌への投稿原稿は編集委員会において、<u>また Fisheries Science への投稿原稿は Editorial Board において審査する</u>。その結果、訂正を要すると判断された原稿はその理由を付して著者に返送し、訂正を求める。また、編集委員会または Editorial Board が掲載不相当と認めたものは返却する。なお、掲載可と認めた報文においても軽微な修正を求めることがある。</p>
<p><u>全文追加</u></p>	<p>8. <u>掲載された報文に重大な誤り等があり放置できない場合、あるいはデータの捏造や偽造および盗作等の研究上や論文執筆上の不正が発見された場合は、受理を撤回措置することがある。</u></p>
<p><u>全文追加</u></p>	<p>9. <u>掲載された報文に重大な誤り等があり、著者らの総意によって取り下げあるいは訂正再発行を望んだ場合、編集委員会の審査を経て、取り下げあるいは訂正再発行を認めることがある。ただし、訂正再発行に要する費用は著者負担とする。</u></p>
<p>8. 初校は著者が行う。原則として文章または図表の変更や追加は禁ずる。</p>	<p>10. 初校は著者が行う。原則として文章または図表の変更や追加は禁ずる。</p>
<p>9. 掲載料及び別刷代、カラー印刷費は著者負担とし、別記に基づき請求される。</p>	<p>11. 掲載料及び別刷代、カラー印刷費は著者負担とし、別記に基づき請求される。</p>
<p>10. 校正のとき著者が見落としした誤りを正誤表で訂正しようとする場合、あるいはやむをえず改版を要する場合には、その費用は著者負担とする。</p>	<p>12. 校正のとき著者が見落としした誤りを正誤表で訂正しようとする場合、あるいはやむをえず改版を要する場合には、その費用は著者負担とする。</p>
<p>11. 著者が学会費または掲載料などの著者負担分の支払いを怠るときは、報文の掲載を見合わせることもある。</p>	<p>13. 著者が学会費または掲載料などの著者負担分の支払いを怠るときは、報文の掲載を見合わせることもある。</p>
<p>12. この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。</p>	<p>14. この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。</p>
<p>附則 本規程は平成 23 年 3 月 1 日に遡って実施する。 (平成 23 年 9 月 17 日 一部改正 ただし、9. と別記の改正については第 78 巻 1 号掲載報文より適用する。)</p>	<p>附則 本規程は平成 23 年 3 月 1 日に遡って実施する。 (平成 23 年 9 月 17 日 一部改正 ただし、9. と別記の改正については第 78 巻 1 号掲載報文より適用する。)</p>
<p>(平成 23 年 9 月 30 日 一部改正)</p>	<p>(平成 23 年 9 月 30 日 一部改正)</p>
<p>(平成 24 年 6 月 2 日 一部改正)</p>	<p>(平成 24 年 6 月 2 日 一部改正)</p>
<p>(平成 25 年 6 月 8 日 一部改正)</p>	<p>(平成 25 年 6 月 8 日 一部改正)</p>
<p>(平成 25 年 12 月 7 日 一部改正)</p>	<p>(平成 25 年 12 月 7 日 一部改正)</p>
<p>(平成 26 年 6 月 7 日 一部改正)</p>	<p>(平成 26 年 6 月 7 日 一部改正)</p>
<p></p>	<p>(平成 27 年 2 月 7 日 一部改正)</p>

別紙 6

寄附金の使途

寄附金使用内容	会計区分	金額	備 考
日本水産学会誌印刷費	公 2	24,000	共通から振替で充当

日 付	摘 要	寄 附 金				合 計
		公 1	公 2	共 通	法 人	
H27.2.7	寄附金残高			24,000		24,000
H27.2.7	振替		24,000	△24,000		24,000
H27.2.7	日本水産学会誌印刷費		△24,000			0
H27.2.7	寄附金残高	0	0	0	0	0

新 入 会 (平成 27 年 2 月 7 日承認)

正 会 員 (1 名) 九州 香崎 修
 学生会員 (1 名) 北海道 河村早紀

平成 26 年度退会者

正 会 員 (139 名) 北海道 麻田徹正, 麻田昌史, 安部智貴, 北村武文, 五嶋聖治, 清水幾太郎, 申 東煥, 寺西哲夫, 西内修一, 西岡 純, 西澤 信, 藤永克昭, 前川公彦, 真山 紘, 村上直人, 森 立成, 森田健太郎, 安田 拓, 米沢 崇, 頼末武史 東北 五十嵐輝夫, 坂本義信, 佐藤 聡, 佐藤年彦, 陶山(菅野) 愛美, 藤原孝行, 松木 佑介, 山田潤一 関東 荒井 寛, 飯塚 治, 石井宏明, 小澤竜太, Karl Marx Andaya Quiazon, 荻谷 豊, 菊池孝彦, 菊池英夫, 菊地幹夫, 岸本 博, 木村純二, 久保徹郎, 久保島康子, 久保田次郎, 熊谷安希子, 熊谷慶子, 小西良子, 齋藤壽典, 清水哲二, 須原三加, 関口峻允, 武田俊彦, 田辺 伸, 谷口善仁, 津川若子, 所 高利, 中田 誠, 長久英三, 秦 和彦, 花村幸生, 原田知子, 福地光男, 前川(臂) まゆみ, Mahjoub Mohamed Salah, 三橋素志, 源川博久, 村井 衛, 村上 清, 森 徹, 山田勝久, 和田善信, 渡辺 光 中部 内田 誠, 北村晃利, 久保千広, 久保村大樹, 鈴木治郎, 田畑満生, 遠原幸奈, 野瀬哲, 服部克也, 袋谷賢吉, 松浦玲子, 六車香織, 山本直生, 横地洋之, 吉川康夫 近畿 鯨坂哲朗, 飯田雅敏, 上野正博, 澤田(日野) 一路, 多胡彰郎, 土井啓行, 濱野米一, 平岡久明, 藤原正夢, 三宅琢也, Yap Minlee, 米島久司, 渡邊 薫 中国・四国 赤繁 悟, 稲田(川久保) 明宏, 植田一成, 岡松一樹, 加治俊二, 梶原忠彦, 桑原正樹, 越川敏樹, 滝澤 敬, 辻谷陸巳, 旗手友紀, 福田賢一, 守岡佐保, 森田沙知, 安井麻里子 九州 井上 顕, 井本有治, 大形拓路, 加茂 純, 小井土 隆, 小枝圭太, 小西芳信, 塩満捷夫, 築山陽介, 中野雄三, 西村和紀, 西元諄一, 濱砂征吾, 畔田 貢, 福崎竜生, 福田耕一, 藤井明彦, 藤枝 繁, 不破 茂, 真島彩香, 森島 輝, 森本嵩也, 矢田武義, 山本隆司, 渡邊孝裕, 渡辺利明

団体会員 (8) 大妻女子大学図書館, 神奈川県水産技術センター内水面試験場, 神奈川県立川崎図書館, (函)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所玉野庁舎, (函)土木研究所, (公財)名古屋みなと振興財団名古屋港水族館, (函)農林水産消費安全技術センター, 福井県立大学附属図書館

賛助会員 (1) 旭有機材工業㈱

外国会員 (8名) Carl V. Burger, 姜 明希, Kiron Viswanath, Zhou Dayong, Chen Chen, 沈 文仁, Dong Xiuping, Huang Chi-Long

学生会員 (330名) 北海道 Ernest Chen°, Alabia Irene Dolorfino, 石原 学, 泉 ひかり, 井村海渡アンドリュウ, 入江雄一朗, 岩原由佳, 上村麻梨子, 内舩 肇, 王 颯, 大垣直也, 大串伸吾, 太田遼佑, 大谷冬馬, 大庭悠輝, 大吉 徹, 小原章裕, 風間香澄, 片山直紀, 金子賢介, 岸 伶美, 喜多千穂海, 金 銀好, 日下哲佑, 楠元彩香, 熊谷侑貴, Christopher Aura Mulanda, 黒田真道, 後藤直英, 西條大輔, 佐々木有太, 佐々木嘉

子, 佐藤卓史, 渋谷未央, 新山史也, 薄 健太, 鈴木俊彦, 鈴木智大, 園木詩織, 高澤拓哉, 竹澤野葉, 館友裕, 田原大貴, Devon Ronald Dublin, 田谷惣一郎, 張 曩, 張 勳, 張 慧燕, 陳 天燕, 中塚美紀子, 中西誠人, 中野 翼, 中村志恵, 白曼大翔, 樋口晴紀, 福武千尋, 堀本高矩, 松谷紀明, Marin Alan, 道辰麻生, 峯野博和, 宮川寛貴, 望月昭吾, 百田和幸, 山口 柊, 山口 紘, 劉 昱謙 東北 阿部純幸, 遠藤真友加, 大内仁志, 大越葉月, 荻原英里奈, 角張博聡, 菊地拓矢, 佐藤大仁, 関 亜希, 仙石朋子, 滝浦佑輔, 田口 将, 武田 萌, 蔦木彩子, 松野林太, 松本 陽, 三浦修一, 三宅隆人, 明珍大志, 茂木 淳, 八幡亘也, 渡辺弘晃 関東 浅川崇典, 雨澤(高橋)孝太郎, 飯野祐大, 池尻織風, 池田有里, 市田健介, 伊藤智子, Udom Khrueniam, 上杉 綾, 宇恵野文香, 内嶋健人, 梅田剛佑, 種田あずさ, 太田 晶, 大瀧敬由, 大瀧千尋, 大歳 光, 大西愛美, 小川太輝, 荻野智大, 小原信夫, 恩田拓堯, 賈 茹, 笠根 岳, 梶圭佑, 兼重慶恵, 亀井涼平, 川下一成, 河原美穂, 曲 曉玉, 工藤尊世, 國谷奈美, 倉石 祐, 江 偉娜, 耿 婕婷, 小橋史明, 小林未和, 小松真未, 小南友里, 齋藤 淑, 坂本洋平, 相良和之, 笹岡美紀, 柴崎康宏, Jagoda Swarna S.S.De Silva, 曹 貞鉉, 沈 曉麗, 申 中華, 末弘宗滉, 杉浦映美, 杉岡浩行, 杉山巴美, 鈴木輝久, 関 洋子, Zhong Chan, 高瀬麻以, 高橋 萌, Thanasaksiri Kittipong, Daniel Pedrazzoli, 千葉仁美, 千葉瑞萌, 趙 珊珊, 陳 超平, 程 若冰, 陶 格斯, 富岡春香, 長井萌生, 中川拓朗, 永倉靖大, 中田 徹, 中地はづき, 中村真由子, Nant Kay Thwe Moe, 西野 亮, 丹羽晋太郎, 糠信元太郎, 根本真希, 根本友里香, 野際はるか, 萩原文乃, 畑中ちひろ, 羽根由里奈, 林 拓弥, Victor M. E. Ferriols, 付希, Feroudj Holger, 深野華子, 藤田崇洸, 藤谷直矢, 古園勇斗, 別納彩子, 伯耆匠二, 細野耕平, Huynh Thi Thu Huong, 牧 広樹, 町田有里°, 松浦雄太, 松原和裕, Maralit Benedict Arias, 三木花織, 明瀬太志, 森 友彦, 矢野綾子, 山 梨津乃, 山下純平, 山田高廣, 山田真之, 山根美咲, 楊 歆, 李 香美, Li Qian, 劉 菲, 路 偉, 呂 鋒, 脇谷量子郎, 渡邊 証, Wang Lu 中部 李 承起, 飯塚賢太, 石川健博, 伊藤洸太郎, 伊藤理紗, 上園志織, 小川 拡, 片桐悌貴, 片山直人, 加藤千明, 神谷賢治, 河端美香, 志賀将雄, 嶋根大海, 鈴木康平, 鈴木大地, 津澤一輝, 富永圭祐, 中路 航, 中塚和樹, 中廣篤人, 西野雄紀, 幡中友一, 鉢呂佐和子, 牧野沙紀, 水本寛基, 吉 貴博 近畿 大杉樹里, 大塚 鍊, 大槻真友子, 加賀俊生, 岸本謙太, 熊谷洋一郎, 榎原香鈴美, 佐々木つかさ, 大福高史, 竹口佳孝, 西山智貴, 橋本怜弥, 藤野 匠, 古元秀洋, 山口真以, 山根央之, 矢本紘章 中国・四国 阿部翔太, 有川隆貴, 井戸篤史, 上野香菜子, 荻野裕平, 加藤 典, 加藤めい子, 北川雄也, 櫛田佳那, 桑原卓哉, 近藤史崇, 崎村祥太郎, 塩山恭平, 千賀翔太, 滝上俊平, 田中俊也, 玉田拓斗, 戸田慎平, 林 大地, 肥後翔太, 藤川明広, 細美野里子, Maung Saw Htoo Thaw, 向井幸樹, 安田真旺, 山口晋作, 吉田拓音, 渡辺裕磨 九州 赤松佑哉, 足立隼人, 荒木卓真, 池間 智, 井坂章吾, 石井琢哉°, 泉 周作, 今村 聡, 岩下裕子, 内川 拓, 内村友哉, 大嶋慎吾, 岡村琴江, 上園翔平, 川嶋誠也, 河野龍海, 桑野知美, 小池博希, 小泉翔平, 國分翔伍, 後藤洋加, 菅原亮太°, 須田 敦, 瀬川豊太, 外山義典, Song Jing, 高月直樹, 田口伸剛, 豊谷伊織, 長沢貴宏, 中園 聡, Nasuchon Nopparat, 野田 樹, 長谷川隆真, 林田宜之, 原口拓己, 原崎裕介, PUNCHAI Peeraporn, 平田大樹, 古川あさひ, Petros Chiguwechokha, 本田葉月, 松本北斗, 松本昌弘, 松本葉介, 松森皇士郎, Muhamad Fadry Abdullah, Mercedes Pates, 山本 侑, 吉田 歩, Lumayno Sanny David Pacheco, 渡邊裕基, (°: 退会届提出者)

平成 26 年度会員資格喪失者

定款第10条 (1) (支払い義務を2年以上履行しなかったとき) による。

正会員 (16名)

- 関東 (9名) 稲垣 正, 小幡麻友, 亀井和泉, 小林勇喜, 土屋隆英, 長島 聡, 樊 春明, Honein Karim Saad, 柳谷昌昭, 横山良太
- 中部 (2名) 北村裕司, 張 雪蓮
- 中国・四国 (1名) 松本諭史
- 九州 (4名) 伊藤毅史, 四宮明彦, 梨木大輔, 吉村元秀

賛助会員 (1) 全国海苔貝類漁業協同組合連合会

外国会員 (2名) 大谷真紀, Ha Viet Dao

公益社団法人 日本水産学会
平成 27 年度第 1 回理事会議事録

1 開催された日時 平成 27 年 3 月 7 日(土) 14 時 35 分～17 時 05 分

2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
2 号館 200A-2 会議室 (東京都港区港南 4-5-7)

3 理事総数及び定足数
総数 17 名, 定足数 9 名

4 出席理事数 17 名

(本人出席) 吾妻行雄, 荒井克俊, 荒井修亮, 飯田貴次, 香川浩彦, 金子豊二, 木島明博, 嵯峨直恆, 青海忠久, 関伸吾, 東海 正, 時村宗春, 松山倫也, 山下 洋, 渡邊良朗, 渡部終五

(途中出席) 古谷 研 (第 7 回理事会以降の職務執行の状況報告開始時の 16 時 15 分に着席)

(監事出席) 青木一郎, 瀬川 進

(幹事出席) 遠藤英明, 田代有里, 石田真巳, 鈴木美和, 塩出大輔, 久田 孝

(オブザーバー) 伊藤文成 (理事候補者), 大越和加 (理事候補者), 佐竹幹雄 (理事候補者)

5 議 案

決議事項 第 1 号議案 「平成 27 年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項等」の件

第 2 号議案 「ベルソープックスの覚書」の件

第 3 号議案 「平成 27 年度企画広報委員会委員の追加」の件

第 4 号議案 「平成 27 年度水産利用懇話会委員会委員の交代」の件

第 5 号議案 「平成 27 年度水産増殖懇話会委員会委員の交代」の件

第 6 号議案 「平成 27 年度水産教育推進委員会委員の交代及び追加」の件

第 7 号議案 「平成 27 年度水産政策委員会委員の交代及び辞退」の件

第 8 号議案 「平成 27 年度水産学若手の会 (特別委員会) 委員の追加」の件

第 9 号議案 「平成 28 年度春季大会」の件

第 10 号議案 「入会承認」の件

報告事項 ①第 7 回理事会以降の職務執行の状況

②その他

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

渡部会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき, 渡部会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「平成 27 年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項等」の件

平成 27 年度公益社団法人日本水産学会社員総会資料の次第について, 東海総務担当理事より説明があり, 一部修正の上, 出席理事全員一致でこれを可決した。

続いて, 東海総務担当理事より 6. 議事・第 1 号議案のうち, 「平成 26 年度事業報告」の内容の説明があった。また, 渡邊財務担当理事より 6. 議事・第 1 号議案のうち, 「貸借対照表, 正味財産増減計算書及び財産目録」について, 平成 26 年度決算書類 (貸借対照表, 正味財産増減計算書及び財産目録) にもとづいて説明があった。審議の結果, 一部修正の上, 出席理事全員一致でこれを可決した。

6. 議事・第 2 号議案「平成 27 年度役員 (理事) 選任の件」および 6. 議事・第 3 号議案「名誉会員推薦の件」については, 資料にもとづき東海総務担当理事より説明があり, 出席理事全員一致で可決した。

本議案について以下の質疑応答があった。

青木監事 「収入に対して赤字決算であったが, 平成 26 年度予算に対してはいかがであったか。」

渡邊理事 「平成 26 年度予算に対しては赤字であった。」

東海理事 「大会会場となる大学によって会場使用料が高く設定しているところがあるため, 賃借料が大きい額になった。」

金子理事 「大会会場の賃借料が大きいが、地方開催の場合は寄附収入を多く得ているので赤字の大きな原因ではない。」

第2号議案 「ベルソープックスの覚書」の件

金子総務担当理事より、日本水産学会と成山堂書店との間で交わされる「ベルソープックス」シリーズの覚書の原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第3号議案 「平成27年度企画広報委員会委員の追加」の件

東海総務担当理事より、企画広報委員会委員の追加について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

〔選出〕 柳本 卓

第4号議案 「平成27年度水産利用懇話会委員会委員の交代」の件

東海総務担当理事より、水産利用懇話会委員会委員の交代について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

〔選出〕 青木仁史 〔辞退〕 瓜生 登

第5号議案 「平成27年度水産増殖懇話会委員会委員の交代」の件

東海総務担当理事より、水産増殖懇話会委員会委員の交代について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

〔選出〕 清水智仁 〔辞退〕 藤井徹生

〔選出〕 野田幹雄 〔辞退〕 須田有輔

〔選出〕 寺田竜太 〔辞退〕 工藤真弘

第6号議案 「平成27年度水産教育推進委員会委員の交代及び追加」の件

東海総務担当理事より、水産教育推進委員会委員の交代及び追加について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

〔選出〕 武田重信 〔辞退〕 天野雅男

〔選出〕 須田有輔 〔辞退〕 吉川廣幸

〔選出〕 天野勝文 〔辞退〕 金井欣也

〔選出〕 神保 充 〔辞退〕 武田誠一

〔選出〕 荒川久幸

〔選出〕 上田勝彦

第7号議案 「平成27年度水産政策委員会委員の交代及び辞退」の件

東海総務担当理事より、水産政策委員会委員の交代及び辞退について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

〔選出〕 牧野光琢 〔辞退〕 河村知彦

〔辞退〕 森田貴己

第8号議案 「平成27年度水産学若手の会（特別委員会）委員の追加」の件

東海総務担当理事より、水産学若手の会（特別委員会）委員の追加について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

〔選出〕 阿部博和、高梨愛梨

第9号議案 「平成28年度春季大会」の件

時村関東支部担当理事より、平成28年度春季大会についての説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

日程 平成28年3月26日(土)～3月30日(水)

場所 東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）

大会委員長 〔鯛〕水産総合研究センター中央水産研究所所長（4月1日に確定）

第10号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

(報告事項)

①第7回理事会以降の職務執行の状況

・庶務関係

東海担当理事より次の報告があった。

1) 平成26年度資格喪失者について

本報告について以下の質疑応答があった。

金子理事 「滞納金は水産学会の未収入金であるが、資格喪失となるとそれは水産学会の財産から削られることになるのか。」

東海理事 「本来は債権放棄の手続きを行う必要がある。これまでには行っていない。以前には Fisheries Science 誌に掲載された論文の著者負担金を支払っていただけていない事例もあり、債権放棄の手続きを行わなければならない。所監事からもこの点については指摘を受けている。」

渡部会長 「債権放棄は、いつ行う予定か。」

東海理事 「監事と相談して行いたい。」

渡邊理事 「本日の会計監査においても所監事より指摘を受けており、このままでいると未収入金がだんだん増えていくので、来年度の課題として何とかするように言われている。」

瀬川監事 「本日の監査において、未収入金のうち正会員会費 247 万円が未収だったことから、会費を前納していただけるような努力が必要である。」

青木監事 「おそらく1年間の会費未納の催促がなく、そのままにしておいて2年目に資格喪失通知があって納入しているかもしれないので、しっかり会費を徴収するやり方を考えたほうがよい。」

古谷理事 「他学会では学会発表申し込み時に、会費未納の会員は発表を受け付けないことにしたら改善された。」

東海理事 「1年間滞納している時点で本人に知らせている。大会参加申込受付時の会費納入状況の確認は、大会参加申込を大会実行委員会に任せているので行っていない。会員か否かの確認は行っている。会費の納入状況を確認することは可能かもしれないので検討したい。大会ホームページの作成業者に未納者リストを渡してチェックプログラムを組み込むということになると考える。あと、会費前納制であることを頻繁には知らせていないので、学会ホームページ上で周知する等の未収入金対策を事務局で検討する。」

渡部会長 「銀行口座からの引き落としは行っていないのか。」

東海理事 「銀行口座からの引き落としも可能である。また、外国人会員向けに VISA カードによる会費の引き落としも行っているが、学会が手数料を支払うことになるので、できれば銀行振り込みにしていただきたい。」

瀬川監事 「公費だと前納できない場合がある。」

東海理事 「そのような場合には、少し待つことがあっても仕方がないと考える。」

渡部会長 「資格喪失者は大会に来ないので未収入金を回収できないのではないか。」

東海理事 「日水誌や Fisheries Science 誌に投稿する際に、共著者に資格喪失者がいる場合は投稿を受けていないので、そのときに未納付の会費を納入して退会者に切り替える場合があり、その際に未収入金を回収できている。」

2) 協賛の件 (共催, 協賛, 後援の取り扱い申し合わせ 3) を適用)

協賛: ①第29回日本キッチン・キトサン学会大会

主催 日本キッチン・キトサン学会

共催 日本化学会, 日本生物工学会

協賛 キトサン工業会 他 15 学会

日程 平成27年8月20日(木)・21日(金)

場所 東海大学熊本キャンパス (熊本県熊本市)

希望 協賛

負担金 なし

3) 除名者, 資格喪失者 (会費未納) の会費納入による退会者への変更が2名あった。

4) 短時間勤務有期雇用職員について

a) 事務局の業務補助のために、平成26年度に雇用した職員を引き続き週3日5時間雇用する。

b) 平成27年3月末退職予定の短時間勤務有期雇用職員の後任が決まった。

- 5) 名簿作成については、会員自身がインターネット上の Web にアクセスして編集できるソフトとして国立情報学研究所のフリーソフトの利用の可能性を、海洋大の横田賢史先生に協力いただいて検討している。
- 企画広報関係
金子担当理事 特になし
 - 財務関係
渡邊担当理事 特になし
 - 編集関係
古谷担当理事より、編集委員会の構成メンバーが平成 27 年度の構成に変わったことの報告があった。
 - 学会賞関係
荒井（克）担当理事 特になし
 - シンポジウム関係
松山担当理事より、平成 27 年度秋季大会では当初企画していたシンポジウム 2 件のうち 1 件が取り下げになったため 1 件になったことの報告と、ミニシンポジウムは現在 1 件しか企画がないため企画応募の依頼があった。
 - 出版関係
木島担当理事より、平成 27 年 1 月 7 日(水)に開催された平成 26 年度第 2 回出版委員会について、次の報告があった。
 - 1) 水産学シリーズは、平成 27 年 3 月下旬に「ハタ科魚類の水産研究最前線」、平成 27 年 9 月に「魚類の生活史研究」、平成 28 年 3 月に「魚介類内在性プロテアーゼ」が刊行予定である。
 - 2) ベルソーブックス担当として、山本民次委員が承認された。
 - 3) 水産学用語辞典の改訂については、デジタル版水産学用語辞典編集委員会委員長から、出版委員会を中心に委員を依頼したいということが確認された。
 - 水産技術誌監修関係
時村担当理事より、第 7 巻 2 号は平成 27 年 3 月 20 日頃刊行、各機関への配付は 4 月初旬の予定であることが報告された。
 - ベルソーブックス関係
松山担当理事 特になし
 - 国際交流関係
青海担当理事 特になし
 - 水産教育関係
荒井（克）担当理事より、委員構成が少し変わったとの報告があった。
 - 水産政策関係
山下担当理事より、平成 27 年 3 月 31 日(火) 午前にミニシンポジウム「調査捕鯨と国際司法裁判所（ICJ）判決」、午後に水産物エコラベルに関する勉強会を開催予定であるとの報告があった。
 - 漁業・資源管理関係
渡邊担当理事より、平成 27 年 3 月 27 日(金) 午前に委員会、午後に講演会「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究」の開催を予定しているとの報告があった。
 - 水産利用関係
渡部担当理事より、委員の交代が 1 名あったことと、平成 27 年 4 月か 5 月に新年度の委員会が開催予定であるとの報告があった。
 - 水産増殖関係
木島担当理事より、委員の交代があったことと、平成 27 年 3 月 27 日(金)に委員会開催予定であるとの報告があった。
 - 水圏環境関係
山下担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 26 年春季大会において開催されたシンポジウム「地震・津波から 3 年後の東北地方太平洋沿岸域の現状—天災による自然攪乱と修復による人為的攪乱—」の内容が月刊海洋から特集号として 2 分冊で出版された。
 - 2) 平成 27 年 2 月 7 日(土)に沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウム「沿岸環境科学と社会の接点をめぐって—海洋保護区の展開・漁村の震災復興」を開催し、参加者 53 名であった。

- 3) 平成 27 年 3 月 27 日(金) にシンポジウム「炭素・窒素同位体比でひも解く水産生物をとりまく環境の複雑さ」を開催予定である。
- 社会連携関係
嵯峨担当理事 特になし
 - 将来計画関係
古谷担当理事より、創立 85 周年記念事業に関しては、これまでの報告のとおり準備活動を進めているとの報告があった。
 - 男女共同参画関係
金子担当理事より、平成 27 年度春季大会の際に配付する男女共同参画実態調査アンケートの要約と配布用クリアファイルについての説明があった。また、男女共同参画実態調査アンケート報告書は web 上で公開するとの報告があった。
 - 北海道支部
嵯峨担当理事 特になし
 - 東北支部
吾妻担当理事より、平成 27 年度秋季大会の準備状況について、次の報告があった。
 - 1) 宮城県への後援登録の了承が得られた。
 - 2) 日水誌 5 月号会告内容が検討され、口頭発表は PDF ファイルの利用に統一することとなった。
 - 関東支部
時村担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成 27 年度春季大会準備状況
 - a) 講演プログラムの編成が終了し、大会ホームページにアップロードした。
 - b) 座長選出が終了し、依頼状を発送した。
 - c) 講演要旨集の 4 枚組写真を「江戸前の海の幸」として確定した。
 - d) 部門別発表件数を集計した。講演総数 850 件（口頭発表 613 件，ポスター発表 237 件），高校生による研究発表申し込み数 53 件。
 - 2) 平成 28 年度春季大会については、会場となる東京海洋大学の関係施設を、平成 28 年 3 月 26 日(土)～31 日(木)の間、仮予約した。4 月の人事異動後、水産総合研究センター中央水産研究所の新所長を大会委員長とし、大会事務局を設置して活動を開始する予定である。
 - 3) 都県の水産研究機関の研究ニーズに対応したシンポジウム等の開催については、平成 27 年 10 月頃を目処に「キンメダイ」をテーマにして開催する予定である。開催の可否及び内容等について、内部的にはキンメダイ WG で決定し、正式には平成 27 年度の支部幹事会（6, 7 月頃）で確定する予定である。
 - 4) 水産学若手の会（特別委員会）への支援
 - a) 平成 27 年度春季大会における水産学若手の会（特別委員会）主催イベント「展示参加企業によるプレゼンテーション」は若手の会が展示企業 15 社に呼びかけたところ、現時点で、6 社から参加希望、2 社から参加辞退の回答があった。
 - b) 平成 27 年度春季大会期間中における「ナイトポスターセッション（1 drink 付）」の開催については、学会公式行事ではなく、若手の会主催の懇親会の中で実施することとなった。
 - c) 平成 27 年度春季大会ミニシンポジウムの講演者招聘旅費支援に関して、シンポジウム告知ポスターには、後援として日本水産学会国際交流委員会と日本水産学会関東支部を記載することとした。
 - 中部支部
飯田担当理事より、支部長交代の報告があった。
 - 近畿支部
荒井（修）担当理事 特になし
 - 中国・四国支部
関担当理事 特になし
 - 九州支部
香川担当理事 特になし
 - 英文書籍監修委員会（特別委員会）
東海担当理事より、最初の企画について原稿が集まったのでシュプリングと相談して査読者を決めて進めていくと

の報告があった。

• 東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

渡部会長より、本日の理事会前に開催された委員会において、平成27年度秋季大会前に行う理事会主催シンポジウムの内容を検討したとの報告があった。次いで、木島理事より、プログラム概要について説明があり、次回理事会においてまとめた内容を報告する予定であるとの報告があった。これに関連して、渡部会長から水産総合研究センター東日本大震災復興支援活動のパンフレットの紹介があった。

• 水産学若手の会（特別委員会）

渡部会長 関東支部報告4)と同じ

• 日本水産学会 85周年記念事業委員会（特別委員会）

渡部会長より、次回委員会は平成27年3月27日(金)を予定しており、そのときに予算の大枠を考え、次回理事会で報告したいとの報告があった。

• 水産・海洋科学研究連絡協議会関係

東海担当理事 特になし

②その他

• 委任状の回収について

東海総務担当理事より、平成27年度社員総会の総会資料は3月12日(木)もしくは13日(金)に発送を予定しており、3月16日(月)には会員の手元に届く予定であること、及び同封した委任状の提出期限は3月24日であることの説明があった。また、各理事に対し、事務局より委任状回収数の報告をメールで随時連絡するので、委任状回収率向上への協力依頼があった。

• 次回理事会の開催について

東海総務担当理事より、次回第2回理事会は平成27年3月27日(金)15時から、国立大学法人東京海洋大学品川キャンパスで開催する予定である旨確認があった。

• 学会賞受賞者講演の座長について

東海総務担当理事より、平成26年3月29日(日)・30日(月)に行なわれる学会賞受賞講演の座長の確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時05分、議長は閉会を宣言し、解散した。

新 入 会（平成27年3月7日承認）

正 会 員 (64名) 北海道 飯嶋亜内, 越野陽介, Havelka Milos 東北 静 一徳, 杉浦大介, 富谷 敦, 原田茂樹, 森下大悟 関東 青木一弘, 一色祐介, 岩崎裕貴, 宇都康行, 大塚麻衣, 小川奈津子, 越智洋介, 壁谷尚樹, 島田裕至, 菅谷史昭, 鈴木研太, 薄 光憲, 高木優也, 中丸 徹, 西田一也, 長谷川 淳, 平瀬祥太郎, 藤田智也, 水澤奈々美, 山本太一, 湯浅由美 中部 木南竜平, 高梨志保里, 中村永介, 藤波裕樹, 門奈憲弘, 渡邊正弥 近畿 石川可奈子, 石原 孝, 大元鈴子, 高田達之, 中山仁志, 山本一毅 中国・四国 伊藤真奈, 今城雅之, 北村祐一, 小山寛喜, 柴田淳也, 高辻英之, 中村智治, 中森三智, 本田恵二 九州 板山朋聡, 今井祥子, 内田圭一, 鶴木陽子, 岡 雅一, 夏 冬, 小西淳平, 佐伯紳祐, 下山田 隆, 鈴木絢子, 高本裕昭, 辻田明子, 永田大生, 樋口理人

団体会員 (1) 島根県立宍道湖自然館

賛助会員 (1) NECソリューションイノベータ(株)

外国会員 (7名) 蔣 宜安, 吴 海濤, 金 大中, Park Choulji, 韓 炫燮, 宋 亮, Roike Iwan Montolalu

学生会員 (171名) 北海道 石井 緑, 石田智紀, 石丸詩織, 伊藤大輔, 漆畑博太郎, 遠藤 充, 小野寺理恵, 片山誓花, 勝木暁美, 狩野栄詩, 河部 海, 菅野貴久, 木村慎太郎, 木村知彰, 小泉穂波, 小竹元己, 小林乗時, 志村遥夏, 鈴木駿介, 高柳 耀, 立山莉帆, 辻井浩希, 辻本 邑, 杜 磊, 富安 信, 中島寛弥, 中野達也, 西川恵介, 橋本和夫, 松田航平, 谷中亨光, 山田綾子 東北 岡田 梨可, 神埼東子, 工藤 岳, 國政実里, 久保裕貴, 鈴木 巖, 鈴木望美, 高木聖実, 田中秀樹, 庭田 樹, 橋本泰佑 関東 赤木拓也, 阿高麦穂, Adrianus David Tanzil, 阿部貴晃, 有我啓作, 板倉もね, 上田大貴, 碓井星二, 臼井芽衣, 大崎優介, 岡本 惇, 片山侑駿, 川幡由希香, 川村 亘, 菊池結貴子, 草野和成, 小祝敬一郎, 高 元沛, 小山楓太, Sandamali Sakunthala Herath, 齊藤秀龍, 佐々三依子, 佐藤由深, 塩澤舞香, 重松祐輔, 信田亮輔, 白

鳥史晃, 鈴木靖子, 田口瑞姫, 竹内 綾, 竹内久登, 田島夏子, 田中美帆, 田中陽一郎, 玉本 満, 陳 虹
 諺, 鄒 仲堯, 堤 美葵, 富樫真柄, 富山 嶺, 中川樹里, 中里 翔, 仲宗根 潔, 西田圭志, 畠 由佳,
 林 晃, 林原信子, 原田葉乃, 樋口貴俊, 檜山剛典, 真白宙樹, 水越美咲, 三井優斗, 宮尾萌莉, 三好花
 歩, 守谷圭介, 矢野弘奈, 吉川堯希, 吉永葉月, 吉野 薫, 渡辺明広 中部 勘坂弘治, 北村万佑香, 嶋村
 美香, A. M. Shahabuddin, 原 誠二, 廣瀬茉美, 松永亮平, 丸山亜美, 山本慧史, 劉 瀟 近畿 大島知
 紘, 神村裕之, 笹川昂平, 佐々木史織, 住 慶太郎, 高橋悠太, 田畑瑠那, 田村慶希, 中村銀士, 西田雄
 人, 浜野祥吾, 平野千早, 福山宥斗, 藤森猛志, 古川元希, 見世健太, 森 航大, 山本亜聖 中国・四国
 石崎優衣, 稲見佑子, 海野芳幸, 大槻典子, 河合賢太郎, Nguyen Thanh Trung, 河野まどか, 清水 聖, 武
 縄俊彦, 知念寿和子, 戸井真一郎, 中尾浩則, 松本泰明, 望月桂花, 山崎憲一, 寄元祥平, Luis Gustavo
 Sanchez Silva 九州 大山由貴, 神田雄輝, Nguyen Thi Hue Linh, 黄 雲, 齋藤志伸, 坂口幸太, 周 礼
 駿, 竹中亨彰, 刃祢和樹, 西野公規, 播磨英三朗, 前田佑佳, 松井英明, 満崎敬子, 宮崎里帆, 村上貴浩,
 Md. Mosaddequr Rahman, 山下幸志, 山科美美香, 山根万知, 吉岡和紀, 林 舒敏

公益社団法人 日本水産学会
 平成 27 年度第 2 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 27 年 3 月 27 日(金) 15 時 07 分～17 時 03 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
 7 号館多目的研修室(東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数
 総数 17 名, 定足数 9 名
- 4 出席理事数 16 名
 (本人出席) 吾妻行雄, 荒井克俊, 荒井修亮, 飯田貴次, 金子豊二, 木島明博, 嵯峨直恆, 東海 正, 時村宗春, 松山
 倫也, 山下 洋, 渡邊良朗, 渡部終五
 (途中出席) 古谷 研(春季大会委員長の挨拶の後の 15 時 14 分に着席)
 青海忠久(報告事項②その他確認事項の平成 27 年度定時社員総会資料の確認中の 16 時 20 分に着席)
 (途中退室) 香川浩彦(報告事項②その他確認事項の平成 27 年度定時社員総会資料確認中の 16 時 08 分～16 時 10 分
 まで退席)
 (監事出席) 青木一郎, 瀬川 進
 (幹事出席) 遠藤英明, 田代有里, 石田真巳, 鈴木美和, 塩出大輔, 久田 孝
 (オブザーバー) 伊藤文成(理事候補者), 大越和加(理事候補者), 佐竹幹雄(理事候補者), 荒川久幸(総務幹事候補
 者), 鈴木直樹(庶務幹事候補者), 二見邦彦(会計幹事候補者), 有元貴文(平成 27 年度春季大会委員長,
 15 時 13 分に退席)
- 5 議 案
 決議事項 第 1 号議案 「理事の職務権限規程の一部改正」の件
 第 2 号議案 「関東支部支部長の交代」の件
 第 3 号議案 「入会承認」の件
 第 4 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件
 報告事項 ①平成 27 年度第 1 回理事会以降の職務執行の状況
 ②その他
- 6 議事の経過及びその結果
 (1) 平成 27 年度春季大会委員長の挨拶
 渡部会長の挨拶の後, 東京海洋大学 有元貴文大会実行委員長より挨拶があった。本大会では, 事前登録参加者
 が 950 名であり, 期間中の参加者は 1,200 名くらいを見込んでいるとの報告があった。
 (2) 定足数の確認等
 渡部会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。
 (3) 議案の審議状況及び議決結果等
 定款の規定に基づき, 渡部会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。

(決議事項)

第1号議案 「理事の職務権限規程の一部改正」の件 (別紙1)

東海総務担当理事より、理事の職務権限規程の一部改正についての説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第2号議案 「関東支部支部長の交代」の件

東海総務担当理事より、関東支部長の異動による支部長交代の申し出について説明があった。審議の結果、関東支部長の交代を出席理事全員一致で可決した。

第3号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第4号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

①平成27年度第1回理事会以降の職務執行の状況

・総務関係

東海担当理事より次の報告があった。

1) 協賛の件 (共催, 協賛, 後援の取り扱い申し合わせ3)を適用)

①第60回低温生物工学会大会

主催 低温生物工学会

協賛 日本農芸化学会 他13学会 (予定)

日程 平成27年5月30日(土)

場所 東京工科大学八王子キャンパス (東京都八王子市)

希望 協賛

負担金 なし

②第55回海中海底工学フォーラム

主催 海中海底工学フォーラム運営委員会

共催 東京大学生産技術研究所

協賛 日本船舶海洋工学会 他6団体

日程 平成27年4月10日(金)

場所 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区)

希望 協賛

負担金 なし

2) 除名者及び資格喪失者 (会費未納) の会費納入による退会者への変更

青木仁史 (正会員, 平成22年度除名)

渡邊 薫 (正会員, 平成26年度資格喪失)

陶 志華 (外国会員, 平成26年度資格喪失)

・企画広報関係

金子担当理事 特になし

・財務関係

渡邊担当理事 特になし

・編集関係

古谷担当理事より、平成27年3月30日(月)に編集委員会が開催予定であるとの報告があった。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より、平成27年3月28日(土)に開催される学会賞選考委員会において委員長ならびに副委員長を決定する予定であるとの報告があった。

・シンポジウム関係

松山担当理事より、平成27年3月27日(金)に開催されるシンポジウム企画委員会において、平成28年度春季大会において開催されるシンポジウム企画案3件について審議されるとの報告があった。

• 出版関係

木島担当理事 特になし

• 水産技術誌監修関係

時村担当理事より、第7巻2号は平成27年3月20日(金)に刊行され、1,500部を各機関へ配布予定であること、また、投稿要領等を確定したとの報告があった。

• 国際交流関係

古谷担当理事より、平成27年3月29日(日)のアメリカ水産学会長講演ならびにイギリス諸島水産学会長講演の案内があった。

• 水産教育関係

荒井(克)担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成27年3月31日(火)に水産教育推進委員会シンポジウムが開催される。
- 2) 水産教育推進委員会委員長が決定した。

• 水産政策関係

山下担当理事より、平成27年3月31日(火)に水産政策委員会が開催予定であるとの報告があった。

• 漁業・資源管理関係

渡邊担当理事より、平成27年3月27日(金)に開催された漁業懇話会委員会について次の報告があった。

- 1) 平成26年度事業報告および決算、平成27年度事業計画および予算が決定した。
- 2) 平成27年度は春と秋に講演会を開催することが決定した。
- 3) 成績優秀な学部学生を表彰する制度が提案され、具体化に向けて取り組むことが決まった。

• 水産利用関係

渡部担当理事 特になし

• 水産増殖関係

木島担当理事より、平成27年3月27日(金)に開催された水産増殖懇話会委員会について次の報告があった。

- 1) 新委員の紹介、平成26年度決算、平成27年度予算等の議論があった。
- 2) 平成27年度秋季大会会期中に開催する講演会の構成について議論が進んでいる。

• 水圏環境関係

山下担当理事より、平成27年3月27日(金)に水産環境保全委員会が開催され、平成27年度秋季大会、及び平成28年度春季大会、それぞれの会期中に開催される水産環境保全委員会主催シンポジウムについて検討中であるとの報告があった。

• 社会連携関係

嵯峨担当理事 特になし

• 将来計画関係

古谷担当理事 日本水産学会85周年記念事業委員会(特別委員会)の報告と同じ

• 男女共同参画関係

金子担当理事より、平成27年度春季大会参加者に男女共同参画のクリアーファイルと男女共同参画実態調査アンケートの要約を配付するとの報告があった。

• 北海道支部

嵯峨担当理事 特になし

• 東北支部

吾妻担当理事 特になし

• 関東支部

時村担当理事より、次の報告があった。

- 1) 都県の水産研究機関の研究ニーズに対応したシンポジウム等の開催については、平成27年3月25日(水)に開催されたキンメダイWGにおいて検討され、平成27年度10月末を目途に「キンメダイ」をテーマにして開催すること、及び大まかな内容及び発表者を決定した。正式には平成27年度の支部幹事会(6月頃)で確定する予定である。
- 2) 水産学若手の会(特別委員会)への支援について
 - a) 平成27年度春季大会における水産学若手の会(特別委員会)主催イベント「展示参加企業によるプレゼンテーション」は平成27年3月28日(土)13-15時に第7会場において開催されることとなった。

- b) 「ナイトポスターセッション (1 drink 付)」は、平成 27 年度春季大会では開催しないこととなった。
- c) 日本水産学会国際交流委員会と日本水産学会関東支部が講演者の招聘旅費を支援するミニシンポジウムが平成 27 年 3 月 31 日(火) に開催されることとなった。

- 中部支部

飯田担当理事 特になし

- 近畿支部

荒井(修) 担当理事 特になし

- 中国・四国支部

担当理事 欠席

- 九州支部

香川担当理事より、平成 27 年 11 月 7 日(土)、8 日(日) に支部大会、例会、幹事会、若手の会、高校生による研究発表を開催することについて次回の幹事会で諮る予定であるとの報告があった。

- 英文書籍監修委員会 (特別委員会)

東海総務担当理事 特になし

- 東日本大震災災害復興支援検討委員会 (特別委員会)

渡部会長より、平成 27 年 3 月 27 日(金) 13 時 30 分より開催された委員会について、次の報告があった。

- 1) 関係機関及び委員会からの活動報告があった。
- 2) 平成 27 年度秋季大会前に行う理事会主催シンポジウムの構成の改訂案および概略およびプログラムの会告への掲載時期について検討した。これらについては 6 月開催の理事会において諮る予定である。
また、木島理事より理事会主催シンポジウムの後援に沿岸環境関連学会連絡協議会が加わることの報告があった。

- 水産学若手の会 (特別委員会)

渡部会長 関東支部報告 2) と同じ

- 日本水産学会 85 周年記念事業委員会 (特別委員会)

渡部会長より、平成 27 年 3 月 27 日(金) 12 時より開催された第 5 回委員会について、次の報告があった。

- 1) 全体の予算計画を議論した。この内容については 6 月の理事会において諮る予定である。
- 2) 国際大会運営業者 2 社から見積もりが提出された。6 月の理事会において委託運営業者について諮る予定である。
- 3) 各委員会の活動を進めていくこととした。

- 水産・海洋科学研究連絡協議会関係

東海総務担当理事より、次の報告があった。

- 1) 月刊「学術の動向」の 2015 年 8 月号の特集に、「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」が企画されているところである。
- 2) 次回の水産・海洋科学研究連絡協議会は平成 27 年 5 月に開催予定であり、今後の活動について議論される予定である。

②その他確認事項

- 平成 27 年度定時社員総会資料の確認

東海総務担当理事及び渡邊財務担当理事より、平成 27 年度定時社員総会資料の説明があり、平成 26 年度事業報告及び会計報告並びに平成 27 年度事業計画を出席理事全員で確認した。

- 委任状回収状況について

東海総務担当理事より、平成 27 年度社員総会の委任状の提出状況について現状が報告され、総会成立に向けて理事に対して回収の協力依頼があった。

本報告について以下の質疑応答があった。

時村理事 「正会員をメーリングリストにすることは難しいのか。」

東海理事 「お知らせメール(メールマガジン)のメーリングリストがあるが、受け取りを希望する会員に配信している。会員の 3 分の 2 程度に配信されている。」

時村理事 「委任状の督促方法として、どれが有効であろうか。」

東海理事 「お知らせメールでも配信しているが、あまり見ていないかもしれない。知り合いからのメール連絡の方が見ていただけたらと思うるので、ご協力をお願いしたい。」

- 次回理事会の開催について

渡部会長より、次回第3回理事会は平成27年3月29日(日)16時45分から、国立大学法人東京海洋大学品川キャンパスで開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時03分、議長は閉会を宣言し、解散した。

別紙1

理事の職務権限規程一部改正

現 行	改 正
別表	別表
総務担当	総務担当
企画広報担当	企画広報担当
・	・
・	・
・	・
水産技術誌担当	水産技術誌担当
ベルソープックス担当	(削除)
国際交流委員会担当	国際交流委員会担当
水産教育推進担当	水産教育推進担当
・	・
・	・
・	・
附則 本規程は、公益認定を受け移行の登記をした日から施行する。 (平成24年2月4日 一部改正) (平成25年6月8日 一部改正)	附則 本規程は、公益認定を受け移行の登記をした日から施行する。 (平成24年2月4日 一部改正) (平成25年6月8日 一部改正) (平成27年3月27日 一部改正)

新 入 会 (平成27年3月27日承認)

正 会 員 (3名) 東北 栗田喜久 関東 伯耆匠二, 脇谷量子郎

学生会員 (22名) 北海道 相澤俊介, 黒田真道, 佐藤瑞葉, 津江志緒莉, 原島あずさ, 三浦隆之 東北 田口 将
 関東 雨澤孝太郎, 梅津裕也, 笠根 岳, 重本 梓, 曹 貞鉉, 申 中華, 程 若冰, 三木花織, 道辰麻生, 森 友彦, 渡邊 証 中部 北川勝博 近畿 岸本謙太, 橋本怜弥 中国・四国 近藤史崇

平成27年度公益社団法人日本水産学会定時社員総会議事録

平成27年3月29日(日)13時00分より、東京都港区港南4-5-7、国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス講義棟大講義室において定時社員総会を開催した。

議決権のある当法人社員総数	2,950名
総社員の議決権の数	2,950個
出席社員数(委任状による者を含む。)	1,556名
この議決権の総数	1,556個
出席代表理事	渡部終五

出席理事 荒井克俊，荒井修亮，金子豊二，木島明博，嵯峨直恆，青海忠久，東海 正，時村宗春，古谷 研，松山倫也，山下 洋，渡邊良朗

出席監事 青木一郎，瀬川 進

以上のとおり出席があったので，定款の規定により，議長として，舞田正志氏が推薦され，承認された。舞田正志氏は，議長席につき，本総会は適法に成立したので開会する旨を宣した。渡部終五会長，有元貴文平成 27 年度春季大会委員長の挨拶の後，議事に入った。

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告ならびに貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録承認の件

議長は，平成 26 年度（自平成 26 年 3 月 1 日至平成 27 年 2 月 28 日）における事業状況の説明を総務担当理事に求め，東海 正は事業報告により詳細に説明報告した。

続いて議長は，平成 26 年度における貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録についての説明を財務担当理事に求め，渡邊良朗が付属書類により詳細に説明し，その承認を求めたところ，出席者の過半数の賛成によりこれを承認可決した。

第 2 号議案 増員による平成 27 年度役員（理事）選任の件

議長は，増員により選任される理事について，総務担当理事に説明を求め，東海 正は定款，役員候補者選出規程並びに総会における役員の選出手続きに関する申し合わせにもとづいて詳細に説明した。この後，理事の選任手続きに入り，1 名ずつ理事選任の審議が行われ，出席者の過半数の賛成により，下記のとおり可決確定した。

役員候補者選出規程第 2 条第 3 項に係る理事候補者のうち，伊藤文成，大越和加，佐竹幹雄が選任された。

第 3 号議案 名誉会員推薦の件

議長は，総務担当理事に名誉会員推薦についての説明を求め，東海 正は定款，名誉会員推薦規程にもとづいて詳細に説明した。審議の結果，理事会から推薦のあった青木 宙を名誉会員とすることが可決された。

報告事項 別添資料に基づき，次のとおり報告があった。

- (1) 総務担当理事東海 正が平成 27 年度事業計画について報告した。
- (2) 財務担当理事渡邊良朗が平成 27 年度正味財産増減予算書及び正味財産増減予算書内訳表について報告した。

議長は，議事録作成者として出席理事の中から渡部終五を指名した後，以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ，13 時 58 分閉会した。

第1号議案

平成26年度 事業報告(案)

(自平成26年3月1日～至平成27年2月28日)

本学会の公益目的事業の円滑な遂行を図るため、以下の活動を行った。

1. 役員会・組織運営等に関する事項

(1) 平成26年度定時社員総会(平成26年3月29日)、於北海道大学函館キャンパス大講義室(北海道函館市)

- 1) 平成25年度事業報告の報告ならびに貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び監査報告の承認
- 2) 平成26・27年度役員(理事)選任の承認
- 3) 名誉会員の承認
- 4) 報告事項

(2) 理事会7回

平成26年度第1回(平成26年3月8日)、於東京海洋大学品川キャンパス9号館2階207(東京都港区)

- 1) 平成26年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項等の承認
- 2) 平成26年度委員会委員交代の承認
- 3) 平成26年度秋季大会募金目論見書の承認
- 4) 男女共同参画学協会連絡会から内閣府等への要望書の提出を承認
- 5) 異議申立書に対する回答の承認
- 6) 協賛依頼の承認
- 7) 入会者の承認
- 8) 各担当理事からの報告

平成26年度第2回(平成26年3月27日)、於北海道大学函館キャンパス管理研究棟6階大会議室(北海道函館市)

- 1) 水産政策委員会委員交代の承認
- 2) 水産学若手の会(特別委員会)の委員構成を承認
- 3) 協賛依頼の承認
- 4) 入会者の承認
- 5) 各担当理事からの報告

平成26年度第3回(平成26年3月29日)、於北海道大学函館キャンパス管理研究棟6階大会議室

- 1) 会長の選定
- 2) 副会長の選定
- 3) 各理事の担当を決定
- 4) 日本水産学会創立85周年記念事業委員会(特別委員会)委員長及び副委員長選出の承認
- 5) 財務検討委員会(特別委員会)委員選出の承認
- 6) 東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)委員選出の承認
- 7) 調査委員会設置の承認
- 8) 水産・海洋科学研究連絡協議会代表選出の承認
- 9) 入会者の承認
- 10) 水産利用懇話会委員会委員交代の承認
- 11) 各担当理事からの報告

平成26年度第4回(平成26年6月7日)、於東京海洋大学品川キャンパス2号館2階200A-2(東京都港区)

- 1) 平成26年度支部交付金の配分額を承認
- 2) 役員候補者選出規程一部改正の承認
- 3) 投稿規程一部改正の承認
- 4) 調査委員会委員長及び委員選出の承認
- 5) 東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)委員追加の承認
- 6) 事務局職員の母性健康管理、産前産後休暇・育児休業等の対応の為の短時間勤務有期雇用職員雇用を承認
- 7) 短時間勤務有期雇用職員の賞与を承認
- 8) 平成26年度秋季大会九州大学との共催を承認

- 9) 平成 28 年度春季大会担当支部候補の承認
- 10) 平成 28 年度秋季大会担当支部候補の承認
- 11) イギリス諸島水産学会との学術協定書の調印を承認
- 12) 日本水産学会創立 85 周年記念事業委員会（特別委員会）委員選出の承認
- 13) 共催、後援及び協賛依頼の承認
- 14) 入会者の承認
- 15) 会員種別変更の承認
- 16) 各担当理事からの報告

平成 26 年度第 5 回（平成 26 年 9 月 19 日）、於九州大学箱崎キャンパス共通講義棟 305 教室（福岡県福岡市）

- 1) 職員給与規程及び職員育児・介護休業規程の一部改正を承認
- 2) 短時間勤務有期雇用職員の賞与（平成 26 年度冬季）の承認
- 3) 関東支部運営規程及び大会規程の一部改正を承認
- 4) 学会賞授賞規程の一部改正及び学会賞選考委員会運営規程の新設を承認
- 5) 寄附金の使途を承認
- 6) シンポジウム企画委員会委員交代の承認
- 7) 出版委員会委員辞退の承認
- 8) 水産利用懇話会委員会委員追加の承認
- 9) 水産学若手の会（特別委員会）委員追加を承認
- 10) 平成 27 年度春季大会委託運営業者の承認
- 11) 平成 27 年度春季大会募金目論見書の承認
- 12) 平成 27 年度春季大会における要旨集の配布方法と参加費の一部変更を承認
- 13) 平成 28 年度春季大会担当機関の承認
- 14) 平成 28 年度秋季大会担当支部の承認
- 15) 水産学若手の会（特別委員会）からの要望を承認
- 16) 日本学術会議主催公開シンポジウム実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出を承認
- 17) 日本学術会議主催公開シンポジウム募金目論見書の承認
- 18) 創立 85 周年記念事業の計画を承認
- 19) 幹事手当増額の承認
- 20) 第 13 回日本農学進歩賞受賞候補者推薦の承認
- 21) 2014 年度朝日賞（自然科学）受賞候補者推薦の承認
- 22) 共催、協賛及び後援の取り扱いについての承認
- 23) 協賛依頼の承認
- 24) 入会者の承認
- 25) 会員種別変更の承認
- 26) 各担当理事からの報告

平成 26 年度第 6 回（平成 26 年 12 月 6 日）、於東京海洋大学品川キャンパス 2 号館 2 階 200A-2

- 1) 名誉会員推薦の承認
- 2) 平成 26 年度学会賞受賞者の決定
- 3) 支部設置規程一部改正の承認
- 4) 中部支部支部長交代の承認
- 5) ベルソープックス委員会の廃止とそれに伴う規程の一部改正を承認
- 6) 会費免除の承認
- 7) 平成 28 年度秋季大会担当機関の承認
- 8) 大型アンケートデータ解析報告書に関する要望書の承認
- 9) 会員名簿の作成を承認
- 10) Fisheries Science 誌 81 巻における会員購読促進の継続を承認
- 11) 平成 27 年度日本農学賞受賞候補者の推薦を承認
- 12) 平成 27 年度日本農学会評議員及び運営委員選出を承認
- 13) 入会者の承認
- 14) 各担当理事からの報告

平成26年度第7回（平成27年2月7日）、於東京海洋大学品川キャンパス2号館2階200A-2

- 1) 増員による平成27年度役員（理事）候補者の決定
- 2) 平成27年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項を承認
- 3) 平成27年度事業計画の承認
- 4) 平成27年度予算の承認
- 5) 平成27年度中部支部支部長選出の承認
- 6) 平成26年度日本水産学会論文賞の承認
- 7) 投稿規程の一部改正を承認
- 8) 寄付金の使途を承認
- 9) 国際研究・交流基金（特定費用準備資金）計画変更の承認
- 10) 平成27年度各種委員会委員長選出の承認
- 11) 平成27年度各種委員会委員選出の承認
- 12) 創立85周年記念事業の各種委員会委員選出を承認
- 13) 平成27年度秋季大会委託業者の承認
- 14) 平成27年度秋季大会募金目論見書の承認
- 15) 理事会主催シンポジウム開催の承認
- 16) 平成26年度資格喪失者の承認
- 17) 入会者の承認
- 18) 各担当理事からの報告

平成26年度第1回書面決議（平成26年6月30日）

- 1) 協賛及び後援の件

(3) 支部

- | | |
|------------|--|
| 1) 北海道支部 | 支部総会1回、支部幹事会1回 |
| 2) 東北支部 | 支部総会1回、支部幹事会2回、支部連絡幹事会1回、支部幹事・連絡幹事合同会議1回 |
| 3) 関東支部 | 支部幹事会1回 |
| 4) 中部支部 | 支部総会1回、支部幹事会1回 |
| 5) 近畿支部 | 支部幹事会2回 |
| 6) 中国・四国支部 | 支部総会1回、支部幹事会1回 |
| 7) 九州支部 | 支部総会1回、支部幹事会3回 |

(4) 委員会

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1) 編集委員会 | 4回 |
| 2) 企画広報委員会 | 6回 |
| 3) 学会賞選考委員会 | 2回 |
| 4) シンポジウム企画委員会 | 4回 |
| 5) 出版委員会 | 2回 |
| 6) ベルソープックス委員会 | 2回 |
| 7) 水産環境保全委員会 | 2回 |
| 8) 漁業懇話会委員会 | 2回 |
| 9) 水産利用懇話会委員会 | 3回 |
| 10) 水産増殖懇話会委員会 | 2回 |
| 11) 国際交流委員会 | 2回 |
| 12) 選挙管理委員会 | 1回 |
| 13) 水産教育推進委員会 | 2回 |
| 14) 水産技術誌監修委員会 | 1回 |
| 15) 水産政策委員会 | 2回 |
| 16) 男女共同参画推進委員会 | 2回 |
| 17) 財務検討委員会（特別委員会） | 1回（研修会） |
| 18) 英文書籍監修委員会（特別委員会） | メール会議のみ |
| 19) 東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会） | 4回 |
| 20) 水産学若手の会（特別委員会） | メール会議のみ |

- 21) 日本学術会議主催公開シンポジウム実行委員会 (特別委員会) 1回
 22) 日本水産学会創立85周年記念事業委員会 (特別委員会) 4回

[公益目的事業]

研究発表会及び学術講演会・シンポジウムの開催ならびに研究業績の表彰による水産学の学術の発展と科学技術の振興を推進するため、以下の事業を行った。

2. 研究発表会及び学術講演会等の開催による水産学研究の推進事業 (定款第4条1項1号に定める事業)

(1) 研究発表会

- 1) 春季大会：平成26年3月27日(木)～3月31日(月) 於北海道大学函館キャンパス (北海道函館市)
 大会委員長 嵯峨直恆
 研究発表 口頭579題, ポスター257題, 計836題
 高校生による研究発表会 29題
 シンポジウム2件 演題26題, ミニシンポジウム3件 演題17題
 平成25年度学会賞受賞者講演10題
 参加者数 名誉会員3名, 正会員715名, 学生会員317名, 賛助会員42名, 非会員40名, 計1,117名
- 2) 秋季大会：平成26年9月19日(金)～9月22日(月) 於九州大学箱崎キャンパス (福岡県福岡市)
 大会委員長 松山倫也
 研究発表 口頭370題, ポスター149題, 計519題
 シンポジウム2件 演題22題, ミニシンポジウム3件 演題21題
 参加者数 正会員504名, 学生会員230名, 賛助会員33名, 非会員44名, 計811名

(2) シンポジウム

春季大会開催時 (平成26年3月27日, 於北海道大学函館キャンパス)

- 1) 「ハタ科魚類の繁殖の生理生態と種苗生産」演題12題,
 企画責任者：征矢野 清・照屋和久・中田 久, 参加者数 会員83名, 非会員1名, 計84名
- 2) 「ササビノリの持続的生産への挑戦」演題14題,
 企画責任者：三上浩司・小林正裕・川村嘉志・二羽恭介, 参加者数 会員52名, 非会員3名, 計55名

秋季大会開催時 (平成26年9月22日, 於九州大学箱崎キャンパス)

- 1) 「魚類の初期生活史研究の最前線」演題14題,
 企画責任者：望岡典隆・木下 泉・立原一憲・河野 博・南 卓志, 参加者数 会員80名, 非会員16名, 計96名
- 2) 「魚類における新しいタンパク質 Calycin 研究の最新展開：α1-酸性糖タンパク質, フグ毒結合タンパク質, ウナギ蛍光タンパク質」
 演題8題, 企画責任者：大嶋雄治, 参加者数 会員54名, 非会員0名, 計54名

(3) ミニシンポジウム

春季大会開催時 (平成26年3月31日, 於北海道大学函館キャンパス)

- 1) 「データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築 ～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む～」演題6題,
 企画責任者：宮下和士・北川貴士・宮本佳則・荒井修亮, 参加者数 会員51名, 非会員21名, 計72名
- 2) 「水産物の生産・加工・流通段階を保障するリスク管理研究の最新動向」演題6題,
 企画責任者：澤辺智雄・里見正隆・山崎浩司, 参加者数 会員28名, 非会員9名, 計37名
- 3) 「微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望」演題5題,
 企画責任者：石川智士・林崎健一・吉川 尚・富永 修・中野孝教, 参加者数 会員39名, 非会員12名, 計51名

秋季大会開催時 (平成26年9月19日, 於九州大学箱崎キャンパス)

- 1) 「頭足類学の創成ー水産学における応用的基礎としてー」演題6題,
 企画責任者：池田 謙・宮崎多恵子, 参加者数 27名
- 2) 「水産物におけるゲノム編集の現状と展望」演題6題,
 企画責任者：松山倫也・吉崎悟朗・木下政人, 参加者数 会員92名, 非会員27名, 計119名
- 3) 「クルマエビ親増殖の今後を考える」演題5題,
 企画責任者：原田 誠・菅谷琢磨・奥村卓二, 参加者数 会員26名, 非会員0名, 計26名

(4) 各支部が行う研究発表会及び講演会

1) 北海道支部

- ①支部大会 (平成26年12月19日・20日), 於函館市国際水産・海洋総合研究センター (北海道函館市)

若手の企画講演会「細胞から行動まで一ヤリイカの繁殖形質にみられる雄二型」演題1題、
シンポジウム「道南の主要水産物（イカ・コンブ・ホタテガイ・ナマコ）の現状と今後のとりくみ」演題10題、
一般研究発表34題、参加者数 会員79名、非会員14名、計93名

2) 東北支部

①第23回全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表会東北地区大会（平成26年10月30日、於福井県立いわき海星高等学校、主催：東北地区水産高等学校長協会）への外部審査員1名の派遣

②支部大会（平成26年11月7日・8日）、於アキタスクエア（秋田県秋田市）

ミニシンポジウム「東北沿岸の磯根漁業の再生に向けた新たな取り組みと研究の現状」演題7題、
一般研究発表22題、参加者数 会員52名、非会員2名、計54名

③支部例会（平成27年2月6日）、於東北大学農学部（宮城県仙台市）

ミニシンポジウム「若手研究者によるトークセッションー東北地方における水産業の未来を考えるー」演題3題、
参加者数 会員34名、非会員3名、計37名

3) 中部支部

①支部大会（平成26年11月8日）、於石川県政記念しいのき迎賓館（石川県金沢市）

ミニシンポジウム「七尾湾の環境と漁業」演題5題、
一般研究発表 口頭10題、ポスター9題、計19題、参加者数 会員38名、非会員17名、計55名

4) 近畿支部

①支部例会（平成26年11月22日）、於京都大学農学部総合館（京都府京都市）

特別講演2題、研究発表11題、参加者数 60名

5) 中国・四国支部

①支部例会（平成26年11月29日・30日）、於高知大学農学部5-1教室（高知県南国市）

ミニシンポジウム「魚介類養殖の付加価値化」演題5題、参加者数 50名、
一般研究発表 口頭17題、高校生によるポスター3題、計19題、参加者数 68名

6) 九州支部

①支部例会（平成26年11月8日）、於宮崎市市民プラザ大会議室（宮城県宮崎市）

シンポジウム「九州における攻めの水産業（戦略的養殖業）の現状と将来」演題8題、参加者数 80名

②支部大会（平成27年1月10日）、於宮崎市市民プラザ中会議室

高校生の発表3題、一般講演14題、参加者数 60名

(5) 各委員会が行う研究発表会及び講演会

1) 企画広報委員会

①勉強会（平成26年3月27日）、於北海道大学函館キャンパス

「震災からの復興ー水産研究に求められる視点ー」演題4題、参加者数 会員34名、非会員11名、計45名

2) 水産環境保全委員会

①シンポジウム（平成26年3月27日）、於北海道大学函館キャンパス

「地震・津波から3年後の東北地方太平洋沿岸域の現状ー天災による自然攪乱と修復による人為的攪乱ー」演題12題、
参加者数 会員56名、非会員10名、計66名

②研究会（平成26年9月19日）、於九州大学箱崎キャンパス

「有明海における二枚貝資源量回復をめざして、その現状と対策」演題11題、参加者数 91名

③沿岸環境関連学会連絡協議会への参加

第30回ジョイントシンポジウム（平成27年2月7日）、於東京海洋大学品川キャンパス講義棟大講義室（東京都港区）
「沿岸環境科学と社会の接点をめぐってー海洋保護区の展開・漁村の震災復興」演題6題、参加者数 53名

3) 漁業懇話会委員会

①第63回講演会（平成26年3月27日）、於北海道大学函館キャンパス

「北海道における海獣による漁業被害の現状と野生動物との共存」演題7題、
参加者数 会員84名、非会員32名、計116名

②第64回講演会（平成26年9月19日）、於九州大学箱崎キャンパス

「沿岸漁業へのLED灯の実用化と課題ーカタクチイワシ棒受網漁業を事例とした取り組みー」演題7題、
参加者数 会員57名、非会員15名、計72名

4) 水産利用懇話会委員会

①平成26年度第1回講演会（平成26年10月23日）、於水産総合研究センター中央水産研究所講堂（神奈川県横浜市）

「安全な二枚貝を食卓へ」演題2題、参加者数 会員13名、非会員14名、計27名

②平成26年度第2回講演会（平成27年2月3日）、於東京海洋大学品川キャンパス楽水会館大会議室（東京都港区）

「国内の水産資源を持続的に利用するための打ち手」演題2題、参加者数 会員14名、非会員25名、計39名

5) 水産増殖懇話会委員会

①平成26年度第1回講演会（平成26年9月19日）、於九州大学箱崎キャンパス

「西日本における海藻養殖の現状と課題」演題7題、参加者数 会員33名、非会員49名、計82名

6) 国際交流委員会

①アメリカ水産学会会長特別講演（平成26年3月30日）、於北海道大学函館キャンパス、参加者数94名

Robert M. Hughes 「アメリカにおけるスポーツフィッシング：経済的影響と管理戦略および環境への脅威
(Recreational fisheries in the USA: economics, management strategies, and ecological threats)」

②第2回日中韓水産学会合学同シンポジウム「Seafood Processing and Quality Safety」(に下記の演者と委員を派遣
(平成26年5月13日・14日、中国・青島)

佐藤 實 「Fish bone weakening technology by electromagnetic irradiation」

佐藤 繁 「A novel ELISA system to quantitate paralytic shellfish poisoning toxins」

袁 春紅 「Seasonal changes in thermostability of several muscle proteins and enzymes from silver carp」

③第2回日米英水産学会合学同シンポジウム「Common Challenges and Opportunities for Global Fisheries: An International Perspective, Part 1」に下記の演者と委員を派遣（平成26年8月18日～21日、カナダ・ケベックシティ）

堀山雅秀 「Current situation and future perspectives on the fisheries in Japan: Toward the global sustainable fisheries management based on the ocean ecosystem approach」

渡部終五 「Bioresources for seafood and their utilization and processing in Japan: Current status and future perspectives」

宮腰靖之 「Current and future management of salmon stock enhancement programs in Japan」

牧野光球 「Climate adaptation for the fisheries in Shiretoko world natural heritage, Japan」

7) 水産政策委員会

①シンポジウム（平成26年3月7日）、於東京海洋大学品川キャンパス

「海の恵みと食料安全保障を考える産学国際シンポジウム～海外から見た日本の水産資源管理の評価と今後のあり方～」

演題1題、参加者数 会員31名、非会員118名、計149名

3. 関連学会等との連携及び協力ならびに社会連携の推進事業（定款第4条1項3号に定める事業）

(1) 関連学会等との連携及び協力

共催

1) 第51回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会、共催 応用物理学会 他39学協会、協賛 化学工学会 他21学協会

平成26年7月7日～9日、於東京大学弥生講堂（東京都文京区）

2) 日本学術会議主催公開シンポジウム

「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて（第2回）」

主催 日本学術会議、共催 水産・海洋科学研究連絡協議会 他2団体、後援 日本農学アカデミー 他17団体

平成26年11月21日、於日本学術会議講堂（東京都港区）

協賛

1) 海洋工学シンポジウム

主催 日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会、協賛 海洋音響学会 他31団体

平成26年3月13日・14日、於日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館（東京都千代田区）

2) 第53回中海底工学フォーラム

主催 中海底工学フォーラム運営委員会、共催 東京大学生産技術研究所、協賛 日本船舶海洋工学会 他6団体

平成26年4月18日、於東京大学生産技術研究所 An棟コンベンションホール「ハリコット」（東京都目黒区）

3) 第16回マリンバイオテクノロジー学会大会

主催 マリンバイオテクノロジー学会、協賛 日本化学会 他25学協会

平成26年5月31日・6月1日、於三重大学生物資源学部（三重県津市）

4) 2014生態工学会年次大会

主催 生態工学会、協賛 照明学会 他11学協会

平成26年6月27日・28日、於ブラザヴェルデ（静岡県沼津市）

- 5) 平成26年度 JABEE 農学系分野審査講習会
主催 農業農村工学会 農学会 森林・自然環境技術者教育会 日本生物工学会, 協賛 砂防学会 他19学会,
平成26年6月28日, 於東京大学弥生講堂
 - 6) 第59回低温生物工学会大会
主催 低温生物工学会, 協賛 日本生物工学会 他14団体
平成26年6月28日・29日, 於九州大学 国際ホール (福岡県福岡市)
 - 7) 第28回キチン・キトサンシンポジウム
主催 日本キチン・キトサン学会, 共催 日本化学会・日本生物工学会, 協賛 キトサン工業会 他16学会
平成26年8月7日・8日, 於順天堂大学本郷キャンパスセンチュリータワー (東京都文京区)
 - 8) 第12回高付加価値食品開発のためのフォーラム「シーズとニーズの新たな出会い」
主催 日本食品・機械研究会, 協賛 日本栄養・食科学会 他15団体
平成26年9月5日・6日, 於富士教育研究所 (静岡県裾野市)
 - 9) 2014年度日本冷凍空調学会年次大会
主催 日本冷凍空調学会, 共催 佐賀大学, 協賛 エネルギー・資源学会 他31学協会
平成26年9月10日～13日, 於佐賀大学本庄キャンパス (佐賀県佐賀市)
 - 10) The 2nd International Conference of D-Amino Acid Research (第2回国際D-アミノ酸国際学会)
主催 第2回D-アミノ酸国際学会組織委員会, 協賛 日本生化学会 他10学協会
平成26年9月2日～5日, 於栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)
 - 11) Techno-Ocean2014「生命(いのち)の源, 海」～Mother Oceans～
主催 テクノオーシャン・ネットワーク, 共催 宇宙航空研究開発機構 他8団体, 後援 水産庁 他25団体,
協賛 日本電気測器工業会 73団体
平成26年10月2日～4日, 於神戸国際展示場2号館 (兵庫県神戸市)
 - 12) 第一回農業電化シンポジウム
主催 農業電化協会, 後援 農林水産省, 協賛 日本農業工学会 他19学協会
平成26年10月3日, 於東京大学弥生講堂
 - 13) 第54回海中海底工学フォーラム
主催 海中海底工学フォーラム運営委員会, 共催 東京大学生産技術研究所, 協賛 日本船舶海洋工学会 他6団体
平成26年10月17日, 於東京大学大気海洋研究所講堂 (千葉県柏市)
 - 14) 第7回生態工学会定例シンポジウム
主催 生態工学会, 協賛 照明学会 他11学会
平成26年11月7日, 於東京工業大学大岡山キャンパス西8号館E棟10階1001号室 (東京都目黒区)
 - 15) 海洋調査技術学会第26回研究成果発表会
主催 海洋調査技術学会, 協賛 海中海底工学フォーラム 他19学協会
平成26年11月12日・13日, 於海上保安庁海洋情報部10階国際会議室 (東京都江東区)
 - 16) 第6回エアロ・アクアバイオメカニズム国際シンポジウム「ISABMEC2014」
主催 エアロ・アクアバイオメカニズム学会, 協賛 日本機械学会 他10団体
平成26年11月13日～16日, 於ハワイ東海インターナショナルカレッジ (米国・ホノルル)
 - 17) 第55回高圧討論会
主催 日本高圧力学会, 共催 化学工学会超臨界流体部会 他4学会, 協賛 安全工学会 他49学協会
平成26年11月22日～24日, 於徳島大学常三島キャンパス (徳島県徳島市)
 - 18) 第14回基準油脂分析試験法セミナー
主催 日本油脂化学会, 協賛 日本農芸化学会 他4学会
平成26年12月8日・9日, 於油脂工業会館 (東京都中央区)
- 後援
- 1) 第33回『海とさかな』自由研究・作品コンクール
主催 朝日新聞社 朝日学生新聞社, 後援 文部科学省 他4団体, 協賛 日本水産庁, 協力 日本動物園水族館協会
 - 2) 平成26年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業
主催 岩手県, 協賛 東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 他4団体, 後援 宮古市 他37団体
 - 3) 公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2014 川内村ワークショップ」
共催 日本学術会議農学・食料科学・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会, 農学委員会・食料科学

委員会合同農業情報システム学分会、農芸化学分会、農学委員会農業経済学分会、食料科学委員会水産学分会、畜産学分会、後援 日本農学アカデミー 他9団体

平成26年7月4日、於川内村コミュニティーセンター（福島県川内村）

- 4) 日本学術会議主催学術フォーラム「初等中等教育における海洋教育の意義と課題—海洋立国を担う若手の育成に向けて—」
主催 日本学術会議、協力 日本学術会議海洋生物学分会 他1団体、後援 日本学術会議水産学分会 他9学協会
平成26年8月1日、於日本学術会議講堂

(2) 日本学術会議が行う事業への協力

(3) 日本農学会が行う事業への協力

(4) (公財)農学会が行う事業への協力

1) (公財)農学会技術者教育推進委員会委員を派遣

(5) (公社)日本技術士会 CPD (継続研鑽) 行事参加票の配布

(6) 水産・海洋科学研究連絡協議会参加及び代表を派遣

(7) 海外との学術交流等

1) 第2回日中韓水産学会合同シンポジウム (2014年5月、中国・青島) への講演者及び委員の派遣

2) 第144回アメリカ水産学会大会 (2014年8月、カナダ・ケベックシティ) への会長及び委員の派遣

3) 第2回日米英水産学会合同シンポジウム (2014年8月、カナダ・ケベックシティ) への会長、講演者及び委員の派遣

4) 韓国水産科学会 (2014年7月、韓国・釜山) への会長及び委員の派遣

5) イギリス諸島水産学会との学術交流協定の締結

6) 韓国水産科学会との学術交流協定の更新

7) アジア水産学会運営委員会への委員の派遣

8) 世界水産学協議会との連携

9) 海外水産関係大会の参加等水産教育プログラムの推進

(8) 水産技術誌の監修

1) 第7巻第1号 平成26年8月25日発行

(9) 第33回『海とさかな』自由研究・作品コンクールへの協力

1) 募集ポスターやガイドブックの配付、出張講義への講師派遣3件及び審査員の派遣

(10) 東日本大震災災害復興支援に関する事業

1) 東日本大震災による被害状況・復興過程の情報及び過去の研究調査報告・動画その他映像・数値データを広く共有することを目的とした震災関連データ・アーカイブサイトの管理

2) その他、各支部・各委員会が震災に関連するシンポジウム等の開催

3) 震災復興支援に関する各学協会への協力

(11) 男女共同参画活動

1) 男女共同参画学協会連絡会運営委員会への出席

2) 男女共同参画学協会連絡会主催シンポジウムへの出席ならびにポスター展示

3) 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査における日本水産学会会員回答の解析 (東京海洋大学女性研究者支援機構と共同)

4. 研究業績の表彰による学術の発展と科学技術の振興事業 (定款第4条1項4号に定める事業)

(1) 日本水産学会における賞の授与

学会賞授賞規程に基づき、以下の賞を授与した。

- | | | |
|--------------|-------|--------------------------------------|
| 1) 日本水産学会賞 | 吉崎悟朗 | 「代理親魚技法の構築とその応用に関する研究」 |
| 2) 日本水産学会功績賞 | 佐藤 貴 | 「魚介類エキスの分析など一連の水産化学研究」 |
| 3) 水産学進歩賞 | 赤松友成 | 「水産生物の音響による行動制御と可視化技術の開発」 |
| | 浜崎活幸 | 「海産魚介類の種苗量産技術の開発と資源増殖への応用に関する研究」 |
| | 吉田天士 | 「有害・有毒プランクトンに関する分子生理生態学的研究」 |
| 4) 水産学奨励賞 | 伊藤智広 | 「藍藻類インクラゲをはじめとする天然物に含まれる機能性成分に関する研究」 |
| | 宇治 督 | 「魚類の形態異常とその防除技術に関する研究」 |
| | 高田健太郎 | 「海洋生物に含まれる有用二次代謝物の単離・構造決定に関する研究」 |
| | 三田村啓理 | 「バイオテレメトリーを用いた水圏生物の回帰・固執行動に関する研究」 |
| | 村下幸司 | 「魚類の摂食・消化調節機構に関する研究」 |
| 5) 水産学技術賞 | 青木秀夫 | 「高品質アコヤガイ真珠の効率的養殖技術の開発と実用化」 |

佐藤 繁	「麻痺性貝毒の生物化学的変換に基づいた簡易分析法の開発」
深田陽久	「柑橘類を用いた新しい養殖ブリ（香るブリ）の開発」
村上恵祐	「イセエビ類の幼生飼育技術の向上に関する研究」

(2) 日本水産学会論文賞の授与

- 1) Fisheries Science 80 巻 3 号 : 517-529 ページ
Revisiting morphological identification of Japanese jack mackerel *Trachurus japonicus* eggs preserved in formalin
西山雅人, 斉藤真美, 真田康広, 尾上静正, 高須賀明典, 大関芳沖
 - 2) Fisheries Science 80 巻 3 号 : 543-554 ページ
Demographic survey of the yellow-phase Japanese eel *Anguilla japonica* in Japan
横内一樹, 金子泰通, 海部健三, 青山 潤, 内田和男, 塚本勝巳
 - 3) Fisheries Science 80 巻 5 号 : 933-942 ページ
An efficient molecular technique for sexing tiger pufferfish (fugu) and the occurrence of sex reversal in a hatchery population
松永貴芳, 家田梨櫻, 細谷 将, 黒柳美和, 鈴木重則, 末武弘章, 田角聡志, 鈴木 議, 宮台俊明, 菊池 潔
 - 4) Fisheries Science 80 巻 6 号 : 1337-1345 ページ
Structural changes and imperfect competition in the supply chain of Japanese fisheries product markets
中島 亨, 松井隆宏, 阪井裕太郎, 八木信行
 - 5) 日本水産学会誌 80 巻 5 号 : 786-791 ページ
鹿島房総沖における小型浮魚類（マイワシ, カタクチイワシ）の放射性セシウム濃度
高木香織, 藤本 賢, 渡邊朝生, 埴山秀樹, 重信裕弥, 三木志津帆, 小笠恒夫, 森永健司, 中田 薫, 森田貴己
 - 6) Fisheries Science 75 巻 2 号 : 387-392 ページ
A new species of freshwater eel *Anguilla luzonensis* (Teleostei: Anguillidae) from Luzon Island of the Philippines
渡邊 俊, 青山 潤, 塚本勝巳
- (3) 第33回『海とさかな』自由研究・作品コンクールにおける日本水産学会会長賞の授与
- (4) 第13回日本農学進歩賞受賞者の推薦
竹内 裕 「精原細胞移植技術を用いた海産魚における代理親魚技術の開発」
- (5) 平成27年度日本農学賞受賞者の推薦
渡部終五 「魚類の温度適応を中心とした水産化学に関する一連の研究」

〔公益目的事業2〕

水産学に関する学会誌及び学術図書の発行, 及びインターネットによる情報提供を通じて, 水産学研究の科学技術成果の普及を行うため, 以下の事業を行った。

5. 学会誌及び学術図書の刊行による水産学研究の普及事業（定款第4条1項2号に定める事業）

- (1) 学会誌の発行
 - 1) 日本水産学会誌第80巻2号～第81巻1号まで計6冊 [報文59編, 総説, 企画記事, 会告, 会報等総ページ1,108ページ (各号4,200部発行)]
 - 2) Fisheries Science 第80巻2号～第81巻1号まで計6冊 [報文179編, 総説等総ページ1,326ページ (各号450部発行)]
- (2) 水産学シリーズの刊行
 - 1) 第179号「魚食と健康—メチル水銀の生物影響」山下倫明・鈴木敏之・横山芳博編, 350部発行
 - 2) 第180号「真珠研究の最前線 高品質真珠生産への展望」淡路雅彦・古丸 明・船原大輔編, 300部発行
他, 262部発行
- (3) ベルソープックスの刊行
新刊
 - 1) 043 「二つの顔を持つ魚 サクラマス」木曾克裕著
 - 2) 044 「和食の魚料理のおいしさを探る」下村道子著
 既刊重版
 - 1) 010 「うなぎを増やす (二訂版)」廣瀬慶二著
- (4) 日本水産学会誌のJ-STAGE上における公開

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

会員数異動状況(種別会員数)

種別	平成 25年度末 現在数	平成26年度異動							平成 26年度末 現在数	平成27年3月1日現在			
		入会	種別変更		死亡	退会	会員資格 喪失	除名		平成27年 度より入会	種別変更		現在数
			人	出							人	出	
正会員	名 2,969 (59)*	名 127	名 25 (5)*	名 7 (0)*	名 6 (2)*	名 136 (1)*	名 22 (0)*	名 0 (0)*	名 2,950 (61)*	名 64	名 19 (5)*	名 1	名 3,032 (66)*
団体会員	161	1	0	0	0	8	0	0	154	1	0	0	155
賛助会員	62	2	0	0	0	1	1	0	62	1	0	0	63
外国会員	59	10	3	1	0	8	3	0	60	7	1	1	67
学生会員	204	348	3	24	0	335	0	0	196	171	0	18	349
名誉会員	23	0	1	0	0	0	0	0	24	0	0	0	24
合 計	3,478	488	32	32	6	488	26	0	3,446	244	20	20	3,690

平成27年3月1日現在支部別会員数(正会員・学生会員)

種別	支部								合計
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州		
正会員	名 323 (5)*	名 218 (8)*	名 943 (30)*	名 459 (6)*	名 278 (7)*	名 382 (5)*	名 429 (5)*	名 3,032 (66)*	名 3,032 (66)*
学生会員	57	23	126	35	31	36	41	349	

*: 正会員のうち会員に関する規則第5条が適用される会員を示す。

貸借対照表(案)

平成27年2月28日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	24,639,125	27,445,274	△ 2,806,149
未収入金	5,321,465	4,848,535	472,930
仮払金	1,364,233	1,451,344	△ 87,111
流動資産合計	31,324,823	33,745,153	△ 2,420,330
2 固定資産			
基本財産			
定期預金	7,500,000	7,500,000	0
基本財産合計	7,500,000	7,500,000	0
その他の固定資産			
特別積立金・基金・資金			
国際研究・交流資金	14,000,000	13,000,000	1,000,000
事務機能合理化推進資金	0	0	0
退職給与引当資産	4,430,664	3,613,561	817,103
電話加入権	74,984	74,984	0
什器備品	4,547,699	6,635,970	△ 2,088,271
その他の固定資産合計	23,053,347	23,324,515	△ 271,168
固定資産合計	30,553,347	30,824,515	△ 271,168
資産合計	61,878,170	64,569,668	△ 2,691,498
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	11,480,000	11,677,000	△ 197,000
未払金	2,159,711	3,055,973	△ 896,262
仮受金	1,741,474	1,695,474	46,000
預り金	280,851	265,603	15,248
流動負債合計	15,662,036	16,694,050	△ 1,032,014
2 固定負債			
退職給付引当金	4,430,664	3,613,561	817,103
固定負債合計	4,430,664	3,613,561	817,103
負債合計	20,092,700	20,307,611	△ 214,911
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取補助金			
科研費	708,567	995,052	△ 286,485
指定正味財産合計	708,567	995,052	△ 286,485
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	41,076,903	43,267,005	△ 2,190,102
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(1,817,103)	(1,776,581)	(40,522)
正味財産	41,785,470	44,262,057	△ 2,476,587
負債及び正味財産合計	61,878,170	64,569,668	△ 2,691,498

貸借対照内訳表(案)

平成27年2月28日現在

(単位:円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
I 資産の部								
1 流動資産								
現金預金	5,333,474	2,183,788	8,626,645	16,143,907	8,495,218	0	24,639,125	
未収入金	0	1,441,465	1,830,000	3,271,465	2,050,000	0	5,321,465	
仮払金	1,360,000	0	2,117	1,362,117	2,116	0	1,364,233	
流動資産合計	6,693,474	3,625,253	10,458,762	20,777,489	10,547,334	0	31,324,823	
2 固定資産								
基本財産								
定期預金	0	7,500,000	0	7,500,000	0	0	7,500,000	
基本財産合計	0	7,500,000	0	7,500,000	0	0	7,500,000	
その他の固定資産								
特別積立金・基金・資金								
国際研究・交流資金	14,000,000	0	0	14,000,000	0	0	14,000,000	
事務機能合理化推進資金	0	0	0	0	0	0	0	
退職給与引当資産	306,564	1,505,562	0	1,812,126	2,618,538	0	4,430,664	
電話加入権	0	0	37,492	37,492	37,492	0	74,984	
什器備品	166,520	73,577	2,153,899	2,393,796	2,153,903	0	4,547,699	
その他の固定資産合計	14,472,884	1,579,139	2,191,391	18,243,414	4,809,933	0	23,053,347	
固定資産合計	14,472,884	9,079,139	2,191,391	25,743,414	4,809,933	0	30,553,347	
資産合計	21,166,358	12,704,392	12,650,153	46,520,903	15,357,267	0	61,878,170	
II 負債の部								
1 流動負債								
前受金	0	0	5,761,000	5,761,000	5,719,000	0	11,480,000	
未払金	1,375,129	168,497	51,429	1,595,055	564,656	0	2,159,711	
仮受金	0	0	696,000	696,000	1,045,474	0	1,741,474	
預り金	99,628	81,491	0	181,119	99,732	0	280,851	
流動負債合計	1,474,757	249,988	6,508,429	8,233,174	7,428,862	0	15,662,036	
2 固定負債								
退職給付引当金	306,564	1,505,562	0	1,812,126	2,618,538	0	4,430,664	
固定負債合計	306,564	1,505,562	0	1,812,126	2,618,538	0	4,430,664	
負債合計	1,781,321	1,755,550	6,508,429	10,045,300	10,047,400	0	20,092,700	
III 正味財産の部								
1 指定正味財産								
受取補助金								
科研費	0	708,567	0	708,567	0	0	708,567	
指定正味財産合計	0	708,567	0	708,567	0	0	708,567	
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
2 一般正味財産	19,385,037	10,240,275	6,141,724	35,767,036	5,309,867	0	41,076,903	
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
(うち特定資産への充当額)	(1,084,287)	(252,438)	(0)	(1,336,725)	(480,378)	(0)	(1,817,103)	
正味財産	19,385,037	10,948,842	6,141,724	36,475,603	5,309,867	0	41,785,470	
負債及び正味財産合計	21,166,358	12,704,392	12,650,153	46,520,903	15,357,267	0	61,878,170	

正味財産増減計算書(案)
(自 平成26年3月1日 ～ 至 平成27年2月28日)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常収益の部				
(1) 経常収益				
基本的財産運用益	(2,100)	(82,531)	(Δ80,431)	
基本財産利息収入	2,100	82,531	Δ80,431	
事業収益	(18,537,160)	(18,229,089)	(308,071)	
会誌売上収入	1,526,083	2,111,630	Δ585,547	
文献検索ネット収入	0	0	0	
会員名簿売上収入	0	2,500	Δ2,500	
広告収入	474,500	495,125	Δ20,625	
印税収入	162,066	394,122	Δ232,056	
冊子体購読収入	1,958,302	1,381,915	576,387	
コンソーシアム契約収入	9,231,976	9,157,424	74,552	
その他の収入	1,593,233	1,652,873	Δ59,640	
講演要旨集売上	315,000	493,500	Δ178,500	
展示・広告料	3,180,000	1,940,000	1,240,000	
手数料	96,000	600,000	Δ504,000	
受取会費	(43,413,112)	(43,665,500)	(Δ252,388)	
正会員会費	30,035,000	30,243,000	Δ208,000	
団体会員会費	4,860,000	4,950,000	Δ90,000	
賛助会員会費	4,140,000	4,260,000	Δ120,000	
外国会員会費	988,112	655,500	332,612	
学生会員会費	3,120,000	3,257,000	Δ137,000	
過年度会員会費	270,000	300,000	270,000	
大会参加費	(15,018,367)	(15,927,000)	(Δ908,633)	
事前受付				
正会員参加費	9,229,367	9,716,000	Δ486,633	
学生会員参加費	2,124,000	1,846,000	278,000	
非会員参加費	420,000	388,000	32,000	
当日参加				
正会員参加費	2,175,000	2,608,000	Δ433,000	
学生会員参加費	105,000	148,000	Δ43,000	
非会員参加費	965,000	1,221,000	Δ256,000	
受取補助金	(4,086,485)	(2,104,948)	(1,981,537)	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取補助金	4,086,485	2,104,948	1,981,537	
特別会計補助金収入	(0)	(0)	(0)	
大会交付金	0	0	0	
高校生ポスター事業	0	0	0	
支部交付金	0	0	0	
負担金収入	(13,906,924)	(10,280,595)	(3,626,329)	
著者負担印刷代収入	13,325,000	9,531,500	3,793,500	
著者負担別刷代収入	558,124	717,595	Δ159,471	
著者負担別刷送料収入	23,800	31,500	Δ7,700	
受取寄附金	(4,134,000)	(3,410,000)	(724,000)	
受取協賛金	3,740,000	2,500,000	1,240,000	
受取寄附金	394,000	910,000	Δ516,000	
雑収入	(121,112)	(122,801)	(Δ1,689)	
受取利息	5,299	5,907	Δ608	
雑収入	115,813	116,894	Δ1,081	
経常収益計	99,219,260	93,822,464	5,396,796	

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
(2) 経常費用				
事業費	(84,788,625)	(76,142,131)	(8,646,494)	
学会誌印刷製本費	32,748,818	30,048,229	2,700,589	
別刷印刷費	372,920	535,928	△163,008	
会員名簿印刷製本費	0	0	0	
その他印刷費	656,296	798,084	△141,788	
学会誌発送費	3,861,938	3,878,810	△16,872	
会員名簿発送費	0	79	△79	
会員名簿カード発送費	0	0	0	
電話料	60,834	82,845	△22,011	
通信費	1,049,597	1,287,530	△237,933	
シンポジウム費	375,096	304,318	70,778	
中高生ポスター事業費	0	0	0	
懇話会費	1,080,000	1,080,000	0	
水環保委員会費	360,000	360,000	0	
水産政策委員会	0	150,000	△150,000	
沿岸環境関連シンポジウム費	40,000	100,000	△60,000	
支那補助金	0	0	0	
大会費	0	0	0	
助成金・補助金	0	0	0	
学会賞賞金	1,429,642	1,557,034	△127,392	
ソフト管理費	504,000	0	504,000	
給料手当	8,733,041	7,829,214	903,827	
臨時雇賃金	3,015,920	2,190,336	825,584	
退職金	0	0	0	
健康保険料	440,042	401,387	38,655	
厚生年金保険料	704,884	665,359	39,525	
雇用・労災保険料	93,706	95,511	△1,805	
健康診断・レクリエーション費	65,960	50,427	15,533	
会議費	2,204,397	1,098,590	1,105,807	
旅 費	4,544,465	4,245,250	299,215	
交通費	726,545	562,631	163,914	
広 報 費	553,816	441,000	112,816	
諸 謝 金	2,249,027	1,459,092	789,935	
負担金	0	0	0	
什器備品費	0	0	0	
消耗品費	2,432,736	1,757,400	675,336	
光熱水料費	45,804	44,464	1,340	
賃借料	4,587,415	2,219,170	2,368,245	
支払手数料	844,321	570,940	273,381	
雑 費	790,174	1,189,965	△399,791	
租税公課	120,100	119,500	600	
委託運営費	8,426,284	7,984,716	441,568	
企画費	0	0	0	
交歓会補助	216,604	1,615,755	△1,399,151	
託児所経費	14,034	0	14,034	
退職給与引当繰入	336,725	315,083	21,642	
減価償却費	1,103,484	1,103,484	0	

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
管理費	(16,620,737)	(16,098,298)	(522,439)	
給料手当	8,042,719	8,543,152	△500,433	
臨時雇賃金	265,560	307,800	△42,240	
退職金	0	0	0	
役員報酬	0	40,900	△40,900	
健康保険料	315,101	463,386	△148,285	
厚生年金保険料	514,441	730,201	△215,760	
雇用・労災保険料	96,797	90,891	5,906	
健康診断・レクリエーション費	30,465	47,230	△16,765	
ソフト管理費	252,000	0	252,000	
会議費	150,353	99,211	51,142	
旅 費	1,635,811	1,210,772	425,039	
交通費	166,242	173,480	△7,238	
電話料	60,817	77,871	△17,054	
通信費	708,012	470,163	237,849	
広報費	0	0	0	
諸謝金	0	0	0	
負担金	498,348	490,397	7,951	
什器備品費	0	0	0	
消耗品費	193,091	113,395	79,696	
印刷製本費	565,571	463,644	101,927	
光熱水料費	45,803	42,989	2,814	
賃借料	438,534	440,550	△2,016	
支払手数料	58,738	83,257	△24,519	
雑 費	1,117,169	757,223	359,946	
退職給与引当繰入	480,378	461,498	18,880	
減価償却費	984,787	990,288	△5,501	
経常費用計	101,409,362	92,240,429	9,168,933	
当期経常増減額	△2,190,102	1,582,035	△3,772,137	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△2,190,102	1,582,035	△3,772,137	
一般正味財産期首残高	43,267,005	41,684,970	1,582,035	
一般正味財産期末残高	41,076,903	43,267,005	△2,190,102	
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等				
科研費	3,800,000	3,100,000	700,000	
一般正味財産への振替金額				
受取補助金	4,086,485	2,104,948	1,981,537	
当期指定正味財産増減額	△286,485	995,052	△1,281,537	
指定正味財産期首残高	995,052	0	995,052	
指定正味財産期末残高	708,567	995,052	△286,485	
III 正味財産期末残高	41,785,470	44,262,057	△2,476,587	

正味財産増減計算書内訳表(案)

(自平成26年3月1日 ～ 至平成27年2月28日)

(単位:円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常収益の部								
(1) 経常収益								
基本的財産運用益	(0)	(0)	(2,100)	(2,100)	(0)	(0)	(2,100)	
基本財産利息収入	0	0	2,100	2,100	0	0	2,100	
事業収益	(3,495,000)	(15,042,160)	(0)	(18,537,160)	(0)	(0)	(18,537,160)	
会誌売上収入	0	1,526,083	0	1,526,083	0	0	1,526,083	
文献検索ネット収入	0	0	0	0	0	0	0	
会員名簿売上収入	0	0	0	0	0	0	0	
広告収入	0	474,500	0	474,500	0	0	474,500	
印税収入	0	162,066	0	162,066	0	0	162,066	
冊子体購読収入	0	1,958,302	0	1,958,302	0	0	1,958,302	
コンソーシア契約収入	0	9,231,976	0	9,231,976	0	0	9,231,976	
その他の収入	0	1,593,233	0	1,593,233	0	0	1,593,233	
講演要旨集売上	315,000	0	0	315,000	0	0	315,000	
展示・広告料	3,180,000	0	0	3,180,000	0	0	3,180,000	
手数料	0	96,000	0	96,000	0	0	96,000	
受取会費	(0)	(0)	(21,764,012)	(21,764,012)	(21,649,100)	(0)	(43,413,112)	
正会員会費	0	0	15,023,000	15,023,000	15,012,000	0	30,035,000	
団体会員会費	0	0	2,435,000	2,435,000	2,425,000	0	4,860,000	
賛助会員会費	0	0	2,090,000	2,090,000	2,050,000	0	4,140,000	
外国会員会費	0	0	496,012	496,012	492,100	0	988,112	
学生会員会費	0	0	1,575,000	1,575,000	1,545,000	0	3,120,000	
過年度会員会費	0	0	145,000	145,000	125,000	0	270,000	
大会参加費	(15,018,367)	(0)	(0)	(15,018,367)	(0)	(0)	(15,018,367)	
事前受付								
正会員参加費	9,229,367	0	0	9,229,367	0	0	9,229,367	
学生会員参加費	2,124,000	0	0	2,124,000	0	0	2,124,000	
非会員参加費	420,000	0	0	420,000	0	0	420,000	
当日参加								
正会員参加費	2,175,000	0	0	2,175,000	0	0	2,175,000	
学生会員参加費	105,000	0	0	105,000	0	0	105,000	
非会員参加費	965,000	0	0	965,000	0	0	965,000	
受取補助金	(0)	(4,086,485)	(0)	(4,086,485)	(0)	(0)	(4,086,485)	
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	
受取補助金	0	4,086,485	0	4,086,485	0	0	4,086,485	
特別会計補助金収入	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
大会交付金	0	0	0	0	0	0	0	
高校生ポスター事業	0	0	0	0	0	0	0	
支部交付金	0	0	0	0	0	0	0	
負担金収入	(0)	(13,906,924)	(0)	(13,906,924)	(0)	(0)	(13,906,924)	
著者負担印刷代収入	0	13,325,000	0	13,325,000	0	0	13,325,000	
著者負担別刷代収入	0	558,124	0	558,124	0	0	558,124	
著者負担別刷郵送料収入	0	23,800	0	23,800	0	0	23,800	
受取寄附金	(3,740,000)	(50,000)	(344,000)	(4,134,000)	(0)	(0)	(4,134,000)	
受取協賛金	3,740,000	0	0	3,740,000	0	0	3,740,000	
受取寄附金	0	50,000	344,000	394,000	0	0	394,000	
雑収入	(19,569)	(75,076)	(11,204)	(105,849)	(15,263)	(0)	(121,112)	
受取利息	1,369	3,356	9	4,734	565	0	5,299	
雑収入	18,200	71,720	11,195	101,115	14,698	0	115,813	
経常収益計	22,272,936	33,160,645	22,121,316	77,554,897	21,664,363	0	99,219,260	

(単位:円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
(2)経常費用								
事業費	(32,362,909)	(50,553,431)	(1,872,285)	(84,788,625)	(0)	(0)	(84,788,625)	
学会誌印刷製本費	0	32,748,818	0	32,748,818	0	0	32,748,818	
別刷印刷費	0	372,920	0	372,920	0	0	372,920	
会員名簿印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	
その他印刷費	389,038	103,920	163,338	656,296	0	0	656,296	
学会誌発送費	0	3,861,938	0	3,861,938	0	0	3,861,938	
会員名簿発送費	0	0	0	0	0	0	0	
会員名簿カード発送費	0	0	0	0	0	0	0	
電話料	0	0	60,834	60,834	0	0	60,834	
通信費	557,897	490,998	702	1,049,597	0	0	1,049,597	
シンポジウム費	375,096	0	0	375,096	0	0	375,096	
中高生ポスター事業費	0	0	0	0	0	0	0	
懇話会費	1,080,000	0	0	1,080,000	0	0	1,080,000	
水環境委員会費	360,000	0	0	360,000	0	0	360,000	
水産政策委員会	0	0	0	0	0	0	0	
沿岸環境関連シンポジウム費	40,000	0	0	40,000	0	0	40,000	
支部補助金	0	0	0	0	0	0	0	
大会費	0	0	0	0	0	0	0	
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0	
学会賞賞金	1,429,642	0	0	1,429,642	0	0	1,429,642	
ソフト管理費	252,000	252,000	0	504,000	0	0	504,000	
給料手当	2,539,161	6,193,880	0	8,733,041	0	0	8,733,041	
臨時雇賃金	2,750,360	265,560	0	3,015,920	0	0	3,015,920	
退職金	0	0	0	0	0	0	0	
健康保険料	138,591	301,451	0	440,042	0	0	440,042	
厚生年金保険料	208,664	496,220	0	704,884	0	0	704,884	
雇用・労災保険料	28,515	65,191	0	93,706	0	0	93,706	
健康診断・レガレーション費	14,273	51,687	0	65,960	0	0	65,960	
会議費	2,058,283	146,114	0	2,204,397	0	0	2,204,397	
旅 費	2,764,969	1,779,496	0	4,544,465	0	0	4,544,465	
交通費	455,376	271,169	0	726,545	0	0	726,545	
広 報 費	50,000	51,266	452,550	553,816	0	0	553,816	
諸 謝 金	1,081,701	1,167,326	0	2,249,027	0	0	2,249,027	
負 担 金	0	0	0	0	0	0	0	
什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	
消耗品費	2,167,593	261,520	3,623	2,432,736	0	0	2,432,736	
光熱水料費	9,161	36,643	0	45,804	0	0	45,804	
賃借料	3,935,274	652,141	0	4,587,415	0	0	4,587,415	
支払手数料	449,055	368,048	27,218	844,321	0	0	844,321	
雑 費	376,171	327,371	86,632	790,174	0	0	790,174	
租税公課	0	0	120,100	120,100	0	0	120,100	
委託運営費	8,426,284	0	0	8,426,284	0	0	8,426,284	
企画費	0	0	0	0	0	0	0	
交歓会補助	216,604	0	0	216,604	0	0	216,604	
託児所経費	14,034	0	0	14,034	0	0	14,034	
退職給与引当繰入	84,287	252,438	0	336,725	0	0	336,725	
減価償却費	110,880	35,316	957,288	1,103,484	0	0	1,103,484	

(単位:円)

科 目	公 益 事 業 会 計				法人会計	内部取引消去	合 計	備 考
	公1 学術講演 会等の開催事業	公2 学会誌等 の刊行事業	共 通	公小計				
管理費	(0)	(0)	(0)	(0)	16,620,737	(0)	16,620,737	
給料手当				0	8,042,719	0	8,042,719	
臨時雇賃金				0	265,560	0	265,560	
退職金				0	0	0	0	
役員報酬				0	0	0	0	
健康保険料				0	315,101	0	315,101	
厚生年金保険料				0	514,441	0	514,441	
雇用・労災保険料				0	96,797	0	96,797	
健康診断・レクリエーション費				0	30,465	0	30,465	
ソフト管理費				0	252,000	0	252,000	
会議費				0	150,353	0	150,353	
旅 費				0	1,635,811	0	1,635,811	
交通費				0	166,242	0	166,242	
電話料				0	60,817	0	60,817	
通信費				0	708,012	0	708,012	
広報費				0	0	0	0	
謝 金				0	0	0	0	
負担金				0	498,348	0	498,348	
什器備品費				0	0	0	0	
消耗品費				0	193,091	0	193,091	
印刷製本費				0	565,571	0	565,571	
光熱水料費				0	45,803	0	45,803	
賃借料				0	438,534	0	438,534	
支払手数料				0	58,738	0	58,738	
雑 費				0	1,117,169	0	1,117,169	
退職給与引当繰入				0	480,378	0	480,378	
減価償却費				0	984,787	0	984,787	
経常費用計	32,362,909	50,553,431	1,872,285	84,788,625	16,620,737	0	101,409,362	
当期経常増減額	△10,089,973	△17,392,786	20,249,031	△7,233,728	5,043,626	0	△2,190,102	
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額	13,323,326	16,369,274	△22,372,600	7,320,000	△7,320,000	0	0	
当期一般正味財産増減額	3,233,353	△1,023,512	△2,123,569	86,272	△2,276,374	0	△2,190,102	
一般正味財産期首残高	16,151,684	11,263,787	8,265,293	35,680,764	7,586,241	0	43,267,005	
一般正味財産期末残高	19,385,037	10,240,275	6,141,724	35,767,036	5,309,867	0	41,076,903	
II 指定正味財産増減の部								
受取補助金等								
科研費		3,800,000	0	3,800,000	0	0	3,800,000	
一般正味財産への振替金額								
受取補助金		4,086,485	0	4,086,485	0	0	4,086,485	
当期指定正味財産増減額	0	△286,485	0	△286,485	0	0	△286,485	
指定正味財産期首残高	0	995,052	0	995,052	0	0	995,052	
指定正味財産期末残高	0	708,567	0	708,567	0	0	708,567	
III 正味財産期末残高	19,385,037	10,948,842	6,141,724	36,475,603	5,309,867	0	41,785,470	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 平成23年度から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日内閣府公益認定等委員会)を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
法人税法上に定める定額法による。
- (3) 引当金の計上基準
退職引当金は全職員の期末時点の退職金必要支給額を計上。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
預金	7,500,000	0	0	7,500,000
小 計	7,500,000	0	0	7,500,000
特定資産				
国際研究・交流資金	13,000,000	1,000,000	0	14,000,000
事務機能合理化推進資金	0	0	0	0
退職金給与引当資産	3,613,561	817,103	0	4,430,664
小 計	16,613,561	1,817,103	0	18,430,664
合 計	24,113,561	1,817,103	0	25,930,664

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
預金	7,500,000	—	(7,500,000)	—
小 計	7,500,000	—	(7,500,000)	—
特定資産				
国際研究・交流資金	14,000,000	—	(14,000,000)	—
事務機能合理化推進資金	0	—	(0)	—
退職金給与引当資産	4,430,664	—	(4,430,664)	—
小 計	18,430,664	—	(18,430,664)	—
合 計	25,930,664	—	(25,930,664)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
金庫	135,000	134,999	1
パソコンソニーVAIO VGC-RA62	307,076	307,075	1
スキャナーCANON DR2080C	113,800	113,799	1
シャープノートパソコン CMWW50	165,686	165,685	1
パソコンSOTEC LS17TR-02	112,885	112,884	1
パソコンNEC PC-VN770VG6W	165,000	164,999	1
B0対応大型プリンタ EPSON PX-F10000	554,400	388,080	166,320
パソコンSONY VPCJ23AJ	176,580	103,005	73,575
業務管理システム再構築 ソフト	8,820,000	4,851,000	3,969,000
業務管理システム再構築 ハードウェア	752,882	414,084	338,798
合 計	11,303,309	6,755,610	4,547,699

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 平成25年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金) (研究成果公開促進費)	日本学術振興会	995,052	0	995,052	0	指定正味財産
平成26年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金) (研究成果公開促進費)	日本学術振興会	0	3,800,000	3,091,568	708,432	指定正味財産
合 計		995,052	3,800,000	4,086,620	708,432	

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細
 基本財産及び特定資産については財務諸表に対する注記2に記載しているので省略する。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給与引当金	3,613,561	817,103	0	0	4,430,664

財 産 目 録

平成27年2月28日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
I 資産の部 (流動資産)			
現金・預金	現金	手元保管	728,936
	振替貯金	東京貯金事務センター	14,853,817
		東京貯金事務センター	49,526
	普通預金	ゆうちょ銀行〇〇八支店	840,223
		ゆうちょ銀行九四八支店	376,673
		ゆうちょ銀行八一八支店	145,209
		ゆうちょ銀行二三八支店	547,148
		ゆうちょ銀行七三八支店	330,131
		ゆうちょ銀行〇一八支店	0
		ゆうちょ銀行〇〇八支店	900
		東日本大震災復興支援事業用として	900
		三菱東京UFJ銀行品川駅前支店	3,020,608
		三菱東京UFJ銀行品川駅前支店	708,567
		三井住友銀行浜松町支店	1,546,467
		りそな銀行芝支店	89,802
		みずほ銀行出町支店	163,827
		横浜銀行金沢文庫支店	1,013,102
		高知銀行南国支店	224,189
	未収入金	著者負担印刷未収入金	883,460
		公2の未収入金	883,460
		公益目的事業、法人会計の未収入金	2,470,000
		団体会員会費未収入金	1,065,000
		公益目的事業、法人会計の未収入金	1,065,000
		賛助会員会費未収入金	50,000
		公益目的事業、法人会計の未収入金	50,000
		外国会員会費未収入金	205,000
		公益目的事業、法人会計の未収入金	205,000
		学生会員会費未収入金	90,000
		公益目的事業、法人会計の未収入金	90,000
		広告収入未収入金	56,625
		公2の未収入金	56,625
		会誌売上収入未収入金	492,480
		公2の未収入金	492,480
		雑収入未収入金	8,900
		公益目的事業の未収入金	8,900
	仮払金	公益目的事業の仮払金	1,364,233
流動資産合計			31,324,823
(固定資産)			
基本財産	預金	定期預金 三菱東京UFJ銀行品川駅前支店	7,500,000
特定資産	国際研究・交流資金	定期預金 ゆうちょ銀行〇〇八支店	10,000,000
		普通預金 ゆうちょ銀行〇〇八支店	4,000,000
		未収入金	0
	事務機能合理化推進資金	定期預金 りそな銀行芝支店	0
	退職金給与引当資産	定期預金 三井住友銀行浜松町支店	4,430,664
その他固定資産	電話加入権		74,984
	什器備品		
	倉庫	重要書類保管として	1
	金庫	公2にて使用している	1
	パソコンVAIO	公2にて使用している	1
	スキャナー	全ての事業に使用している	1
	ノートパソコン	公2、法人にて使用している	1
	パソコンSOTEC	法人会計にて使用している	1
	パソコンNEC	法人会計に使用している	1
	大型プリンタ	公1にて使用している	166,320
	パソコンソーニー	公2にて使用している	73,575
	業務管理システム(ソフト)	全ての事業に使用している	3,969,000
	業務管理システム(ハード)	全ての事業に使用している	338,798
固定資産合計			30,553,347
資産合計			61,878,170
II 負債の部 (流動負債)			
前受金	前受正会員費	公益目的事業、法人会計の前受金	6,185,000
	前受賛助会員費	公益目的事業、法人会計の前受金	3,870,000
	前受外国会員費	公益目的事業、法人会計の前受金	375,000
	前受学生会員費	公益目的事業、法人会計の前受金	1,050,000
未払金	学会賞賞金、福利厚生費他	公1の表彰事業等に関わる未払金	1,375,129
	通信費、福利厚生費他	公2の出版事業等に関わる未払金	168,497
	電話料、名簿印刷費他	公益目的事業の未払金	51,429
	通信費、旅費、福利厚生費他	法人会計の未払金	564,656
仮受金	振替貯金他	公益目的事業、法人会計に関わる会費の仮受金	1,741,474
預り金	源泉所得税ほか	公益目的事業、法人会計に関わる預り金	280,851
流動負債合計			15,662,036
(固定負債)	退職給与引当金	事務職員3名に対する退職金の支払いに備えたもの	4,430,664
固定負債合計			4,430,664
負債合計			20,092,700
正味財産			41,785,470

平成 26 年度公益社団法人日本水産学会監査報告書

公益社団法人 日本水産学会
会長 渡部終五 殿

平成 27 年 3 月 7 日

公益社団法人 日本水産学会

監事 青木 一郎 (青木)

監事 瀬川 進 (瀬川)

監事 所 菜穂 (所)

公益社団法人日本水産学会の監査を監事監査規程に基づき実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員から業務の執行状況について報告をうけ、必要に応じて説明を求め、業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、平成 26 年度事業報告及び計算書類並びに附属明細書等を受領し、これらの書類について監査しました。

2. 監査結果

- 一、事業は法令及び定款等に従い、適正に実施されていることを認めます。
- 二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三、会計の処理及び財務の管理は、会計処理規程に基づく処理がなされており、計算書類に表示された金額を適正と認めます。

以上のとおり、監査の結果、適正であることを報告します。

第2号議案

公益社団法人日本水産学会 平成27年度役員候補者

役員選出規程第2条第3項に係る理事候補者

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 伊藤文成 (いとうふみなり) | 水産総合研究センター 理事 |
| 2. 大越和加 (おおこしわか) | 東北大学大学院農学研究科 准教授 |
| 3. 佐竹幹雄 (さたけみきお) | 日本海洋事業株式会社 顧問 |

第3号議案

名誉会員推薦の件

青木 宙

正 誤 表

頁	行	場 所	誤	正
6	11	6) 国際交流委員会の②	第2回日中韓水産学会合学同シンポジウム	第2回日中韓水産学会合同シンポジウム
6	16	6) 国際交流委員会の③	第2回日米英水産学会合学同シンポジウム	第2回日米英水産学会合同シンポジウム
13	表内24	過年度会員会費の増減	270,000	△30,000
29	1	表のタイトル	平成27年度正味財産予算書	平成27年度正味財産増減予算書
32	1	表のタイトル	平成27年度正味財産予算書内訳表	平成27年度正味財産増減予算書内訳表

**公益社団法人 日本水産学会
平成 27 年度第 3 回理事会議事録**

- 1 開催された日時 平成 27 年 3 月 29 日(日) 16 時 50 分～17 時 17 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
7 号館多目的研修室 (東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数
総数 20 名, 定足数 11 名
- 4 出席理事数 16 名
(本人出席) 吾妻行雄, 荒井克俊, 荒井修亮, 伊藤文成, 大越和加, 金子豊二, 木島明博, 嵯峨直恆, 佐竹幹雄, 青海忠久, 東海 正, 時村宗春, 古谷 研, 山下 洋, 渡邊良朗, 渡部終五
(監事出席) 瀬川 進, 青木一郎
(幹事出席) 荒川久幸, 石田真巳, 鈴木直樹, 鈴木美和, 二見邦彦

5 議 案

- 決議事項 第 1 号議案 「各理事の担当決定」の件
第 2 号議案 「東日本大震災災害復興支援検討委員会 (特別委員会) 委員の追加」の件
第 3 号議案 「入会承認」の件

報告事項

- ① 第 2 回理事会以降の職務執行の状況
② その他確認事項
(1) 平成 27 年度定時社員総会における議決事項の報告の件
(2) 平成 27 年度理事会開催日程の件
(3) 幹事紹介

6 議事の経過及びその結果

- (1) 定足数の確認等
渡部会長が定足数の充足を確認した後, 渡部会長を議長として議案の審議に入った。
- (2) 議案の審議状況及び議決結果等

(決議事項)

第 1 号議案 「各理事の担当決定」の件

理事の職務権限規程第 7 条 1 項に基づく担当を, 以下のとおり決定した。

会務	正	副
総務担当	金子豊二	東海 正
企画広報担当	東海 正	金子豊二
財務担当	山下 洋	渡邊良朗
編集担当	古谷 研	香川浩彦
学会賞担当	荒井克俊	渡邊良朗
シンポジウム担当	松山倫也	青海忠久
出版担当	木島明博	金子豊二
水産技術誌監修担当	伊藤文成	時村宗春
国際交流担当	青海忠久	古谷 研
水産教育担当	荒井克俊	青海忠久
水産政策担当	山下 洋	古谷 研
漁業・資源管理担当	渡邊良朗	山下 洋
水産利用担当	佐竹幹雄	渡部終五
水産増殖担当	木島明博	荒井克俊
水圏環境担当	山下 洋	松山倫也
男女共同参画担当	大越和加	金子豊二

社会連携担当	嵯峨直恆	松山倫也
将来計画担当	古谷 研	青海忠久
北海道支部, 地域連携担当	嵯峨直恆	
東北支部, 地域連携担当	吾妻行雄	
関東支部, 地域連携担当	時村宗春	
中部支部, 地域連携担当	飯田貴次	
近畿支部, 地域連携担当	荒井修亮	
中国・四国支部, 地域連携担当	関 伸吾	
九州支部, 地域連携担当	香川浩彦	

第2号議案「東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）委員の追加」の件

金子総務担当理事より、委員1名の選出が提案され、審議の結果、出席理事全員一致で可決した。

〔選出〕 神山孝史

第3号議案「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

（報告事項）

① 第2回理事会以降の職務執行の状況

・庶務関係

金子担当理事より、平成27年度定時社員総会において、第1号議案 平成26年度事業報告ならびに貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録承認の件、及び第2号議案増員による平成27年度役員（理事）選任の件、並びに第3号議案 名誉会員推薦の件について、すべて承認されたことが報告された。

・企画広報関係

東海担当理事 特になし

・財務関係

山下担当理事より、来年度も赤字が予想されるので、できるだけ早期に財務検討委員会を行う予定であることが報告された。

・編集関係

古谷担当理事 特になし

・学会賞関係

荒井（克）担当理事より、平成27年3月28日（土）正午から委員会が開催され、投票により新規の委員長と副委員長が選出されたこと、また推薦書の書式等をスケジュールに従って委員会で確認したことが報告された。

〔選出〕 委員長 和田時夫 副委員長 萩原篤志

・シンポジウム関係

松山担当理事 特になし

・出版関係

木島担当理事 特になし

・水産技術誌監修関係

時村担当理事 特になし

・国際交流関係

青海担当理事より、平成27年3月30日に委員会が開催予定であることが報告された。

・水産教育関係

荒井（克）担当理事 特になし

・水産政策関係

山下担当理事 特になし

・漁業・資源管理関係

渡邊担当理事 特になし

・水産利用関係

渡部担当理事 特になし

- 水産増殖関係
木島担当理事 特になし
 - 水圏環境関係
山下担当理事 特になし
 - 男女共同参画関係
金子担当理事より、先に配布したクリアファイルのQRコードからホームページにアクセスすると報告書のデータ全体を見ることができることがスマートフォンを用いて実演された。また、平成27年3月30日に委員会が開催予定であることが報告された。
 - 社会連携関係
嵯峨担当理事 特になし
 - 将来計画関係
古谷担当理事 特になし
 - 北海道支部、地域連携関係
嵯峨担当理事 特になし
 - 東北支部、地域連携関係
吾妻担当理事より、平成27年度日本水産学会秋季大会の準備を進め、次回6月の理事会で具体的な内容を示す予定であることが報告された。
 - 関東支部・地域連携関係
時村担当理事 特になし
 - 中部支部・地域連携関係
担当理事 欠席
 - 近畿支部・地域連携関係
荒井（修）担当理事 特になし
 - 中国・四国支部・地域連携担当
担当理事 欠席
 - 九州支部・地域連携関係
担当理事 欠席
 - 英文書籍監修委員会（特別委員会）
東海担当理事 特になし
 - 東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）
渡部担当理事 特になし
 - 水産学若手の会（特別委員会）
渡部担当理事より、平成27年3月28日に若手の会主催の企画展示のプレゼンテーションが行われ、ユニークな展示・説明が行われたものの若手以外の参加者が少なく残念であったこと、また平成27年3月31日に若手の会主催のシンポジウムが予定されていることが報告された。
 - 日本水産学会創立85周年記念事業委員会（特別委員会）
渡部担当理事より、次の報告があった。平成27年3月28日に国際シンポジウム実行委員会が開催されてPCOはトーヨー企画に決まった。また、シンポジウム実行委員会で予算を含む正式な計画を決定し、事業組織計画委員会で全体予算計画を決定し、これらの計画を次回6月の理事会に諮り、承認を得たい。
 - 水産・海洋科学研究連絡協議会関係
東海担当理事 特になし
- ② その他確認事項
- (1) 平成27年度定時社員総会における議決事項の確認
渡部会長から、大きな問題はなく議案通りに認められたので、理事会として計画通りに実行したいと依頼があった。
 - (2) 平成27年度理事会開催日程
金子総務担当理事から、平成27年度理事会の開催予定について候補日時が説明され、確認した。
 - (3) 幹事紹介

新任の幹事の紹介が行われた。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時17分、議長は閉会を宣言し、解散した。

新 入 会（平成27年3月29日承認）

正 会 員（1名） 関東 小味亮介
 外国会員（2名） 鄭 翼教, 李 眞愛
 学生会員（4名） 北海道 泉 ひかり 関東 丸山竜平, 吉田和平 中部 鈴木侑紀

名 誉 会 員

青木 宙, 石田祐三郎, 板澤靖男, 岡市友利, 落合 明, 小野征一郎, 楠田理一, 熊井英水, 小泉千秋, 鴻巣章二, 坂口守彦, 坂本 亘, 清水 誠, 鈴木たね子, 隆島史夫, 田中昌一, 出口吉昭, 能勢幸雄, 野村 稔, 橋本周久, 平山和次, 藤井建夫, 山中英明, 渡辺悦生, 渡邊 武

平成27年度役員（理事および監事）

理 事

会 長 渡部終五（水産利用担当）
 副 会 長 古谷 研（編集担当, 国際交流担当, 水産政策担当, 将来計画担当）
 青海忠久（シンポジウム担当, 国際交流担当, 水産教育担当, 将来計画担当）
 理 事 荒井克俊（学会賞担当, 水産教育担当, 水産増殖担当）
 伊藤文成（水産技術誌監修担当）
 大越和加（男女共同参画推進担当）
 金子豊二（総務担当, 企画広報担当, 出版担当, 男女共同参画担当）
 木島明博（出版担当, 水産増殖担当）
 佐竹幹雄（水産利用担当）
 東海 正（総務担当, 企画広報担当）
 松山倫也（シンポジウム担当, 水産環境担当, 社会連携担当）
 山下 洋（財務担当, 水産政策担当, 漁業・資源管理担当, 水産環境担当）
 渡邊良朗（財務担当, 学会賞担当, 漁業・資源管理担当）
 嵯峨直恆（北海道支部担当, 地域連携担当, 社会連携担当）
 吾妻行雄（東北支部担当, 地域連携担当）
 時村宗春（関東支部担当, 地域連携担当, 水産技術誌監修担当）
 飯田貴次（中部支部担当, 地域連携担当）
 荒井修亮（近畿支部担当, 地域連携担当）
 関 伸吾（中国・四国支部担当, 地域連携担当）
 香川浩彦（九州支部担当, 地域連携担当, 編集担当）

監 事

青木一郎, 瀬川 進
 所 英樹（役員候補者等選出規程第2条による）

平成27年度支部長, 支部幹事

支 部 長（北海道支部）嵯峨直恆,（東北支部）吾妻行雄,（関東支部）中山一郎,（中部支部）皆川 恵,（近畿支部）荒井修亮,（中国・四国支部）関 伸吾,（九州支部）香川浩彦

支 部 幹 事

北海道支部（19名）

荒井克俊, 飯田浩二, 上田 宏, 浦和茂彦, 尾島孝男, 埴山雅秀, 金岩 稔, 木村暢夫, 嵯峨直恆, 櫻井 泉, 桜井泰憲, 塩本明弘, 都木靖彰, 高柳志朗, 永田光博, 宮下和夫, 宮園 章, 安井 肇, 横内

克巳

東北支部（14名）

吾妻行雄，伊藤絹子，井ノ口伸幸，遠藤宜成，尾定 誠，片山知史，神山孝史，木島明博，佐藤 實，後藤友明，酒井敬一，巢山 哲，原 素之，藤田恒雄

関東支部（43名）

會田勝美，青木一郎，朝比奈 潔，有元貴文，石丸 隆，稲田博史，潮 秀樹，大久保範聡，大島敏明，岡崎恵美子，岡田 茂，岡本信明，加藤雅也，金子豊二，金庭正樹，河村知彦，北田修一，木村凡，黒倉 寿，小林牧人，佐藤秀一，佐野元彦，白木原国雄，杉田治男，竹内俊郎，田中栄次，塚本勝巳，東海 正，長島裕二，中田 薫，野口昌之，廣野育生，古谷 研，舞田正志，松永茂樹，八木信行，山川 卓，山下倫明，吉崎悟朗，良永知義，和田時夫，渡邊良朗，渡部終五

中部支部（24名）

秋山信彦，淡路雅彦，飯田貴次，板倉 茂，大泉 徹，大慶則之，岡内正典，奥澤公一，片野 修，加納 哲，河村功一，鈴木伸洋，青海忠久，田中 彰，田中秀樹，富永 修，原田泰志，古丸 明，本多仁，宮台俊明，三輪 理，山本剛史，吉岡 基，吉松隆夫

近畿支部（17名）

荒井修亮，安藤正史，江口 充，太田博巳，家戸敬太郎，川合真一郎，小林志保，日下部敬之，左子芳彦，澤山茂樹，菅原達也，反田 實，益田玲爾，三田村啓理，光永 靖，山下 洋，矢持 進

中国・四国支部（21名）

足立真佐雄，今井千文，上 真一，海野徹也，河原栄二郎，酒井治己，小路 淳，関 伸吾，長澤和也，野田幹雄，花岡研一，浜口昌巳，濱野 明，濱野龍夫，益本俊郎，満谷 淳，南 卓志，森岡克司，山元憲一，山本民次，鷲尾圭司

九州支部（23名）

荒川 修，石松 惇，伊丹利明，稲野俊直，大嶋雄治，香川浩彦，門脇秀策，神田 猛，越塩俊介，阪倉良孝，清野聡子，征矢野清，田岡洋介，田中竜介，中田英昭，萩原篤志，幡手英雄，松岡達郎，松山倫也，虫明敬一，望岡典隆，山口敦子，吉田照豊

平成 27 年度委員および幹事

委 員

編集委員会

委員長 佐藤秀一
副委員長 潮 秀樹，片山知史，舞田正志
委員 有路昌彦，淡路雅彦，井上広滋，大久保範聡，大迫一史，大嶋雄治，岡田 茂，柿沼 誠，木村 凡，栗田 豊，黒木真理，阪倉良孝，佐野元彦，神保 充，高木 力，高津哲也，田川正朋，濱田友貴，平松一彦，古板博文，益田玲爾，水田浩之，宮下和土，森岡克司，八木信行，吉崎悟朗，吉永龍起

企画広報委員会

委員長 浅川修一
副委員長 長島裕二，松倉隆一
委員 足立久美子，糸井史朗，岩滝光儀，久田 孝，坂本 崇，鈴木直樹，高橋祐一郎，野方靖行，兵藤 晋，牧野光琢，山崎 誠，笠井久会，高見秀輝，三田村啓理，深田陽久，前田広人，柳本 卓

学会賞選考委員会

委員長 和田時夫
副委員長 萩原篤志
委員 荒井克俊，大嶋雄治，落合芳博，河村知彦，都木靖彰，長島裕二，廣野育生，松永茂樹，山川 卓，山下倫明，山下 洋，吉崎悟朗，渡邊良朗

シンポジウム企画委員会

委員長 高木 力
副委員長 益本俊郎

委員 井上広滋, 大井淳史, 金岩 稔, 金庭正樹, 久田 孝, 古丸 明, 高谷智裕, 田代有里, 東藤 孝, 福島英登, 藤森康澄, 益田玲爾, 横山雄彦, 若松宏樹
 支部委員 (北海道) 井尻成保, (東北) 山田秀秋, (関東) 八木信行, (中部) 上原伸二, (近畿) 吉田天士, (中国・四国) 河原栄二郎, (九州) 望岡典隆

出版委員会

委員長 吉崎悟朗
 副委員長
 委員 水圏生産科学 塩出大輔, 高橋一生, 矢田 崇, 横田賢史
 水圏生命科学 浅川修一, 石原賢司, 井上広滋, 岡崎惠美子, 尾島孝男, 長崎慶三
 ベルソープックス担当 山本民次

水産環境保全委員会

委員長 大越和加
 副委員長 門谷 茂
 委員 東 信行, 足立真佐雄, 伊藤 靖, 今井一郎, 大嶋雄治, 奥村 裕, 児玉真史, 佐野光彦, 清野聡子, 田子泰彦, 田中丈裕, 長崎慶三, 西川哲也, 原 武史, 広石伸互, 堀井貴司, 待場 純, 三浦正治, 三田村啓理, 持田和彦, 山本民次

漁業懇話会委員会

委員長 山川 卓
 副委員長 藤田 薫
 委員 秋山清二, 江幡惠吾, 大泉 宏, 梶川和武, 片山知史, 木下弘実, 小糸智子, 浅海 茂, 清水健一, 鳥澤眞介, 中屋新二, 松井隆宏, 向井 徹, 山下秀幸, 吉本慎也

水産利用懇話会委員会

委員長 金庭正樹
 副委員長 岡崎惠美子, 設樂弘之
 委員 青木仁史, 芦田慎也, 石内幸典, 潮 秀樹, 兼田典幸, 菅野信弘, 神部武重, 久田 孝, 國本弥衣, 久保田光俊, 黒瀬光一, 斎藤俊郎, 佐藤 繁, 下條 学, 武田 淳, 田中幹雄, 中田邦彦, 松嶋良次, 松永茂樹, 松宮政弘, 森 司

水産増殖懇話会委員会

委員長 高橋明義
 副委員長 白鳥 勝, 杉田治男
 委員 一色 正, 稲垣光雄, 岩下 誠, 海野徹也, 大越徹夫, 阪倉良孝, 佐藤秀一, 清水智仁, 鈴木伸洋, 都木靖彰, 田川正朋, 寺田竜太, 野田幹雄, 林総一郎, 廣野育生, 宮下 盛, 益本俊郎, 良永知義

国際交流委員会

委員長 佐藤秀一
 副委員長 萩原篤志
 委員 安 東賢, 埴山雅秀, 黒倉 壽, 胡 夫祥, 小島隆人, 小山次朗, Carlos A. Strussmann, 東海 正, 野村一郎, 廣野育生, 向井 徹, 山下 洋

選挙管理委員会

委員長 永井宏史
 委員 高橋一生, 浜崎活幸

水産教育推進委員会

委員長 小島隆人
 副委員長 荒川久幸, 神保 充
 委員 安藤正史, 天野勝文, 市川正和, 糸井史朗, 上田勝彦, 植松一眞, 大迫一史, 大島俊一郎, 大嶋雄治, 太田耕平, 大富 潤, 角埜 彰, 河原栄二郎, 木下滋晴, 久下善生, 窪川かおる, 古丸 明, 酒井正博, 酒井隆一, 佐久間美明, 佐藤秀一, 清水 孝, 鈴木 徹, 鈴木秀和, 須田有輔, 瀬戸雅文, 高橋 潤, 高橋是太郎, 田川正朋, 武田重信, 多田 稔, 田中竜介, 田中礼士, 野田幹雄, 松岡達郎, 村上正信, 横山芳博, 吉川 尚, 吉田天士, 良永知義, 米田千恵, 婁 小波

水産技術誌監修委員会

委員 長 東海 正
 副委員 長 渡部俊広
 委 員 市川正和, 金庭正樹, 佐藤秀一, 高柳和史, 田中 眞

水産政策委員会

委員 長 八木信行
 副委員 長 中田 薫
 委 員 有路昌彦, 板倉 茂, 大森敏宏, 北門利英, 木村郁夫, 後藤友明, 棧敷孝浩, 末永芳美, 永田光博, 原田厚, 藤田恒雄, 牧野光琢, 松田裕之, 森下丈二, 山川 卓

男女共同参画推進委員会

委員 長 岡崎恵美子
 副委員 長 窪川かおる
 委 員 石田真巳, 金子豊二, 杉崎宏哉, 濱田奈保子, 渡邊千夏子

英文書籍監修委員会 (特別委員会)

委員 長 會田勝美
 委 員 黒倉 壽, 東海 正

東日本大震災災害復興支援検討委員会 (特別委員会)

委員 長 渡部終五
 委 員 吾妻行雄, 石丸 隆, 大越和加, 大関芳冲, 金子豊二, 神山孝史, 木島明博, 黒倉 壽, 東海 正, 長島裕二, 森田貴己, 八木信行, 山下 洋, 和田時夫

水産学若手の会 (特別委員会)

委員 長 水澤寛太
 委 員 阿部博和, 大串伸吾, 小川 健, 海部健三, 小島大輔, 高梨愛梨, 竹谷裕平, 竹内 裕, 萩原聖土, 橋本加奈子, 藤田雅紀, 馬久地みゆき, 南 憲史, 吉永龍起

創立 85 周年記念事業委員会 (特別委員会)

委員 長 渡部終五
 副委員 長 古谷 研, 青海忠久
 委 員 金子豊二, 佐藤秀一, 東海 正

財務検討委員会 (特別委員会)

委員 長 山下 洋
 委 員 渡邊良朗, 金子豊二, 東海 正, 荒川久幸, 久田 孝, 二見邦彦

平成 27 年度秋季大会委員長 佐藤 實

平成 28 年度春季大会委員長 中山一郎

幹 事

総 務 荒川久幸
 庶 務 石田真巳, 鈴木直樹, 鈴木美和
 会 計 久田 孝, 二見邦彦
 編 集 寺原 猛, 神尾道也
 企画広報 池田大介, 岩田繁英
 出 版 矢澤良輔
 シンポジウム 鳥澤眞介
 懇話会等 西谷 豪 (水産環境保全委員会担当)
 黒木真理 (漁業懇話会委員会担当)
 松嶋良次 (水産利用懇話会委員会担当)
 水澤寛太 (水産増殖懇話会委員会担当)
 国際交流 芳賀 穰, 筒井繁行
 水産教育推進 内田圭一
 水産技術誌監修 村上恵祐

男女共同参画推進 二見邦彦

平成 27 年度日本水産学会春季大会

平成 27 年度日本水産学会春季大会の研究発表およびシンポジウムは、3 月 27 日(金) から 3 月 31 日(火) まで、東京海洋大学品川キャンパス(東京都港区)において、春季大会ホームページ上に掲載されたプログラムにより開催いたしました。

なお、研究発表に関する変更ならびに各講演の座長氏名は下記の通りです。

記

発表取消

- 1195 東日本大震災後の北太平洋マダラの価格及び資源量の変化
°梶 圭佑・松田裕之(横浜国立大学大学院)・増田義男(宮城県水産技術総合センター)

口頭発表の演者の変更

- 947 村田 龍(国立衛研)→大城直雅(国立衛研)
966 清水 聖(広大院生物圏科)→堀 貫治(広大院生物圏科)

講演要旨訂正

- 824 有機態鉄の添加と海藻生育の関係性評価
°山本光夫(東大海洋アライアンス)・劉 丹(有明高専)

座長名一覧表

第1会場		
講演番号	氏名	所属
101~104	松下 吉樹	長大院水環
105~108	川内 陽平	水研セ西海水研
109~112	中村 武史	水大校
113~116	高橋 竜三	水研セ水工研
117~119	松裏 知彦	水研セ水工研
120~123	藤田 伸二	長大院水環
124~127	高木 力	北大院水
128~130	光永 靖	近大院農
131~134	今泉 智人	水研セ水工研
135~138	小島 隆人	日大生物資源
139~142	藤森 康澄	北大院水
143~146	稲田 博史	海洋大院
147~149	高山 剛	水研セ水工研
150~153	貞安 一廣	水研セ開発セ
154~156	越智 洋介	水研セ水工研

第2会場		
講演番号	氏名	所属
201~204	横井 勇人	東北大院農
205~208	藤原 真	道さけます内水試
209~211	奥澤 公一	水研セ増養殖研
212~215	森山 俊介	北里大海洋
216~219	鈴木 徹	東北大院農
220~223	長澤 一衛	東北大院農
224~227	宮西 弘	東大院農
228~231	廣井 準也	聖マリアノナ医大解剖
232~236	日下部郁美	東大大海研
237~241	山本 洋嗣	海洋大院
242~245	識名 信也	国立台湾海洋大学
246~249	松山 倫也	九大院農
250~253	柴田 玲奈	水研セ水工研
254~257	張 成年	水研セ中央水研
258~261	米山 和良	鹿大水
262~264	安樂 和彦	鹿大水
265~267	棟方 有宗	宮城教育大
268~272	杉本 親要	琉球大院理工
273~275	岩田 容子	東大大海研
276~278	池田 譲	琉球大理

第3会場		
講演番号	氏名	所属
303~307	森田 晶子	水研セ北水研
308~311	渡邊 良朗	東大大海研
312~315	長谷川 功	水研セ北水研
316~319	小西 健志	日鯨研
320~323	佐藤 俊平	水研セ北水研
324~326	桜井 泰憲	北大院水
327~329	飯田 真也	水研セ日水研
331~337	木村 伸吾	東大院新領域/大海研
338~341	栗田 豊	水研セ東北水研
342~344	工藤 孝也	広島総研水海技セ
345~348	山下 洋	京大フィールド研
349~352	藤岡 紘	水研セ国際水研
353~355	安田 十也	水研セ西海水研
357~358	福田 美亮	水研セ水工研
359~362	牧口 祐也	日大生物資源
363~366	渡邊 俊	日大生物資源
367~370	柳本 卓	水研セ中央水研
371~374	小路 淳	広大院生物園科

第4会場		
講演番号	氏名	所属
401~405	内田 基晴	水研セ瀬水研
406~410	鬼塚 年弘	水研セ北水研
411~415	堀越 彩香	東北大院農
416~418	河村 知彦	東大大海研
420~423	干川 裕	道中央水試
424~428	横田 高士	水研セ北水研
429~432	野田 琢嗣	京大院情報
433~436	石原 大樹	水研セ国際水研
437~439	猿渡 敏郎	東大大海研
440~443	富永 修	福井県大海洋生資
444~447	山田雄一郎	北里大海洋
448~457	10 課題の関係者から座長選出	

第5会場		
講演番号	氏名	所属
501~505	吉松 隆夫	三重大院生資
506~509	遠藤 雅人	海洋大院
510~514	滝井 健二	近大水研
515~519	樋口健太郎	水研セ西海水研
520~524	渡部 論史	水研セ増養殖研
525~528	高志 利宣	水研セ西海水研
529~533	竹内 裕	海洋大
534~537	伏見 浩	福山大内海研
538~542	岡 雅一	水研セ西海水研
543~546	澤田 好史	近大水研
547~551	芳賀 穰	海洋大院
552~555	松田 浩一	三重水研
556~560	山本 義久	水研セ瀬水研
561~565	升間 主計	近大水研
566~569	吉永 龍起	北里大海洋生命
570~573	松田 圭史	水研セ増養殖研

第6会場		
講演番号	氏名	所属
601~605	大嶋俊一郎	高知大院黒潮
606~610	廣野 育生	海洋大院
611~615	宮台 俊明	福井県大海洋生資
616~619	酒井 正博	宮崎大農
620~622	近藤 秀裕	海洋大院
623~625	岩田 繁英	海洋大院
626~629	延東 真	海洋大
630~633	高野 倫一	水研セ増養殖研
634~638	白樫 正	近大水研
639~643	佐野 元彦	海洋大院
644~648	池田 実	東北大院農
649~653	関野 正志	水研セ中央水研
654~657	今井 秀行	琉球大理
658~661	中嶋 正道	東北大院農
662~664	坂本 崇	海洋大院
665~669	高木 基裕	愛媛大南水研セ
670~673	荒井 克俊	北大院水

第7会場		
講演番号	氏名	所属
701~705	嶋田 宏	道中央水試
706~710	長 由扶子	東北大院農
711~715	松原 賢	佐賀有明水振七
716~718	紫加田知幸	水研七瀬水研
719~721	今井 一郎	北大院水
722~725	舊谷亜由美	水研七中央水研
726~728	和田 実	長大院水環
729~732	足立真佐雄	高知大農
733~736	伊藤 克敏	水研七瀬水研
737~740	小山 次朗	鹿大水
741~744	堀口 敏宏	国環研
745~748	林 正裕	海生研
749~753	重信 裕弥	水研七中央水研
754~758	山本祥一郎	水研七増養殖研

第8会場		
講演番号	氏名	所属
801~805	落合 芳博	東海大海洋
806~810	浦野 直人	海洋大院
811~815	岸村 栄毅	北大院水
816~820	柿沼 誠	三重大院生資
821~825	神尾 道也	海洋大院
826~829	安元 剛	北里大海洋

第9会場		
講演番号	氏名	所属
901~903	大泉 徹	福井県大海洋生資
904~907	植木 暢彦	鈴廣魚肉たんぱく研
908~911	木村 郁夫	鹿大水
912~915	吉岡 武也	道工技七
916~919	今野久仁彦	北海道院水
920~923	塚正 泰之	近大農
924~927	大迫 一史	海洋大院
928~930	松川 雅仁	福井県大海洋生資
931~934	橘 勝康	長大院水環
935~938	岡崎恵美子	海洋大院
939~942	長島 裕二	海洋大院
943~945	松嶋 良次	水研七中央水研
946~948	鈴木 敏之	水研七中央水研
949~952	石原 賢司	水研七中央水研
953~956	石崎松一郎	海洋大院
957~960	堀 貫治	広大院生物圏科
961~963	高田健太郎	東大院農
964~966	岡田 茂	東大院農
967~969	永井 宏史	海洋大院

第10会場		
講演番号	氏名	所属
1001~1004	平松 一彦	東大大海研
1005~1007	市野川桃子	水研七中央水研
1008~1010	福若 雅章	水研七西海水研
1011~1014	星野 昇	水研七中央水研
1015~1018	松田 裕之	横浜国大環境情報
1019~1021	岡村 寛	水研七中央水研
1022~1025	松石 隆	北大院水
1026~1029	岡本 俊	水研七北水研
1030~1033	村瀬 弘人	水研七国際水研
1034~1036	松倉 隆一	水研七日水研
1037~1039	鈴木 崇史	東大院農
1040~1042	石川 智士	地球研
1043~1046	多田 稔	近大
1047~1050	若松 宏樹	水研七中央水研
1051~1052	宮田 勉	水研七中央水研
1053~1055	有路 昌彦	近大農

会員の所属変更

(平成27年3月・4月の会員からの異動連絡を元に作成していますので、実際の異動月とは異なる場合があります。)

会 員 名	異 動 前	異 動 後
青 木 宙	海洋大	早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構
阿久津 哲也	静岡水技研	静岡県庁
飯 田 碧	琉球大理	新潟大臨海実験所
生 田 和正	水産庁	水研セ本部
石 田 直也	長崎水試	長崎県対馬振興局
石 田 昌史	西南水産(株)	西南水産(株)上浦事業所
板 倉 茂	水研セ増養殖研	水産庁
市 川 光太郎	総合地球環境学研究所	京大フィールド科セ
今 道 力 敬	福井大医学部	旭川医科大学医学部
岩 崎 俊 秀	水研セ本部	水研セ東北水研
大 関 芳 沖	水研セ東北水研	水研セ本部
大 貫 努	水研セ北水研	水研セ東北水研宮古
小 川 健	広島修道大学	専修大学経済学部
小 澤 秀 夫	東大院農	神奈川工科大学応用バイオ科学部
落 合 芳 博	東海大海洋	東北大院農
笠 井 亮 秀	京大フィールド科セ	北大院水
加 藤 豪 司	水研セ増養殖研	海洋大
加 藤 雅 也	SEAFDEC	水研セ中央水研
金 子 泰 通	日本工営(株)新潟支店	日本工営(株)社会システム事業部
栗 田 喜 久	九大水実	東北大院農
栗 林 貴 範	道中央水試	北海道原子力環境センター
煙 山 彰	岩手県沿岸広域振興局	岩手内水技セ
酒 井 敬 一	気仙沼水試	宮城水技セ
棧 敷 孝 浩	水研セ本部	水研セ中央水研
須 藤 竜 介	海洋大	水研セ増養殖研
高 橋 鉄 美	国立遺伝学研究所	兵庫県立大学自然・環境科学研究所
高 橋 範 行	近大水産養殖種苗センターすさみ事業場	近大水産養殖種苗センター奄美事業場
高 橋 竜 三	北大フィールド科セ	水研セ水工研
團 重 樹	水研セ瀬水研玉野	水研セ瀬水研百島
辻 浩 司	網走水試	釧路水試
手 塚 信 弘	水研セ能登島栽漁セ	水研セ日水研宮津
時 村 宗 春	水研セ中央水研	(公財)海洋漁業協力財団
中 束 明 佳	水研セ国際水研	(株)田中三次郎商店
長 倉 義 智	水研セ東北水研宮古	水研セ東北水研
中 野 紀 彦	北海道函館水産高等学校	北海道厚岸翔洋高等学校
中 道 礼一郎	海洋大	水研セ中央水研
樋 口 理 人	水研セ西海水研奄美	水研セ増養殖研志布志
樋 口 正 仁	佐渡海区漁業調整委員会	新潟県庁
福 島 英 登	水大校	日大生物資源
富 士 泰 期	京大院農	京都府庁
堀 井 善 弘	都島しょ総セ	東京都三宅支庁
三 浦 正 之	山梨県庁	山梨水技セ忍野支所
三 島 康 裕	山形県立加茂水産高等学校	北海道小樽水産高等学校
宮 原 寿 恵	三重大院生資	東農大生物産業

会 員 名	異 動 前	異 動 後
森 真由美	石川水総セ	石川県庁
山 根 広 大	東大大気海洋研	岩手水技セ
由 上 龍 嗣	水研セ西海水研	水研セ中央水研
吉 田 奈 緒	京大院情報	神奈川県庁
鷺 尾 洋 平	東北大院農	京大院農
渡 辺 智 治	道さけます内水試道東	道さけます内水試
渡 辺 幸 彦	(公財)海洋生物環境研究所中央研究所	(公財)海洋生物環境研究所実証試験場

機関の名称変更

変 更 前	変 更 後
独立行政法人水産総合研究センター	国立研究開発法人水産総合研究センター
独立行政法人国際農林水産業研究センター	国立研究開発法人農林水産業研究センター
独立行政法人海洋研究開発機構	国立研究開発法人海洋研究開発機構
独立行政法人産業技術総合研究所	国立研究開発法人産業技術総合研究所
独立行政法人土木研究所	国立研究開発法人土木研究所
独立行政法人理化学研究所	国立研究開発法人理化学研究所
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
独立行政法人国立環境研究所	国立研究開発法人国立環境研究所

訃 報

下記の会員がご逝去された旨、ご連絡をいただきました。
ここに謹んで哀悼の意を表し、ご通知申し上げます。

正会員	関東支部	宇佐美 葉 氏
正会員	関東支部	亀岡暄一 氏
正会員	関東支部	渡邊武彦 氏
正会員	中部支部	小関宏明 氏